

奄美市
男女共同参画に関する市民意識調査
報告書

平成 30 年 2 月
奄 美 市

目次

第1章 アンケート調査概要.....	1
1. 調査目的.....	1
2. 調査概要と回収状況.....	1
3. 報告書利用上の注意.....	1
第2章 アンケート調査結果.....	3
1. 回答者の属性について.....	3
(1) 性別.....	3
(2) 年齢.....	3
(3) 結婚の有無.....	4
(4) 世帯構成.....	4
(5) 夫婦の就労状況.....	5
(6) 居住地区.....	6
2. 男女平等の意識について.....	7
(1) 各分野の男女の地位の平等感.....	7
3. 就業について.....	13
(1) 女性が職業を持つことについての意識.....	13
(2) 現在の職業.....	15
(3) 今後希望する就労形態.....	17
(4) 職場における性別による処遇の違い.....	19
(5) 職場におけるリーダー・管理職への昇進希望.....	21
(6) 子育てや介護等の家庭の事情を抱えながら、働きやすい職場であるか.....	24
(7) 政治・経済・地域・職場など各分野で女性のリーダーを増やすときに障害となるもの.....	27
(8) 女性が出産後も働き続けるために、家庭・社会・職場において必要なこと.....	29
4. 家庭生活について.....	31
(1) 家庭における夫婦の役割分担について.....	31
5. 仕事と家庭・地域への取組について.....	37
(1) 男女の「仕事」、「家庭生活」、「地域活動」の優先度.....	37
(2) 男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動へ積極的に参加するために必要なこと.....	40
6. 男女の人権について.....	44
(1) 配偶者や親しい異性から暴力や嫌がらせを受けた経験.....	44
(2) 男女間における暴力を防止するために必要なこと.....	48
7. 男女共同参画社会について.....	50
(1) 「男女共同参画社会」を形成していくために市が力を入れるべきこと、「男女共同参画社会」の実現に向けた意見・要望（自由意見）.....	50
資料 調査票.....	59

第1章 アンケート調査概要



1. 調査目的

奄美市民の男女平等や男女の人権、家庭・地域における男女共同参画の意識と実態を把握し、男女共同参画社会づくりに向けた施策の推進・市民サービスの充実を図るための基礎資料を得ることを目的とする。

2. 調査概要と回収状況

- (1) 調査地域：奄美市全域
- (2) 調査対象：奄美市在住の20歳以上の男女1,500名
- (3) 抽出方法：住民基本台帳より無作為抽出
- (4) 調査方法：郵送による配布・回収
- (5) 調査期間：平成29年10月～11月
- (6) 回収状況：回収数470（回収率：31.3%）

3. 報告書利用上の注意

- 集計結果は百分率で算出し、小数点第2位を四捨五入しているため、百分率の合計が100%にならない場合がある。
- 複数回答の場合は、回答の総数が有効回収数の実数より多くなるので、合計は100%を超える場合がある。
- 集計表中の「性別」及び「年代等」の区分けを行っているが、各区分に無回答のデータが含まれているため、各区分の合計と総計の数値が異なる場合がある。

第2章 アンケート調査結果

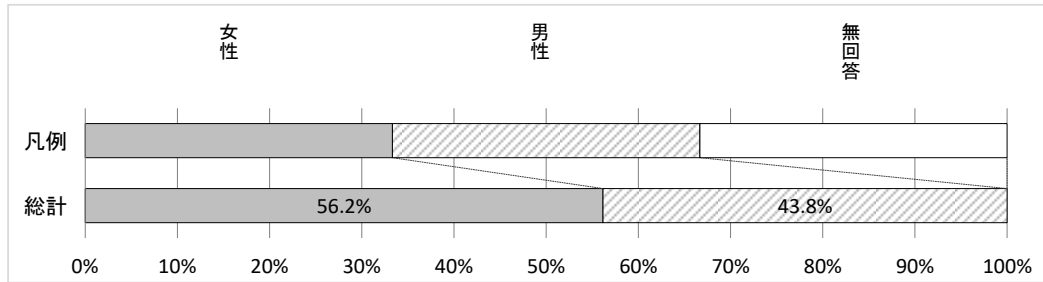
1. 回答者の属性について

(1) 性別

【問 1】性別について。(単一回答)

アンケート回答者の性別については、「女性」が56.2%、「男性」が43.8%となっている。

【図表 1-1 性別】



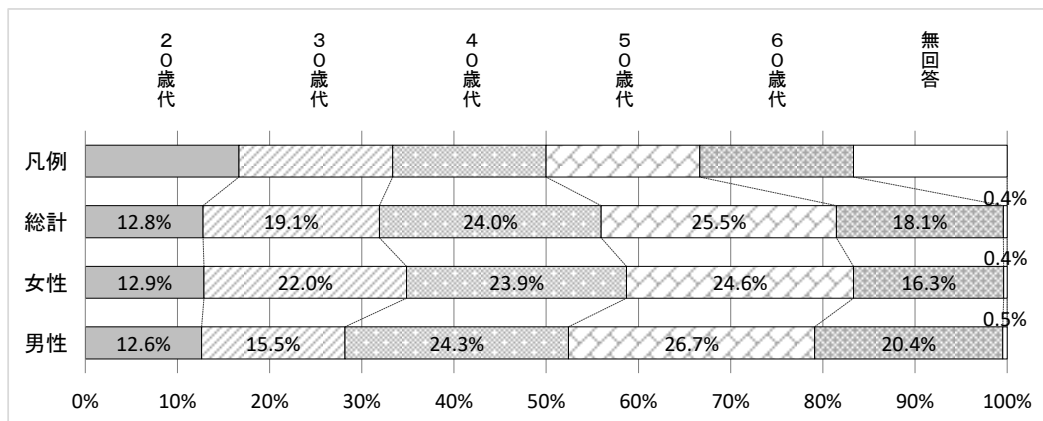
上段: 回答数(人) 下段: 構成比 (%)	回答者数	女性	男性	無回答
		総計	470 100.0%	264 56.2%

(2) 年齢

【問 2】年齢について。(単一回答)

アンケート回答者の年齢について、全体をみると「50歳代」が25.5%と最も多く、次いで「40歳代(24.0%)」、「30歳代(19.1%)」の順となっている。

【図表 1-2 年齢】



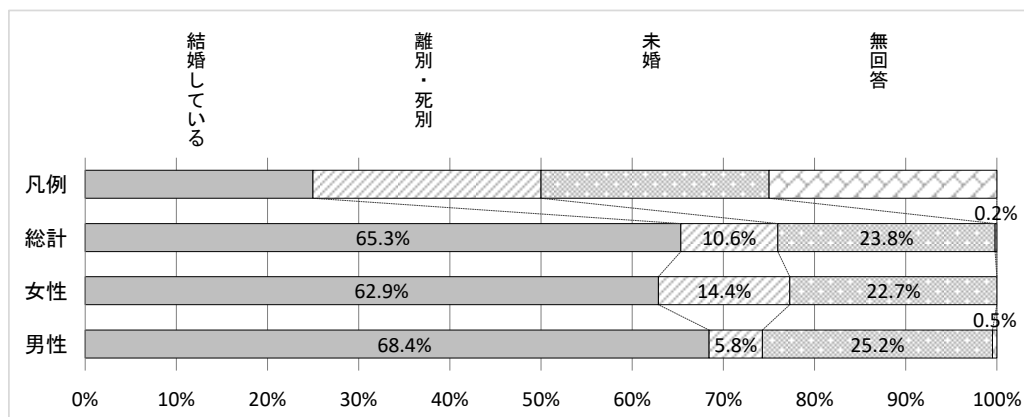
上段: 回答数(人) 下段: 構成比 (%)	回答者数	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	無回答	
		総計	470 100.0%	60 12.8%	90 19.1%	113 24.0%	120 25.5%	85 18.1%
性別	女性	264 100.0%	34 12.9%	58 22.0%	63 23.9%	65 24.6%	43 16.3%	1 0.4%
	男性	206 100.0%	26 12.6%	32 15.5%	50 24.3%	55 26.7%	42 20.4%	1 0.5%

(3) 結婚の有無

【問3】結婚について。(単一回答)

アンケート回答者の結婚の状況について、全体をみると「結婚している」が65.3%と約7割を占め、「未婚(23.8%)」、「離別・死別(10.6%)」の順となっている。

【図表 1-3 結婚の有無】



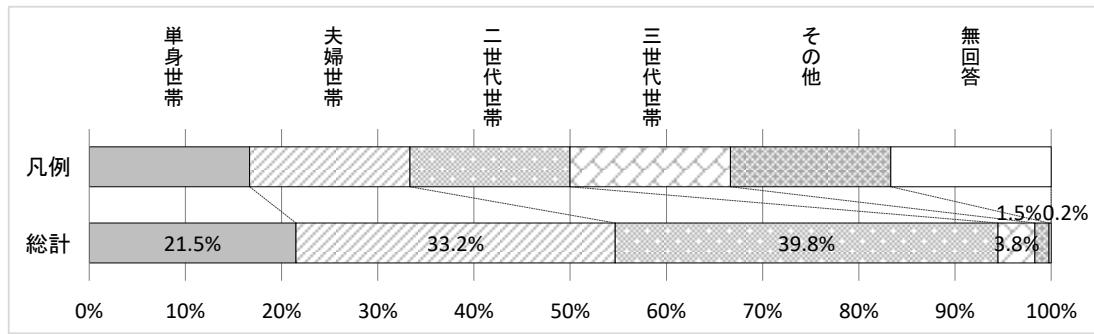
		回答者数	結婚している	離別・死別	未婚	無回答
上段: 回答数(人) 下段: 構成比(%)						
総計		470	307	50	112	1
		100.0%	65.3%	10.6%	23.8%	0.2%
性別	女性	264	166	38	60	0
		100.0%	62.9%	14.4%	22.7%	0.0%
性別	男性	206	141	12	52	1
		100.0%	68.4%	5.8%	25.2%	0.5%

(4) 世帯構成

【問4】世帯構成について。(単一回答)

アンケート回答者の世帯構成については、「二世帯世帯」が39.8%と最も多く、次いで「夫婦世帯(33.2%)」、「単身世帯(21.5%)」の順となっている。

【図表 1-4 世帯構成】



		回答者数	単身世帯	夫婦世帯	二世代世帯	三世代世帯	その他	無回答
上段: 回答数(人) 下段: 構成比(%)								
総計		470	101	156	187	18	7	1
		100.0%	21.5%	33.2%	39.8%	3.8%	1.5%	0.2%
性別	女性	264	54	84	108	14	3	1
		100.0%	20.5%	31.8%	40.9%	5.3%	1.1%	0.4%
性別	男性	206	47	72	79	4	4	0
		100.0%	22.8%	35.0%	38.3%	1.9%	1.9%	0.0%

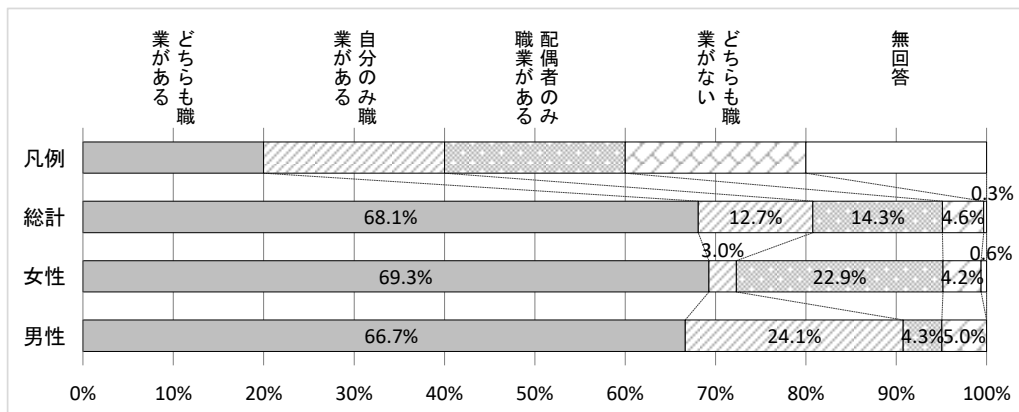
(5) 夫婦の就労状況

※問3で「結婚している」を選択された方のみ回答

【問5】夫婦の就労状況について。(単一回答)

アンケート回答者における夫婦の就労状況について、全体をみると「どちらも職業がある」が68.1%と約7割を占めており、次いで「配偶者のみ職業がある(14.3%)」、「自分のみ職業がある(12.7%)」の順となっている。また、回答者の約2割で“夫”のみが職業を持っている状況である。

【図表 1-5 夫婦の就労状況】



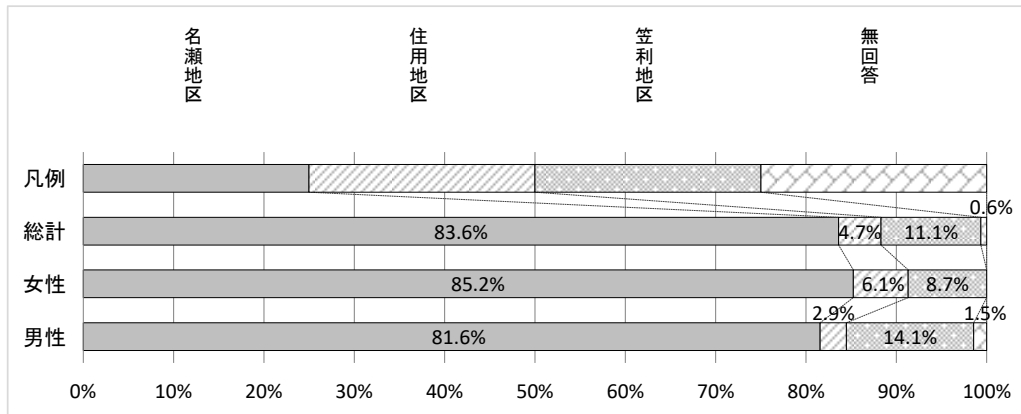
		回答者数	どちらも職業がある	自分のみ職業がある	配偶者のみ職業がある	どちらも職業がない	無回答
上段: 回答数(人) 下段: 構成比(%)							
総計		307	209	39	44	14	1
		100.0%	68.1%	12.7%	14.3%	4.6%	0.3%
性別	女性	166	115	5	38	7	1
		100.0%	69.3%	3.0%	22.9%	4.2%	0.6%
性別	男性	141	94	34	6	7	0
		100.0%	66.7%	24.1%	4.3%	5.0%	0.0%

(6) 居住地区

【問6】居住地区について。(単一回答)

アンケート回答者の居住地区については、「名瀬地区」が83.6%と約8割を占めている。

【図表 1-6 居住地区】



		回答者数	名瀬地区	住用地区	笠利地区	無回答
上段: 回答数(人)						
下段: 構成比(%)						
総計		470	393	22	52	3
		100.0%	83.6%	4.7%	11.1%	0.6%
性別	女性	264	225	16	23	0
		100.0%	85.2%	6.1%	8.7%	0.0%
性別	男性	206	168	6	29	3
		100.0%	81.6%	2.9%	14.1%	1.5%

2. 男女平等の意識について

(1) 各分野の男女の地位の平等感

【問7】あなたは、次のような分野で男女の地位が平等になっていると思いますか。
(分野ごとに単一回答)

全体でみると、「平等である」と回答した割合は、「学校教育の中で」(66.0%)が最も高く、次いで、「家庭の中で」(40.9%)、「法律や制度で」(37.4%)となっている。また、“男性が優遇されている(「男性の方が非常に優遇されている」+「どちらかといえば男性の方が優遇されている」)”との回答は、「社会通念、慣習・しきたりなどで」が71.5%と最も多く、次いで「地域社会の中で(52.5%)」、「職場の中で(44.5%)」の順となっている。また、この“男性が優遇されている”の回答は、全ての分野において、“女性が優遇されている(「女性の方が非常に優遇されている」+「どちらかといえば女性の方が優遇されている」)”を上回っている。

性別でみると、“平等である”と回答した割合が全ての分野において男性が女性を上回っており、“男性が優遇されている”との回答が、すべての分野で男性より女性が上回っている。特に、男女間の意識の差が最も大きい分野は、「法律や制度で」となっており、男性が23.3%、女性が48.4%と、25.1ポイントの差が出ている。次いで、「地域社会の中で」で22.7ポイントの差、「社会通念、慣習・しきたりなどで」で18.5ポイントの差が出ている。

【① 家庭の中で】

“男性が優遇されている”との回答が44.1%と最も多く、次いで「平等である」との回答が40.9%、“女性が優遇されている”との回答が6.6%となっている。

性・年代別でみると、“男性が優遇されている”との回答が50歳代女性で63.1%と最も多く、次いで40歳代女性で53.9%となっている。一方で、“女性が優遇されている”との回答は40歳代男性で14.0%と最も多く、次いで20歳代男性で11.5%となっている。また、「平等である」との回答で女性が33.3%であるのに対して男性で50.5%となっており、17.2ポイントの差が出ている。

【② 学校教育の中で】

「平等である」との回答が66.0%と最も多く、次いで“男性が優遇されている”との回答が12.6%、“女性が優遇されている”との回答が5.3%となっている。

性・年代別でみると、“男性が優遇されている”との回答が20歳代女性で20.6%と最も多く、次いで50歳代女性で20.0%となっている。一方で、“女性が優遇されている”との回答も20歳代女性で11.8%と最も多くなっている。

【③ 職場の中で】

“男性が優遇されている”との回答が44.5%と最も多く、次いで「平等である」との回答が35.1%、“女性が優遇されている”との回答が11.7%となっている。

性・年代別でみると、“男性が優遇されている”との回答が50歳代女性で61.6%と最も多く、次いで40歳代女性で50.8%となっている。一方で、“女性が優遇されている”との回答は30歳代男性で34.4%と最も多く、次いで40歳代男性で22.0%となっている。

【④ 地域社会の中で】

“男性が優遇されている”との回答が52.5%と最も多く、次いで「平等である」との回答が

29.4%、「女性が優遇されている」との回答が6.0%となっている。

性・年代別でみると、「男性が優遇されている」との回答が40歳代女性で76.2%と最も多く、次いで50歳代女性で67.7%となっている。一方で、「女性が優遇されている」との回答は30歳代男性で15.6%と最も多く、次いで40歳代男性で14.0%となっている。また、「平等である」との回答で女性が21.2%であるのに対して男性で39.8%となっており、18.6ポイントの差が出ている。

【⑤ 法律や制度で】

「男性が優遇されている」との回答が37.5%、「平等である」との回答が37.4%と多く、次いで「女性が優遇されている」との回答が11.2%となっている。

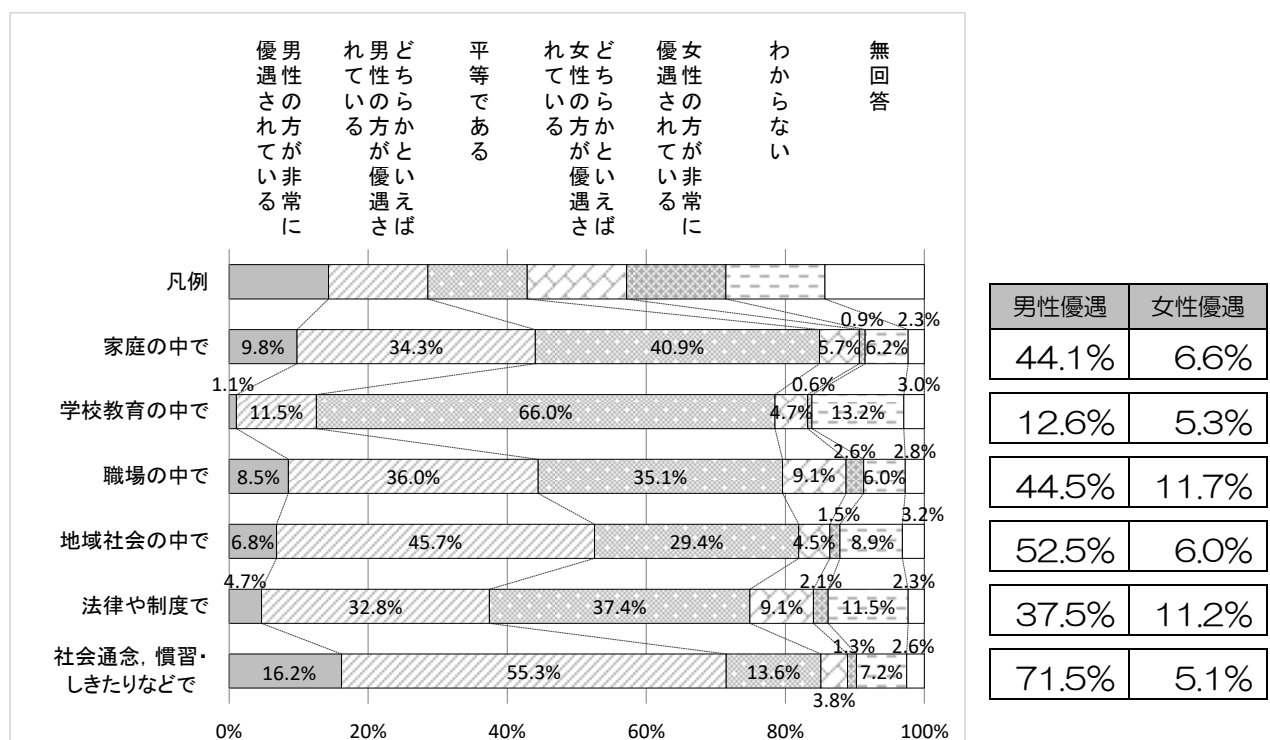
性・年代別でみると、「男性が優遇されている」との回答が40歳代女性で57.1%と最も多く、次いで50歳代女性で53.8%となっている。一方で、「女性が優遇されている」との回答は20歳代男性で26.9%と最も多く、次いで40歳代男性で20.0%となっている。また、「平等である」との回答で女性が28.4%であるのに対して男性で49.0%となっており、20.6ポイントの差が出ている。

【⑥ 社会通念、慣習・しきたりなどで】

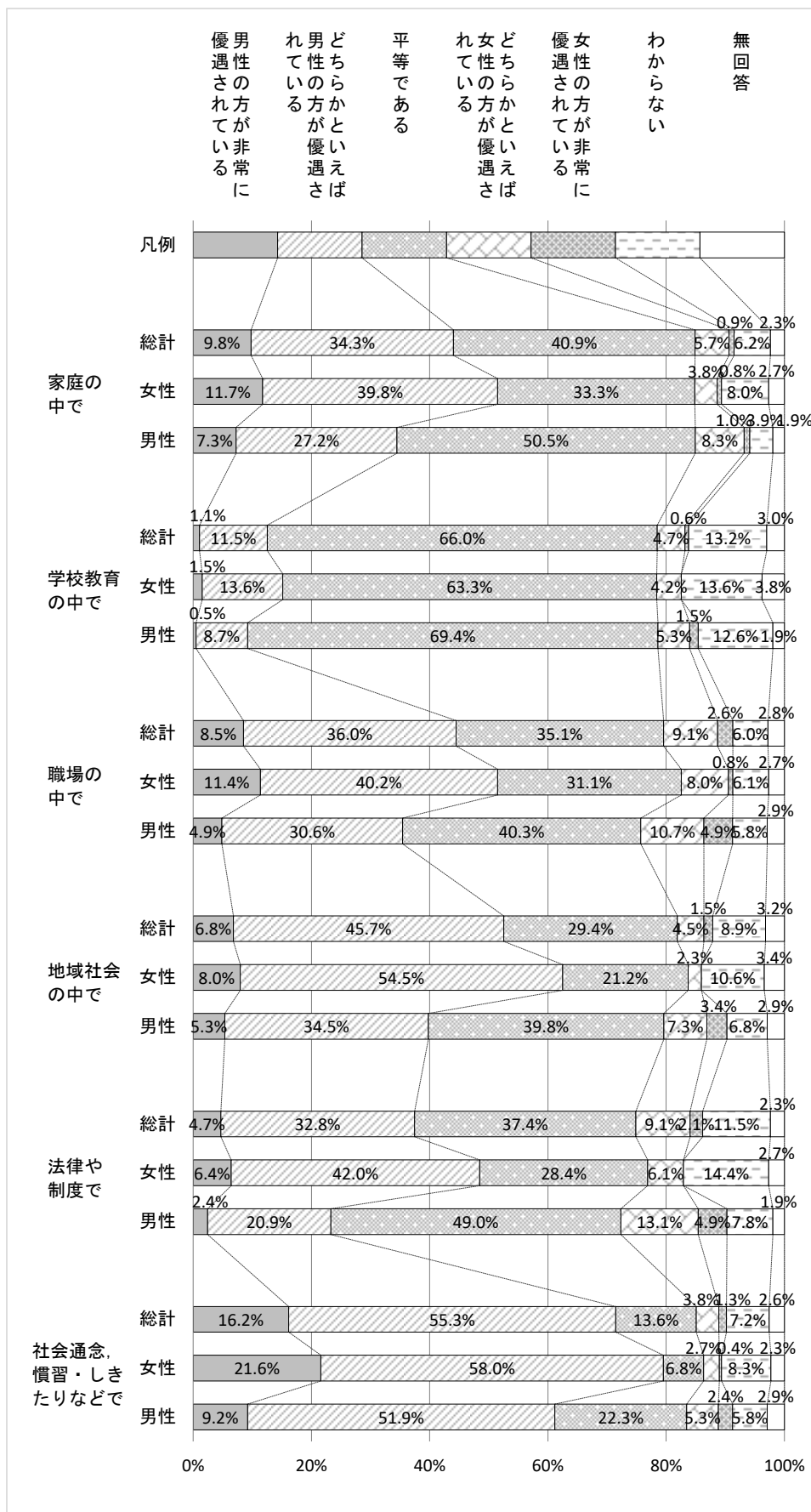
「男性が優遇されている」との回答が71.5%と最も多く、次いで「平等である」が13.6%、「女性が優遇されている」との回答が5.1%となっている。

性・年代別でみると、「男性が優遇されている」との回答が40歳代女性で90.5%と最も多く、次いで50歳代女性で81.6%となっている。一方で、「女性が優遇されている」との回答は20歳代男性で11.5%と最も多い。また、「平等である」との回答で女性が6.8%であるのに対して男性で22.3%となっており、15.5ポイントの差が出ている。

【図表 2-1 男女の地位の平等感（全体）】



【図表 2-2 男女の地位の平等感 (全体・性別)】



男性優遇	女性優遇
44.1%	6.6%
51.5%	4.6%
34.5%	9.3%

12.6%	5.3%
15.1%	4.2%
9.2%	6.8%

44.5%	11.7%
51.6%	8.8%
35.5%	15.6%

52.5%	6.0%
62.5%	2.3%
39.8%	10.7%

37.5%	11.2%
48.4%	6.1%
23.3%	18.0%

71.5%	5.1%
79.6%	3.1%
61.1%	7.7%

【図表 2-3 「家庭の中で」における男女の地位の平等感（クロス集計表）】

		回答者数	遇男性 され方が 非常に優 い	性ど ちらか と優 遇され れば男	平 等 で ある	性ど ちらか と優 遇され れば女	遇女性 され ている が非 常に 優	わ から ない	無 回 答
		上段: 回答数(人) 下段: 構成比(%)							
総計		470 100.0%	46 9.8%	161 34.3%	192 40.9%	27 5.7%	4 0.9%	29 6.2%	11 2.3%
性・年代別	女性	264 100.0%	31 11.7%	105 39.8%	88 33.3%	10 3.8%	2 0.8%	21 8.0%	7 2.7%
	20歳代	34 100.0%	4 11.8%	10 29.4%	13 38.2%	2 5.9%	0 0.0%	4 11.8%	1 2.9%
	30歳代	58 100.0%	4 6.9%	22 37.9%	16 27.6%	5 8.6%	1 1.7%	9 15.5%	1 1.7%
	40歳代	63 100.0%	12 19.0%	22 34.9%	24 38.1%	1 1.6%	0 0.0%	4 6.3%	0 0.0%
	50歳代	65 100.0%	8 12.3%	33 50.8%	18 27.7%	2 3.1%	0 0.0%	3 4.6%	1 1.5%
	60歳代	43 100.0%	3 7.0%	18 41.9%	16 37.2%	0 0.0%	1 2.3%	1 2.3%	4 9.3%
	男性	206 100.0%	15 7.3%	56 27.2%	104 50.5%	17 8.3%	2 1.0%	8 3.9%	4 1.9%
	20歳代	26 100.0%	2 7.7%	4 15.4%	14 53.8%	3 11.5%	0 0.0%	3 11.5%	0 0.0%
	30歳代	32 100.0%	2 6.3%	12 37.5%	15 46.9%	2 6.3%	0 0.0%	1 3.1%	0 0.0%
	40歳代	50 100.0%	4 8.0%	10 20.0%	26 52.0%	6 12.0%	1 2.0%	2 4.0%	1 2.0%
	50歳代	55 100.0%	4 7.3%	14 25.5%	31 56.4%	3 5.5%	1 1.8%	1 1.8%	1 1.8%
	60歳代	42 100.0%	3 7.1%	16 38.1%	17 40.5%	3 7.1%	0 0.0%	1 2.4%	2 4.8%

【図表 2-4 「学校教育の中で」における男女の地位の平等感（クロス集計表）】

		回答者数	遇男性 され方が 非常に優 い	性ど ちらか と優 遇され れば男	平 等 で ある	性ど ちらか と優 遇され れば女	遇女性 され ている が非 常に 優	わ から ない	無 回 答
		上段: 回答数(人) 下段: 構成比(%)							
総計		470 100.0%	5 1.1%	54 11.5%	310 66.0%	22 4.7%	3 0.6%	62 13.2%	14 3.0%
性・年代別	女性	264 100.0%	4 1.5%	36 13.6%	167 63.3%	11 4.2%	0 0.0%	36 13.6%	10 3.8%
	20歳代	34 100.0%	0 0.0%	7 20.6%	20 58.8%	4 11.8%	0 0.0%	2 5.9%	1 2.9%
	30歳代	58 100.0%	2 3.4%	3 5.2%	39 67.2%	2 3.4%	0 0.0%	10 17.2%	2 3.4%
	40歳代	63 100.0%	1 1.6%	9 14.3%	43 68.3%	1 1.6%	0 0.0%	9 14.3%	0 0.0%
	50歳代	65 100.0%	0 0.0%	13 20.0%	40 61.5%	3 4.6%	0 0.0%	8 12.3%	1 1.5%
	60歳代	43 100.0%	1 2.3%	4 9.3%	24 55.8%	1 2.3%	0 0.0%	7 16.3%	6 14.0%
	男性	206 100.0%	1 0.5%	18 8.7%	143 69.4%	11 5.3%	3 1.5%	26 12.6%	4 1.9%
	20歳代	26 100.0%	0 0.0%	2 7.7%	20 76.9%	1 3.8%	0 0.0%	3 11.5%	0 0.0%
	30歳代	32 100.0%	0 0.0%	2 6.3%	23 71.9%	2 6.3%	1 3.1%	4 12.5%	0 0.0%
	40歳代	50 100.0%	1 2.0%	4 8.0%	34 68.0%	4 8.0%	0 0.0%	6 12.0%	1 2.0%
	50歳代	55 100.0%	0 0.0%	3 5.5%	42 76.4%	3 5.5%	0 0.0%	7 12.7%	0 0.0%
	60歳代	42 100.0%	0 0.0%	7 16.7%	23 54.8%	1 2.4%	2 4.8%	6 14.3%	3 7.1%

【図表 2-5 「職場の中で」における男女の地位の平等感（クロス集計表）】

		回答者数	遇男性の方が非常に優	い性ど のち らか と い え ば 男	平 等 で あ る	性ど のち ら か と い え ば 女	遇女性の方が非常に優	わ か ら な い	無 回 答
上段: 回答数(人) 下段: 構成比(%)									
総計		470 100.0%	40 8.5%	169 36.0%	165 35.1%	43 9.1%	12 2.6%	28 6.0%	13 2.8%
性・年代別	女性	264 100.0%	30 11.4%	106 40.2%	82 31.1%	21 8.0%	2 0.8%	16 6.1%	7 2.7%
	20歳代	34 100.0%	3 8.8%	12 35.3%	13 38.2%	3 8.8%	2 5.9%	0 0.0%	1 2.9%
	30歳代	58 100.0%	9 15.5%	19 32.8%	16 27.6%	9 15.5%	0 0.0%	4 6.9%	1 1.7%
	40歳代	63 100.0%	7 11.1%	25 39.7%	20 31.7%	5 7.9%	0 0.0%	6 9.5%	0 0.0%
	50歳代	65 100.0%	7 10.8%	33 50.8%	18 27.7%	3 4.6%	0 0.0%	3 4.6%	1 1.5%
	60歳代	43 100.0%	4 9.3%	16 37.2%	15 34.9%	1 2.3%	0 0.0%	3 7.0%	4 9.3%
	男性	206 100.0%	10 4.9%	63 30.6%	83 40.3%	22 10.7%	10 4.9%	12 5.8%	6 2.9%
	20歳代	26 100.0%	1 3.8%	10 38.5%	12 46.2%	1 3.8%	1 3.8%	0 0.0%	1 3.8%
	30歳代	32 100.0%	3 9.4%	10 31.3%	6 18.8%	8 25.0%	3 9.4%	2 6.3%	0 0.0%
	40歳代	50 100.0%	3 6.0%	11 22.0%	24 48.0%	5 10.0%	6 12.0%	0 0.0%	1 2.0%
	50歳代	55 100.0%	2 3.6%	15 27.3%	29 52.7%	4 7.3%	0 0.0%	4 7.3%	1 1.8%
	60歳代	42 100.0%	1 2.4%	16 38.1%	12 28.6%	4 9.5%	0 0.0%	6 14.3%	3 7.1%

【図表 2-6 「地域社会の中で」における男女の地位の平等感（クロス集計表）】

		回答者数	遇男性の方が非常に優	い性ど のち ら か と い え ば 男	平 等 で あ る	性ど のち ら か と い え ば 女	遇女性の方が非常に優	わ か ら な い	無 回 答
上段: 回答数(人) 下段: 構成比(%)									
総計		470 100.0%	32 6.8%	215 45.7%	138 29.4%	21 4.5%	7 1.5%	42 8.9%	15 3.2%
性・年代別	女性	264 100.0%	21 8.0%	144 54.5%	56 21.2%	6 2.3%	0 0.0%	28 10.6%	9 3.4%
	20歳代	34 100.0%	2 5.9%	15 44.1%	12 35.3%	0 0.0%	0 0.0%	4 11.8%	1 2.9%
	30歳代	58 100.0%	4 6.9%	29 50.0%	10 17.2%	2 3.4%	0 0.0%	11 19.0%	2 3.4%
	40歳代	63 100.0%	6 9.5%	42 66.7%	7 11.1%	1 1.6%	0 0.0%	7 11.1%	0 0.0%
	50歳代	65 100.0%	4 6.2%	40 61.5%	16 24.6%	2 3.1%	0 0.0%	2 3.1%	1 1.5%
	60歳代	43 100.0%	5 11.6%	17 39.5%	11 25.6%	1 2.3%	0 0.0%	4 9.3%	5 11.6%
	男性	206 100.0%	11 5.3%	71 34.5%	82 39.8%	15 7.3%	7 3.4%	14 6.8%	6 2.9%
	20歳代	26 100.0%	1 3.8%	7 26.9%	10 38.5%	3 11.5%	0 0.0%	4 15.4%	1 3.8%
	30歳代	32 100.0%	1 3.1%	13 40.6%	11 34.4%	4 12.5%	1 3.1%	2 6.3%	0 0.0%
	40歳代	50 100.0%	7 14.0%	12 24.0%	18 36.0%	3 6.0%	4 8.0%	5 10.0%	1 2.0%
	50歳代	55 100.0%	1 1.8%	22 40.0%	26 47.3%	3 5.5%	1 1.8%	2 3.6%	0 0.0%
	60歳代	42 100.0%	1 2.4%	16 38.1%	17 40.5%	2 4.8%	1 2.4%	1 2.4%	4 9.5%

【図表 2-7 「法律や制度で」における男女の地位の平等感（クロス集計表）】

		回答者数	遇男性の方が非常に優	い性どち るの 方が か と い え ば 優 遇 さ れ て 男	平等である	性どち るの 方が 優 遇 さ れ て 女	遇女性の方が非常に優	わからない	無回答	
		上段:回答数(人) 下段:構成比(%)								
総計		470 100.0%	22 4.7%	154 32.8%	176 37.4%	43 9.1%	10 2.1%	54 11.5%	11 2.3%	
性・年代別	女性	264 100.0%	17 6.4%	111 42.0%	75 28.4%	16 6.1%	0 0.0%	38 14.4%	7 2.7%	
		20歳代	34 100.0%	2 5.9%	14 41.2%	9 26.5%	4 11.8%	0 0.0%	4 11.8%	1 2.9%
	30歳代	58 100.0%	2 3.4%	23 39.7%	15 25.9%	6 10.3%	0 0.0%	11 19.0%	1 1.7%	
	40歳代	63 100.0%	8 12.7%	28 44.4%	19 30.2%	0 0.0%	0 0.0%	8 12.7%	0 0.0%	
	50歳代	65 100.0%	1 1.5%	34 52.3%	19 29.2%	6 9.2%	0 0.0%	4 6.2%	1 1.5%	
	60歳代	43 100.0%	4 9.3%	11 25.6%	13 30.2%	0 0.0%	0 0.0%	11 25.6%	4 9.3%	
	男性	206 100.0%	5 2.4%	43 20.9%	101 49.0%	27 13.1%	10 4.9%	16 7.8%	4 1.9%	
		20歳代	26 100.0%	0 0.0%	4 15.4%	12 46.2%	6 23.1%	1 3.8%	2 7.7%	1 3.8%
		30歳代	32 100.0%	1 3.1%	12 37.5%	10 31.3%	2 6.3%	4 12.5%	3 9.4%	0 0.0%
		40歳代	50 100.0%	3 6.0%	9 18.0%	23 46.0%	7 14.0%	3 6.0%	4 8.0%	1 2.0%
		50歳代	55 100.0%	1 1.8%	9 16.4%	34 61.8%	7 12.7%	2 3.6%	2 3.6%	0 0.0%
		60歳代	42 100.0%	0 0.0%	8 19.0%	22 52.4%	5 11.9%	0 0.0%	5 11.9%	2 4.8%

【図表 2-8 「社会通念、慣習、しきたりなどで」における男女の地位の平等感（クロス集計表）】

		回答者数	遇男性の方が非常に優	い性どち るの 方が か と い え ば 優 遇 さ れ て 男	平等である	性どち るの 方が 優 遇 さ れ て 女	遇女性の方が非常に優	わからない	無回答	
		上段:回答数(人) 下段:構成比(%)								
総計		470 100.0%	76 16.2%	260 55.3%	64 13.6%	18 3.8%	6 1.3%	34 7.2%	12 2.6%	
性・年代別	女性	264 100.0%	57 21.6%	153 58.0%	18 6.8%	7 2.7%	1 0.4%	22 8.3%	6 2.3%	
		20歳代	34 100.0%	9 26.5%	16 47.1%	2 5.9%	1 2.9%	0 0.0%	5 14.7%	1 2.9%
	30歳代	58 100.0%	12 20.7%	32 55.2%	5 8.6%	1 1.7%	0 0.0%	7 12.1%	1 1.7%	
	40歳代	63 100.0%	16 25.4%	41 65.1%	2 3.2%	0 0.0%	0 0.0%	4 6.3%	0 0.0%	
	50歳代	65 100.0%	15 23.1%	38 58.5%	4 6.2%	2 3.1%	1 1.5%	4 6.2%	1 1.5%	
	60歳代	43 100.0%	5 11.6%	25 58.1%	5 11.6%	3 7.0%	0 0.0%	2 4.7%	3 7.0%	
	男性	206 100.0%	19 9.2%	107 51.9%	46 22.3%	11 5.3%	5 2.4%	12 5.8%	6 2.9%	
		20歳代	26 100.0%	1 3.8%	12 46.2%	7 26.9%	3 11.5%	0 0.0%	2 7.7%	1 3.8%
		30歳代	32 100.0%	3 9.4%	17 53.1%	6 18.8%	1 3.1%	1 3.1%	3 9.4%	1 3.1%
		40歳代	50 100.0%	10 20.0%	22 44.0%	10 20.0%	1 2.0%	3 6.0%	3 6.0%	1 2.0%
		50歳代	55 100.0%	4 7.3%	33 60.0%	12 21.8%	3 5.5%	1 1.8%	2 3.6%	0 0.0%
		60歳代	42 100.0%	1 2.4%	23 54.8%	10 23.8%	3 7.1%	0 0.0%	2 4.8%	3 7.1%

3. 就業について

(1) 女性が職業を持つことについての意識

【問8】一般的に女性が職業を持つことについて、あなたはどのようにお考えですか。
(単一回答)

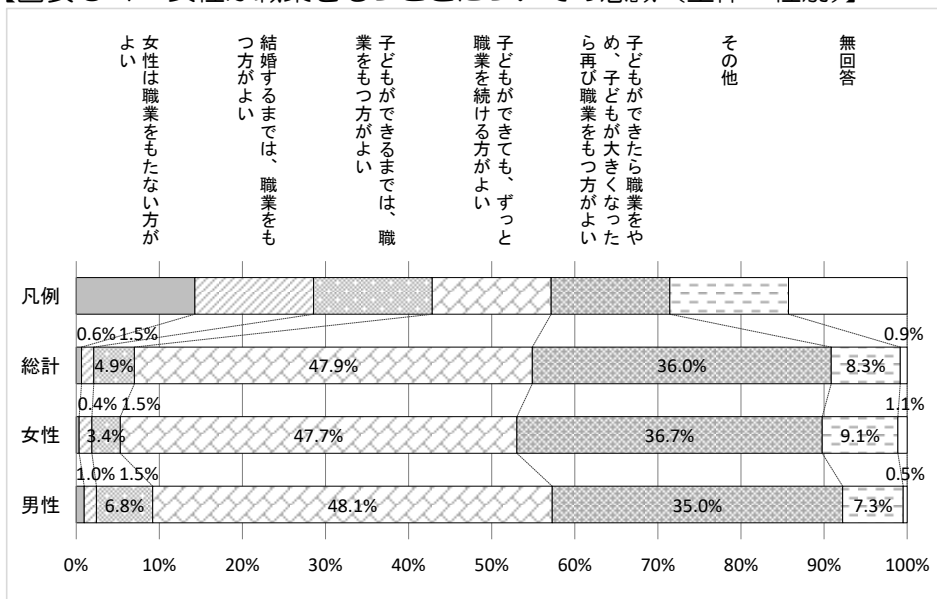
全体でみると、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」との回答が47.9%と最も多く、次いで「子どもができたなら職業を辞め、子どもが大きくなったら再び職業をもつ方がよい」(36.0%)、「その他(8.3%)」の順となっている。

性別でみると、全体での回答と同様の傾向を示しており、特に大きな差異はみられない。

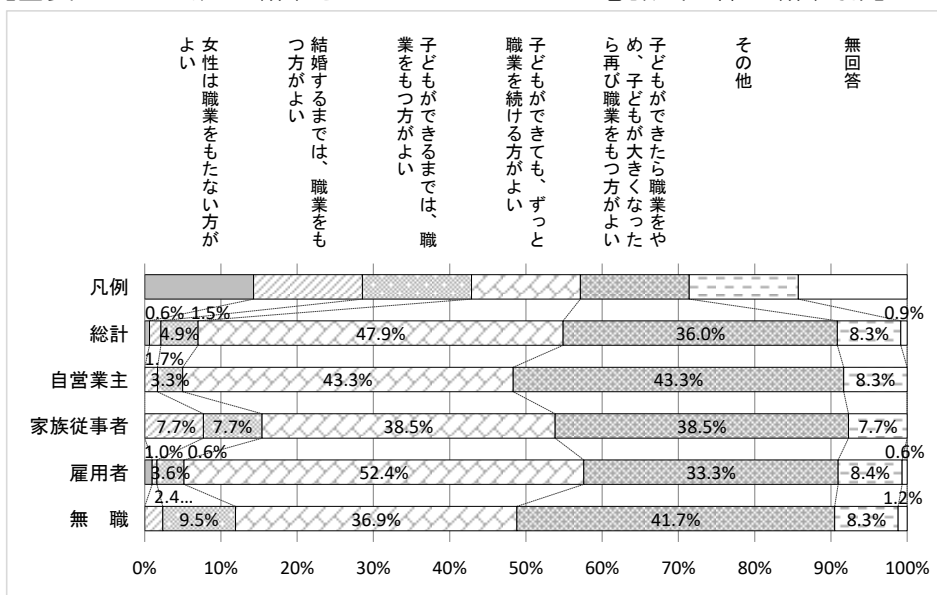
性・年代別でみると、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」との回答が女性は40歳代・50歳代で5割を超え、男性は、30歳代・40歳代・60歳代で5割を超えている。

職業別でみると、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」との回答は雇用者で最も多く、「子どもができたなら職業を辞め、子どもが大きくなったら再び職業を持つ方がよい」との回答は、自営業主で最も多い。

【図表3-1 女性が職業をもつことについての意識（全体・性別）】



【図表3-2 女性が職業をもつことについての意識（全体・職業別）】



【図表 3-3 女性が職業をもつことについての意識（クロス集計表）】

		回答者数	よい女性 は職業を 持たない 方が	結婚する までは、 職業を持 つ方がよい	子どもが できるま までは、 職業を持 つ方がよい	子どもが 続けるか も、ずっと 職業を 続けるか も、ずっと	子どもが できたら 職業を 持つ方が よい	その他	無回答	
		上段: 回答数(人) 下段: 構成比(%)								
総計		470 100.0%	3 0.6%	7 1.5%	23 4.9%	225 47.9%	169 36.0%	39 8.3%	4 0.9%	
性・年代別	女性	264 100.0%	1 0.4%	4 1.5%	9 3.4%	126 47.7%	97 36.7%	24 9.1%	3 1.1%	
	20歳代	34 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 5.9%	14 41.2%	13 38.2%	5 14.7%	0 0.0%	
	30歳代	58 100.0%	0 0.0%	1 1.7%	4 6.9%	23 39.7%	21 36.2%	9 15.5%	0 0.0%	
	40歳代	63 100.0%	1 1.6%	1 1.6%	1 1.6%	33 52.4%	20 31.7%	6 9.5%	1 1.6%	
	50歳代	65 100.0%	0 0.0%	2 3.1%	1 1.5%	38 58.5%	21 32.3%	3 4.6%	0 0.0%	
	60歳代	43 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	18 41.9%	22 51.2%	1 2.3%	2 4.7%	
	男性	206 100.0%	2 1.0%	3 1.5%	14 6.8%	99 48.1%	72 35.0%	15 7.3%	1 0.5%	
	20歳代	26 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 3.8%	10 38.5%	13 50.0%	2 7.7%	0 0.0%	
	30歳代	32 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	4 12.5%	16 50.0%	6 18.8%	6 18.8%	0 0.0%	
	40歳代	50 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 4.0%	26 52.0%	16 32.0%	5 10.0%	1 2.0%	
	50歳代	55 100.0%	2 3.6%	2 3.6%	2 3.6%	23 41.8%	24 43.6%	2 3.6%	0 0.0%	
	60歳代	42 100.0%	0 0.0%	1 2.4%	5 11.9%	23 54.8%	13 31.0%	0 0.0%	0 0.0%	
	職業別	自営業主	60 100.0%	0 0.0%	1 1.7%	2 3.3%	26 43.3%	26 43.3%	5 8.3%	0 0.0%
		家族従事者	13 100.0%	0 0.0%	1 7.7%	1 7.7%	5 38.5%	5 38.5%	1 7.7%	0 0.0%
雇用者		309 100.0%	3 1.0%	2 0.6%	11 3.6%	162 52.4%	103 33.3%	26 8.4%	2 0.6%	
無職		84 100.0%	0 0.0%	2 2.4%	8 9.5%	31 36.9%	35 41.7%	7 8.3%	1 1.2%	

(2) 現在の職業

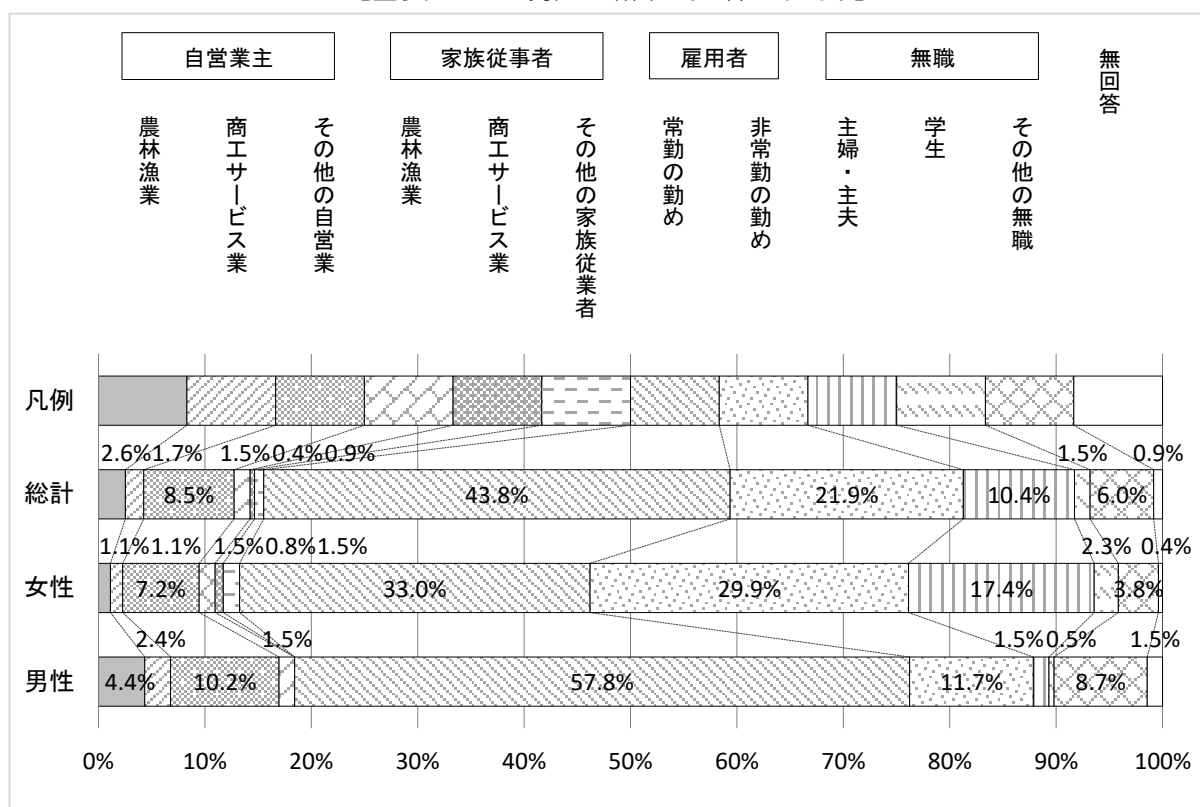
【問9】職業について。(単一回答)

全体で見ると、「常勤の勤め」との回答が43.8%と最も多く、次いで「非常勤の勤め(21.9%)」、「主婦・主夫(10.4%)」の順となっている。

性別で見ると、男性では「常勤の勤め」が57.8%と約6割を占める一方、女性では「常勤の勤め」が33.0%と約3割に留まり「非常勤の勤め」が29.9%と男性に比べ非常に多くなっている。

性・年代別で見ると、男性は「常勤の勤め」が20歳代から50歳代まで60%を超しているが、女性は20歳代(47.1%)、40歳代(57.1%)は多いが、30歳代(32.8%)、50歳代(24.6%)は少なくなっている。一方、「非常勤の勤め」は50歳代女性が49.2%で他の類計と比べ、多くなっている。

【図表3-4 現在の職業(全体・性別)】



【図表3-5 現在の職業（クロス集計表）】

	回答者数	自営業主			家族従事者			雇用者		無職			無回答	
		農林漁業	商工サービス業	その他の自営業	農林漁業	商工サービス業	その他の家族従業者	常勤の勤め	非常勤の勤め	主婦・主夫	学生	その他の無職		
上段: 回答数(人) 下段: 構成比(%)														
総計	470 100.0%	12 2.6%	8 1.7%	40 8.5%	7 1.5%	2 0.4%	4 0.9%	206 43.8%	103 21.9%	49 10.4%	7 1.5%	28 6.0%	4 0.9%	
性・年代別	女性	264 100.0%	3 1.1%	3 1.1%	19 7.2%	4 1.5%	2 0.8%	4 1.5%	87 33.0%	79 29.9%	46 17.4%	6 2.3%	10 3.8%	1 0.4%
	20歳代	34 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	16 47.1%	8 23.5%	5 14.7%	5 14.7%	0 0.0%	0 0.0%
	30歳代	58 100.0%	1 1.7%	0 0.0%	3 5.2%	1 1.7%	0 0.0%	0 0.0%	19 32.8%	16 27.6%	15 25.9%	1 1.7%	2 3.4%	0 0.0%
	40歳代	63 100.0%	1 1.6%	0 0.0%	5 7.9%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	36 57.1%	10 15.9%	9 14.3%	0 0.0%	2 3.2%	0 0.0%
	50歳代	65 100.0%	0 0.0%	3 4.6%	4 6.2%	2 3.1%	1 1.5%	2 3.1%	16 24.6%	32 49.2%	3 4.6%	0 0.0%	2 3.1%	0 0.0%
	60歳代	43 100.0%	1 2.3%	0 0.0%	7 16.3%	1 2.3%	1 2.3%	2 4.7%	0 0.0%	13 30.2%	13 30.2%	0 0.0%	4 9.3%	1 2.3%
	男性	206 100.0%	9 4.4%	5 2.4%	21 10.2%	3 1.5%	0 0.0%	0 0.0%	119 57.8%	24 11.7%	3 1.5%	1 0.5%	18 8.7%	3 1.5%
	20歳代	26 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 7.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	16 61.5%	5 19.2%	0 0.0%	1 3.8%	1 3.8%	1 3.8%
	30歳代	32 100.0%	2 6.3%	0 0.0%	3 9.4%	1 3.1%	0 0.0%	0 0.0%	21 65.6%	3 9.4%	0 0.0%	0 0.0%	2 6.3%	0 0.0%
	40歳代	50 100.0%	0 0.0%	2 4.0%	3 6.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	39 78.0%	4 8.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 4.0%	0 0.0%
	50歳代	55 100.0%	2 3.6%	2 3.6%	7 12.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	35 63.6%	3 5.5%	1 1.8%	0 0.0%	4 7.3%	1 1.8%
	60歳代	42 100.0%	4 9.5%	1 2.4%	6 14.3%	2 4.8%	0 0.0%	0 0.0%	8 19.0%	9 21.4%	2 4.8%	0 0.0%	9 21.4%	1 2.4%

(3) 今後希望する就労形態

※問9で「主婦・主夫」、「学生」、「その他の無職」を選択された方のみ回答

【問10】あなたはどのような形で働きたいですか。(単一回答)

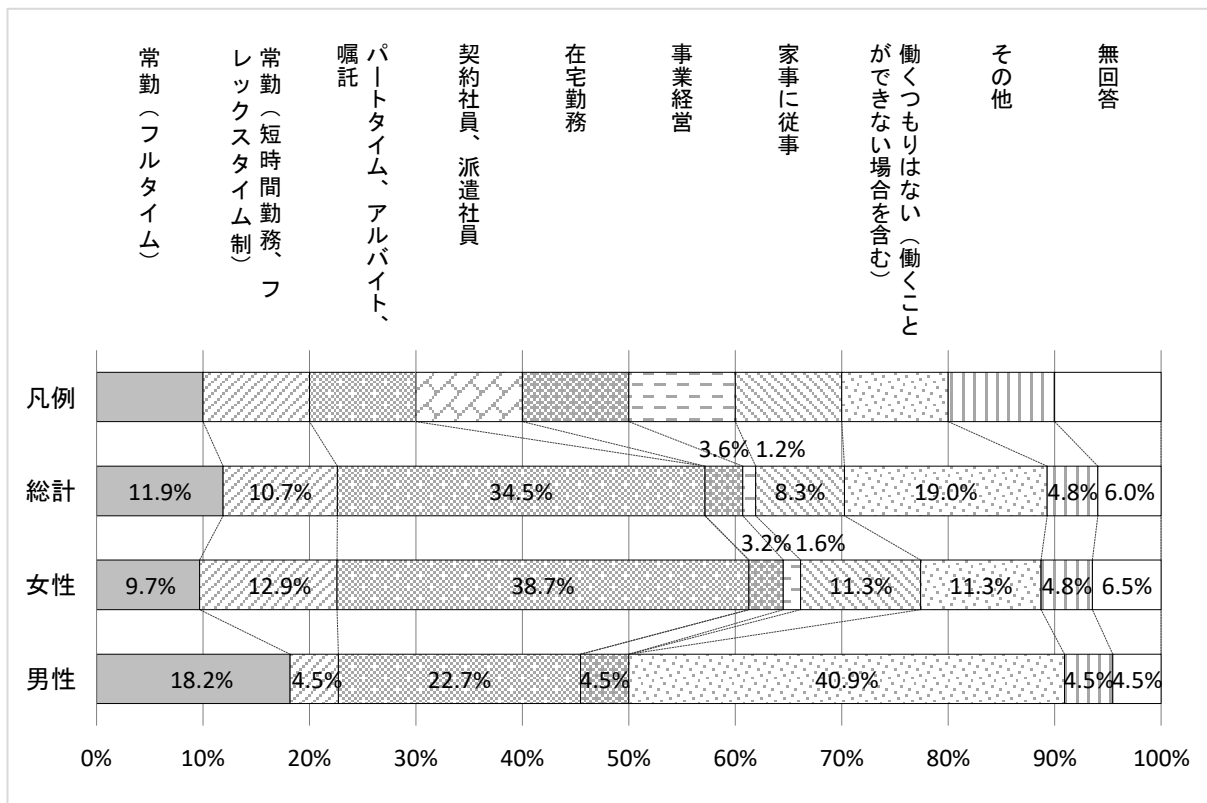
全体でみると、「パートタイム、アルバイト、嘱託」が34.5%と最も多く、次いで「働くつもりはない(働くことができない場合を含む)」(19.0%)、「常勤(フルタイム)」(11.9%)の順となっている。

回答者数は、女性が男性の約3倍の数となっており、30歳代と60歳代が多く、男性は、60歳代が多い。

性別でみると、女性は、「パートタイム、アルバイト、嘱託(38.7%)」が最も多く、次いで「常勤(短時間勤務、フレックスタイム制)」(12.9%)が多い。男性は、「働くつもりはない(働くことができない場合を含む)」(40.9%)が最も多く、次いで「パートタイム、アルバイト、嘱託(22.7%)」が多い。

回答の男女差としては、「パートタイム、アルバイト、嘱託」は女性が多く、「常勤(フルタイム)」が男性が多い。

【図表3-6 今後希望する就労形態(全体・性別)】



【図表 3-7 今後希望する就労形態（クロス集計表）】

		回答者数	常勤（フルタイム）	常勤（短時間勤務、フレックスタイム制）	パートタイム、アルバイト、嘱託	契約社員、派遣社員	在宅勤務	事業経営	家事に従事	働くつもりはない（働くことができない場合を含む）	その他	無回答
		上段：回答数（人）	下段：構成比（％）									
性・年代別	総計	84	10	9	29	0	3	1	7	16	4	5
		100.0%	11.9%	10.7%	34.5%	0.0%	3.6%	1.2%	8.3%	19.0%	4.8%	6.0%
	女性	62	6	8	24	0	2	1	7	7	3	4
		100.0%	9.7%	12.9%	38.7%	0.0%	3.2%	1.6%	11.3%	11.3%	4.8%	6.5%
	20歳代	10	4	2	4	0	0	0	0	0	0	0
		100.0%	40.0%	20.0%	40.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	30歳代	18	2	3	7	0	0	0	2	1	1	2
		100.0%	11.1%	16.7%	38.9%	0.0%	0.0%	0.0%	11.1%	5.6%	5.6%	11.1%
	40歳代	11	0	1	6	0	2	0	0	2	0	0
		100.0%	0.0%	9.1%	54.5%	0.0%	18.2%	0.0%	0.0%	18.2%	0.0%	0.0%
	50歳代	5	0	1	3	0	0	0	0	0	1	0
		100.0%	0.0%	20.0%	60.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%	0.0%
	60歳代	17	0	1	4	0	0	1	5	3	1	2
		100.0%	0.0%	5.9%	23.5%	0.0%	0.0%	5.9%	29.4%	17.6%	5.9%	11.8%
	男性	22	4	1	5	0	1	0	0	9	1	1
		100.0%	18.2%	4.5%	22.7%	0.0%	4.5%	0.0%	0.0%	40.9%	4.5%	4.5%
	20歳代	2	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0
		100.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%
	30歳代	2	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0
		100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%
40歳代	2	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	
	100.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	
50歳代	5	3	0	0	0	0	0	0	2	0	0	
	100.0%	60.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	40.0%	0.0%	0.0%	
60歳代	11	0	1	4	0	0	0	0	5	0	1	
	100.0%	0.0%	9.1%	36.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	45.5%	0.0%	9.1%	

(4) 職場における性別による処遇の違い

※問9で「常勤の勤め」、「非常勤の勤め」を選択された方のみ回答

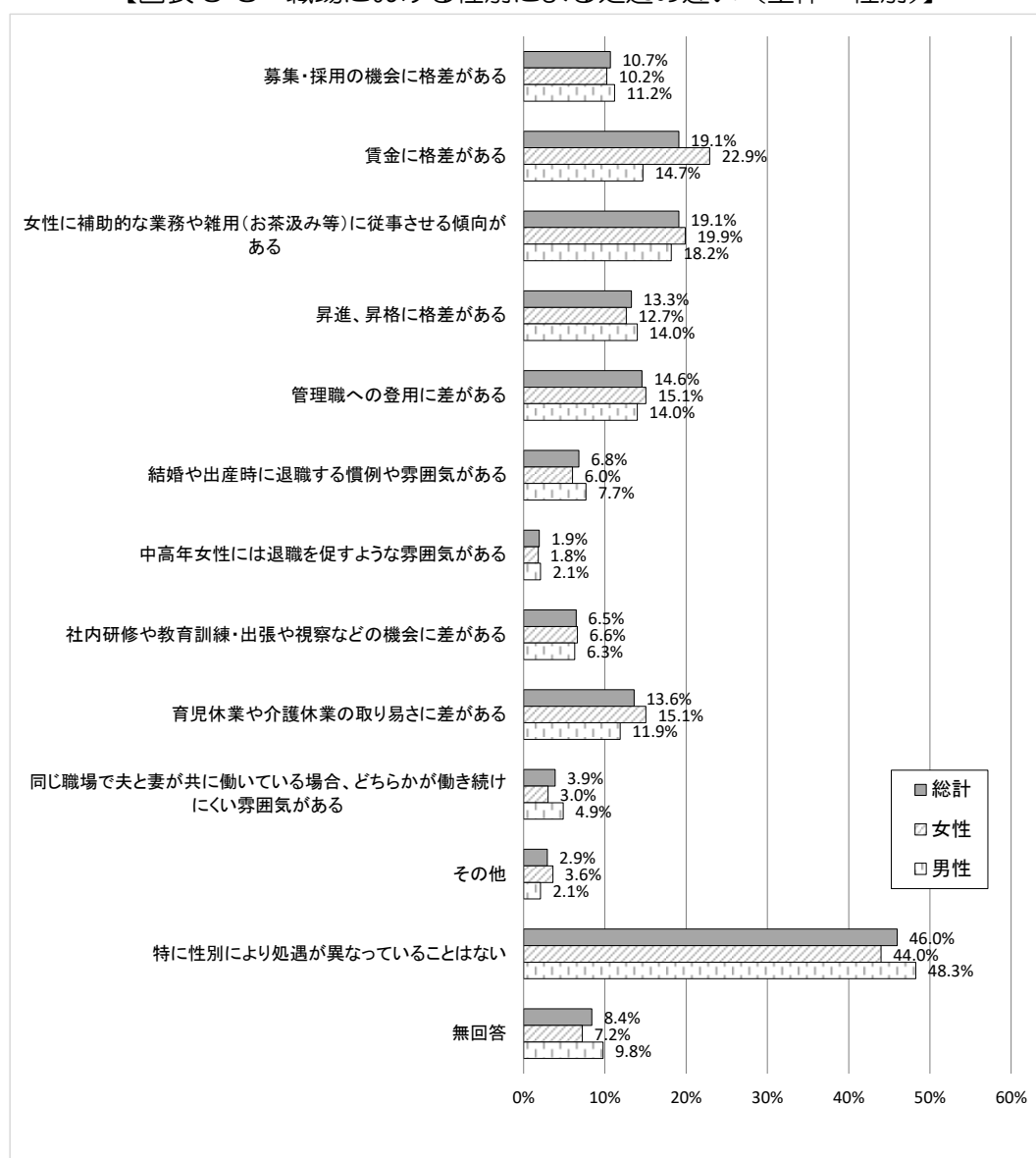
【問11】あなたの職場では、性別によって処遇が異なりますか。(複数回答)

全体でみると、「特に性別により処遇が異なっていることはない」が46.0%と最も多く、次いで、「賃金に格差がある(19.1%)」、「女性に補助的な業務や雑用(お茶汲み等)に従事させる傾向がある(19.1%)」、「管理職への登用に差がある(14.6%)」、「育児休業や介護休業の取り易さに差がある(13.6%)」、「昇進、昇格に格差がある(13.3%)」の順となっており、半数以上の方が職場における性別による処遇の違いがあると回答している。

性別でみると、全体での回答と同様の傾向を示しており、特に大きな差異はみられないが、「賃金に格差がある」との回答については男女による意識の差異が8.2ポイントとなっている。

性・年代別では、「特に性別により処遇が異なっていることはない」との回答は、男女とも、30歳代が30%台でもっとも少なく、「賃金に格差がある」との回答は、50歳代・60歳代が女性が30%台で高くなっているのに対し、男性は、10~20%台となっている。「女性に補助的な業務や雑用(お茶汲み等)に従事させる傾向がある」は、30歳代女性34.3%が、他の類型と比べて多くなっている。

【図表3-8 職場における性別による処遇の違い(全体・性別)】



【図表 3-9 職場における性別による処遇の違い（クロス集計表）】

		回答者数	募集・採用の機会に格差がある	賃金に格差がある	雑務（お茶汲み等）に従事させる傾向がある	女性に補助的な業務や雑務に就く傾向がある	昇進、昇格に格差がある	管理職への登用に差がある	結婚や出産時に退職する慣例や雰囲気がある	中高年女性には退職を促すような雰囲気がある	出張や視察などの機会に差がある	社内研修や教育訓練に差がある	
		上段：回答数(人) 下段：構成比(%)											
総計		309	33 10.7%	59 19.1%	59 19.1%	41 13.3%	45 14.6%	21 6.8%	6 1.9%	20 6.5%			
性・年代別	女性	166	17 10.2%	38 22.9%	33 19.9%	21 12.7%	25 15.1%	10 6.0%	3 1.8%	11 6.6%			
	20歳代	24	1 4.2%	1 4.2%	7 29.2%	0 0.0%	2 8.3%	2 8.3%	0 0.0%	1 4.2%			
	30歳代	35	3 8.6%	6 17.1%	12 34.3%	5 14.3%	6 17.1%	5 14.3%	1 2.9%	1 2.9%			
	40歳代	46	5 10.9%	9 19.6%	9 19.6%	7 15.2%	10 21.7%	1 2.2%	2 4.3%	4 8.7%			
	50歳代	48	7 14.6%	17 35.4%	5 10.4%	8 16.7%	7 14.6%	2 4.2%	0 0.0%	3 6.3%			
	60歳代	13	1 7.7%	5 38.5%	0 0.0%	1 7.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 15.4%			
	男性	143	16 11.2%	21 14.7%	26 18.2%	20 14.0%	20 14.0%	11 7.7%	3 2.1%	9 6.3%			
	20歳代	21	0 0.0%	1 4.8%	4 19.0%	2 9.5%	3 14.3%	2 9.5%	0 0.0%	2 9.5%			
	30歳代	24	5 20.8%	6 25.0%	4 16.7%	4 16.7%	6 25.0%	4 16.7%	0 0.0%	2 8.3%			
	40歳代	43	4 9.3%	6 14.0%	11 25.6%	6 14.0%	5 11.6%	3 7.0%	2 4.7%	2 4.7%			
	50歳代	38	3 7.9%	4 10.5%	5 13.2%	8 21.1%	5 13.2%	0 0.0%	0 0.0%	2 5.3%			
	60歳代	17	4 23.5%	4 23.5%	2 11.8%	0 0.0%	1 5.9%	2 11.8%	1 5.9%	1 5.9%			
			上段：回答数(人) 下段：構成比(%)	取り見易さに差がある	育児休業や介護休業の機会がある	いちから働いている場合、同じ職場で働く続けるに、同じ職場で働く場合、共に働いている場合、共に働いている場合、共に働いている場合	その他	異なる性別により処遇が異なる	無回答				
	総計		42	12 13.6%	9 2.9%	142 46.0%	26 8.4%						
性・年代別	女性	25	5 15.1%	6 3.0%	73 44.0%	12 7.2%							
	20歳代	2	1 8.3%	1 4.2%	11 45.8%	4 16.7%							
	30歳代	9	2 25.7%	1 5.7%	11 31.4%	1 2.9%							
	40歳代	8	1 17.4%	3 6.5%	20 43.5%	1 2.2%							
	50歳代	6	1 12.5%	1 2.1%	23 47.9%	5 10.4%							
	60歳代	0	0 0.0%	0 0.0%	8 61.5%	1 7.7%							
	男性	17	7 11.9%	3 4.9%	69 48.3%	14 9.8%							
	20歳代	0	1 0.0%	0 0.0%	11 52.4%	3 14.3%							
	30歳代	5	1 20.8%	1 4.2%	8 33.3%	0 0.0%							
	40歳代	4	2 9.3%	0 0.0%	21 48.8%	5 11.6%							
	50歳代	7	1 18.4%	2 2.6%	19 50.0%	5 13.2%							
60歳代	1	2 5.9%	0 0.0%	10 58.8%	1 5.9%								

(5) 職場におけるリーダー・管理職への昇進希望

※問9で「常勤の勤め」、「非常勤の勤め」を選択された方のみ回答

【問12】あなたは、職場でリーダー・管理職になりたいですか。(単一回答)

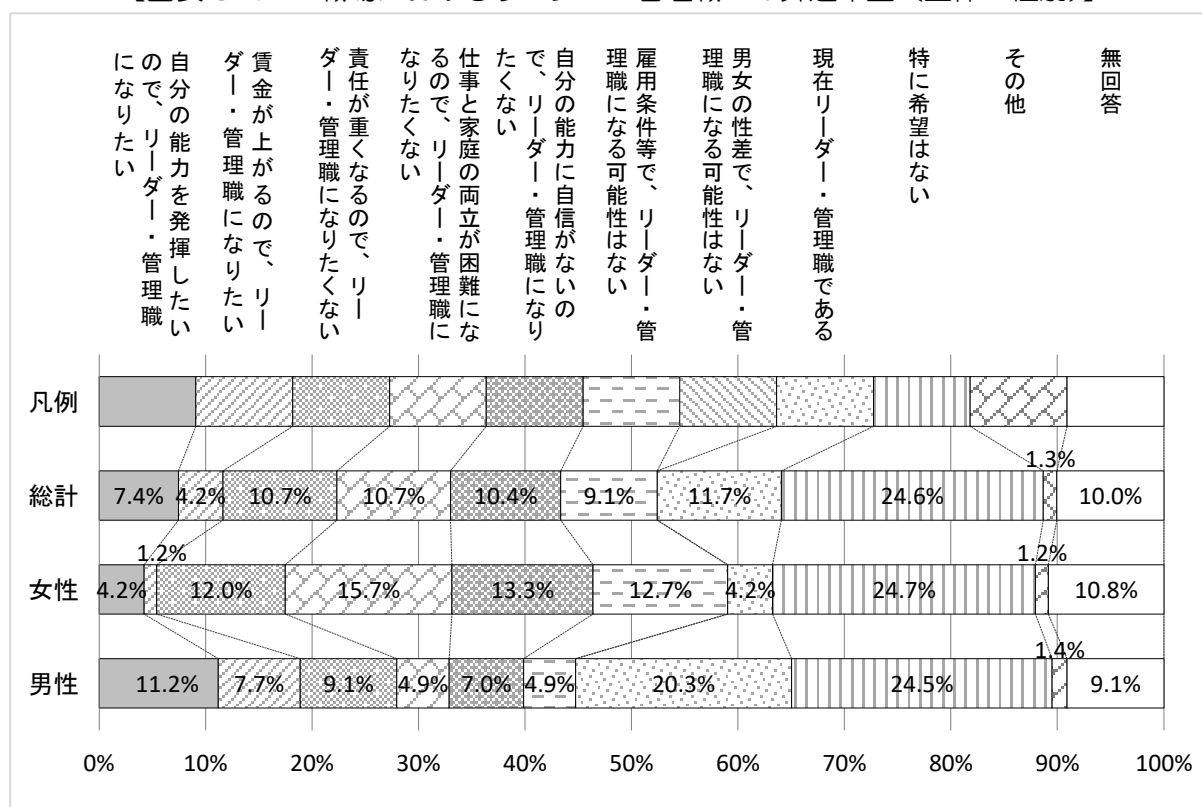
全体で見ると、「特に希望はない」との回答が24.6%と最も多く、次いで「現在リーダー・管理職である(11.7%)」、「責任が重くなるのでリーダー・管理職になりたくない(10.7%)」、「仕事と家庭の両立が困難になるので、リーダー・管理職になりたくない(10.7%)」、「自分の能力に自信がないので、リーダー・管理職になりたくない(10.4%)」の順となっている。「特に希望はない」は、性別・結婚の別でも、25%前後で最も多くなっている。

性別で見ると、“リーダー・管理職になりたい(「自分の能力を發揮したいので、リーダー・管理職になりたい」+「賃金が上がるので、リーダー・管理職になりたい)」との回答については、女性が5.4%であるのに対して、男性では18.9%と大きな差異がみられる。また、「現在リーダー・管理職である」との回答についても、女性が4.2%、男性が20.3%と大きな差異がみられる。一方、「仕事と家庭の両立が困難になるので、リーダー・管理職になりたくない」との回答について、女性が男性より10.8ポイント多くなっている。

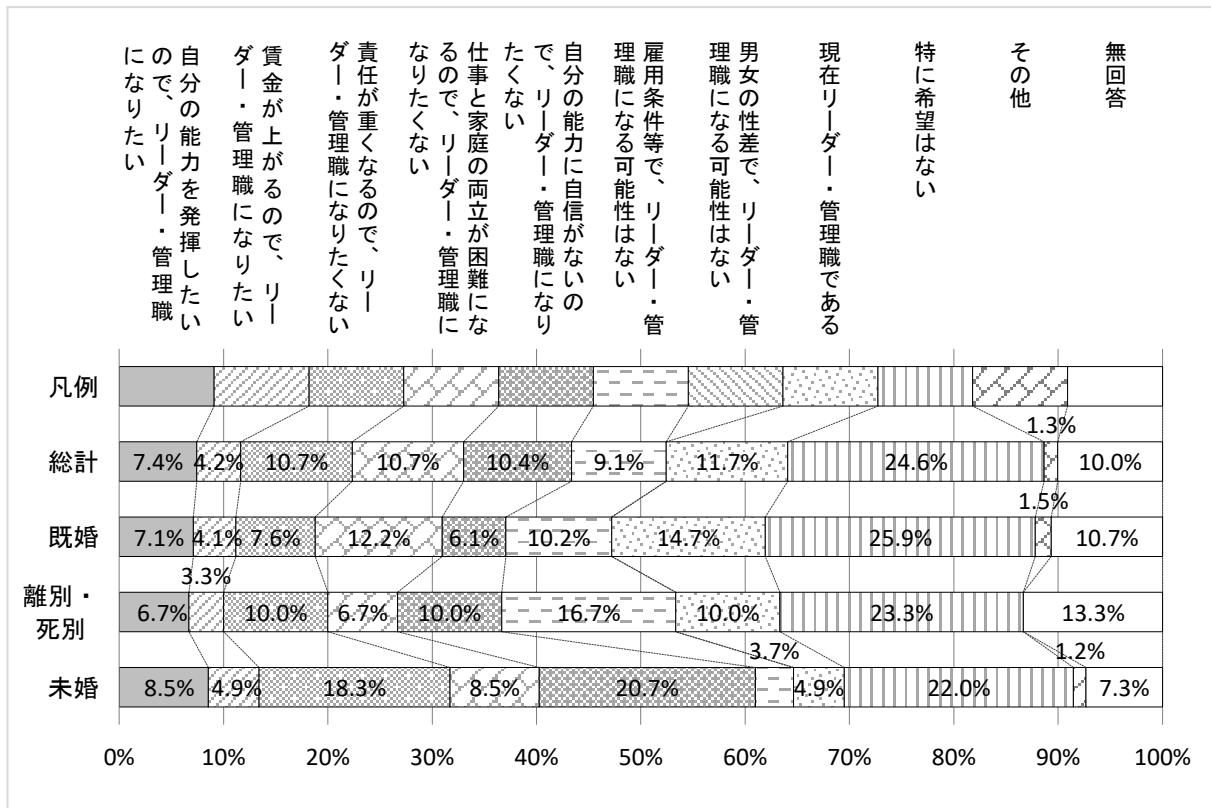
性・年代別で見ると、“リーダー・管理職になりたい”との回答が最も多かったのは20歳代男性で、「自分の能力を發揮したいので、リーダー・管理職になりたい」、「賃金が上がるので、リーダー・管理職になりたい」がいずれも23.8%の回答となっている。一方、リーダー・管理職になりたくないとの回答が最も多かったのは、30代女性の「仕事と家庭の両立が困難になるので、リーダー・管理職になりたくない」で、31.4%となっている。

結婚別で見ると、未婚において、「責任が重くなるので、リーダー・管理職になりたくない」や「自分の能力に自信がないので、リーダー・管理職になりたくない」との回答が、他の類型と比べて多くなっている。

【図表3-10 職場におけるリーダー・管理職への昇進希望(全体・性別)】



【図表 3-11 職場におけるリーダー・管理職への昇進希望（全体・結婚別）】



【図表 3-12 職場におけるリーダー・管理職への昇進希望（クロス集計表）】

		回答者数	リーダー・管理職に昇進したい	リーダー・管理職に昇進したくない	昇進希望はない	昇進希望はないが、リーダー・管理職に昇進したくない	昇進希望はないが、リーダー・管理職に昇進したくない	昇進希望はないが、リーダー・管理職に昇進したくない	昇進希望はないが、リーダー・管理職に昇進したくない	昇進希望はないが、リーダー・管理職に昇進したくない	昇進希望はないが、リーダー・管理職に昇進したくない	昇進希望はないが、リーダー・管理職に昇進したくない	昇進希望はないが、リーダー・管理職に昇進したくない	昇進希望はないが、リーダー・管理職に昇進したくない
		上段:回答数(人) 下段:構成比(%)												
総計		309 100.0%	23 7.4%	13 4.2%	33 10.7%	33 10.7%	32 10.4%	28 9.1%	0 0.0%	36 11.7%	76 24.6%	4 1.3%	31 10.0%	
性・年代別	女性	166 100.0%	7 4.2%	2 1.2%	20 12.0%	26 15.7%	22 13.3%	21 12.7%	0 0.0%	7 4.2%	41 24.7%	2 1.2%	18 10.8%	
	20歳代	24 100.0%	1 4.2%	0 0.0%	5 20.8%	2 8.3%	5 20.8%	1 4.2%	0 0.0%	1 4.2%	8 33.3%	0 0.0%	1 4.2%	
	30歳代	35 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	4 11.4%	11 31.4%	3 8.6%	6 17.1%	0 0.0%	1 2.9%	5 14.3%	0 0.0%	5 14.3%	
	40歳代	46 100.0%	5 10.9%	1 2.2%	5 10.9%	8 17.4%	7 15.2%	2 4.3%	0 0.0%	3 6.5%	9 19.6%	2 4.3%	4 8.7%	
	50歳代	48 100.0%	1 2.1%	1 2.1%	6 12.5%	4 8.3%	6 12.5%	8 16.7%	0 0.0%	2 4.2%	13 27.1%	0 0.0%	7 14.6%	
	60歳代	13 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 7.7%	1 7.7%	4 30.8%	0 0.0%	0 0.0%	6 46.2%	0 0.0%	1 7.7%	
	男性	143 100.0%	16 11.2%	11 7.7%	13 9.1%	7 4.9%	10 7.0%	7 4.9%	0 0.0%	29 20.3%	35 24.5%	2 1.4%	13 9.1%	
	20歳代	21 100.0%	5 23.8%	5 23.8%	2 9.5%	1 4.8%	2 9.5%	0 0.0%	0 0.0%	1 4.8%	3 14.3%	0 0.0%	2 9.5%	
	30歳代	24 100.0%	4 16.7%	2 8.3%	3 12.5%	1 4.2%	4 16.7%	0 0.0%	0 0.0%	2 8.3%	6 25.0%	0 0.0%	2 8.3%	
	40歳代	43 100.0%	5 11.6%	1 2.3%	4 9.3%	4 9.3%	2 4.7%	1 2.3%	0 0.0%	10 23.3%	11 25.6%	0 0.0%	5 11.6%	
	50歳代	38 100.0%	1 2.6%	2 5.3%	3 7.9%	1 2.6%	1 2.6%	2 5.3%	0 0.0%	12 31.6%	11 28.9%	2 5.3%	3 7.9%	
	60歳代	17 100.0%	1 5.9%	1 5.9%	1 5.9%	0 0.0%	1 5.9%	4 23.5%	0 0.0%	4 23.5%	4 23.5%	0 0.0%	1 5.9%	
	結婚別	既婚	197 100.0%	14 7.1%	8 4.1%	15 7.6%	24 12.2%	12 6.1%	20 10.2%	0 0.0%	29 14.7%	51 25.9%	3 1.5%	21 10.7%
		離別・死別	30 100.0%	2 6.7%	1 3.3%	3 10.0%	2 6.7%	3 10.0%	5 16.7%	0 0.0%	3 10.0%	7 23.3%	0 0.0%	4 13.3%
未婚		82 100.0%	7 8.5%	4 4.9%	15 18.3%	7 8.5%	17 20.7%	3 3.7%	0 0.0%	4 4.9%	18 22.0%	1 1.2%	6 7.3%	

(6) 子育てや介護等の家庭の事情を抱えながら、働きやすい職場であるか

※問9で「常勤の勤め」、「非常勤の勤め」を選択された方のみ回答

【問13】あなたの職場は、子育てや介護等の家庭の事情を抱えながら、働きやすい職場ですか。（複数回答）

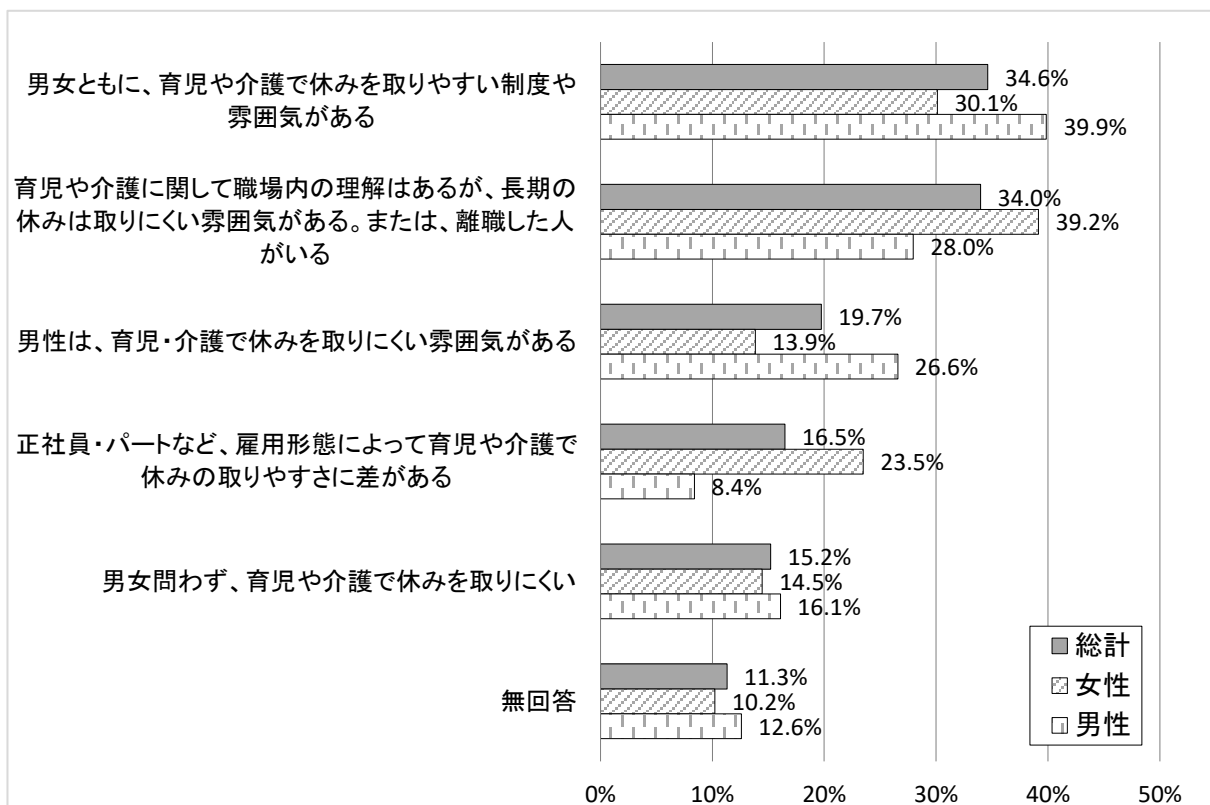
全体でみると、「男女ともに、育児や介護で休みを取りやすい制度や雰囲気がある」との回答が34.6%と最も多く、次いで「育児や介護に関して職場内の理解はあるが、長期の休みは取りにくい雰囲気がある。または、離職した人がいる（34.0%）」、「男性は、育児・介護で休みを取りにくい雰囲気がある（19.7%）」の順となっている。

性別でみると、男女間の差異がみられるのは、女性で「育児や介護に関して職場内の理解はあるが、長期の休みは取りにくい雰囲気がある。または、離職した人がいる」や「正社員・パートなど、雇用形態によって育児や介護で休みの取りやすさに差がある」との回答が男性より多く、一方で男性では「男女ともに、育児や介護で休みを取りやすい制度や雰囲気がある」や「男性は、育児・介護で休みを取りにくい雰囲気がある」との回答が女性より多くなっている。

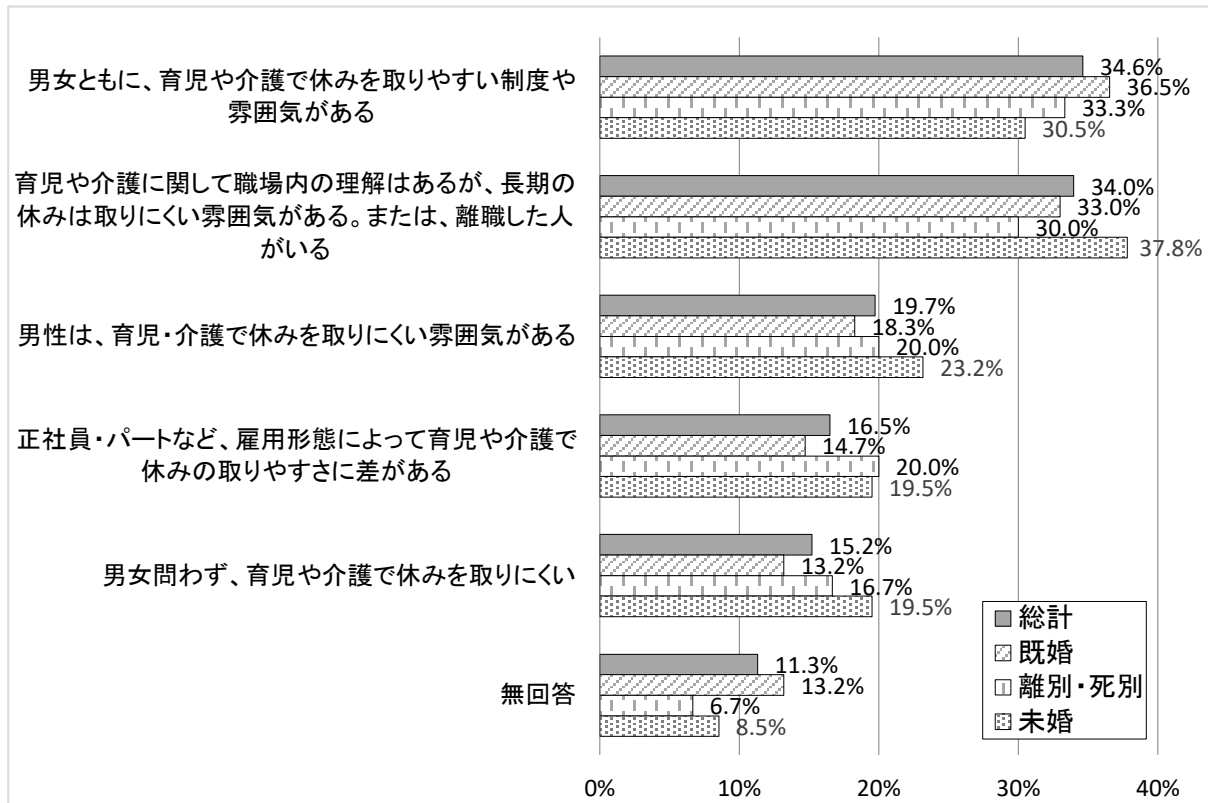
性・年代別でみると、「男女ともに、育児や介護で休みを取りやすい制度や雰囲気がある」との回答は、男女ともに20歳代が最も多く、「育児や介護に関して職場内の理解はあるが、長期の休みは取りにくい雰囲気がある。または、離職した人がいる」との回答は、女性が30歳代・40歳代、男性が30歳代が最も多い。また、「男性は、育児・介護で休みを取りにくい雰囲気がある」との回答は、50歳代男性が他の類型と比べ多くなっている。

結婚別でみると、全体と同様の傾向を示しているが、未婚において、「育児や介護に関して職場内の理解はあるが、長期の休みは取りにくい雰囲気がある。または、離職した人がいる」や「男性は、育児・介護で休みを取りにくい雰囲気がある」、「男女問わず、育児や介護で休みを取りにくい」との回答が他の類型に比べ多くなっている。

【図表3-13 子育てや介護等の家庭の事情を抱えながら、働きやすい職場であるか（全体・性別）】



【図表 3-14 子育てや介護等の家庭の事情を抱えながら、働きやすい職場であるか（全体・結婚別）】



【図表 3-15 子育てや介護等の家庭の事情を抱えながら、働きやすい職場であるか(クロス集計表)】

		回答者数	制度や雰囲気がある	男女ともに、育児や介護の気がある	長期の休みがある	場内の理解がある	育児や介護に関する職	気がある	休みの取りにくい	男性は、育児・介護で	やさしい差がある	雇用形態によって	正社員・パートなど、	女性問わず、育児や	無回答	
上段: 回答数(人) 下段: 構成比(%)																
総計		309	107	105	61	51	47	35	-	34.6%	34.0%	19.7%	16.5%	15.2%	11.3%	
性・年代別	女性	166	50	65	23	39	24	17	-	30.1%	39.2%	13.9%	23.5%	14.5%	10.2%	
	20歳代	24	11	9	2	7	2	1	-	45.8%	37.5%	8.3%	29.2%	8.3%	4.2%	
	30歳代	35	8	16	10	6	6	2	-	22.9%	45.7%	28.6%	17.1%	17.1%	5.7%	
	40歳代	46	12	21	7	10	9	4	-	26.1%	45.7%	15.2%	21.7%	19.6%	8.7%	
	50歳代	48	15	17	4	11	7	7	-	31.3%	35.4%	8.3%	22.9%	14.6%	14.6%	
	60歳代	13	4	2	0	5	0	3	-	30.8%	15.4%	0.0%	38.5%	0.0%	23.1%	
	男性	143	57	40	38	12	23	18	-	39.9%	28.0%	26.6%	8.4%	16.1%	12.6%	
	20歳代	21	11	3	3	1	1	3	-	52.4%	14.3%	14.3%	4.8%	4.8%	14.3%	
	30歳代	24	10	12	6	2	5	3	-	41.7%	50.0%	25.0%	8.3%	20.8%	12.5%	
	40歳代	43	15	16	10	3	5	6	-	34.9%	37.2%	23.3%	7.0%	11.6%	14.0%	
	50歳代	38	13	5	16	4	7	5	-	34.2%	13.2%	42.1%	10.5%	18.4%	13.2%	
	60歳代	17	8	4	3	2	5	1	-	47.1%	23.5%	17.6%	11.8%	29.4%	5.9%	
	結婚別	既婚	197	72	65	36	29	26	26	-	36.5%	33.0%	18.3%	14.7%	13.2%	13.2%
		離別・死別	30	10	9	6	6	5	2	-	33.3%	30.0%	20.0%	20.0%	16.7%	6.7%
未婚		82	25	31	19	16	16	7	-	30.5%	37.8%	23.2%	19.5%	19.5%	8.5%	

(7) 政治・経済・地域・職場など各分野で女性のリーダーを増やすときに障害となるもの

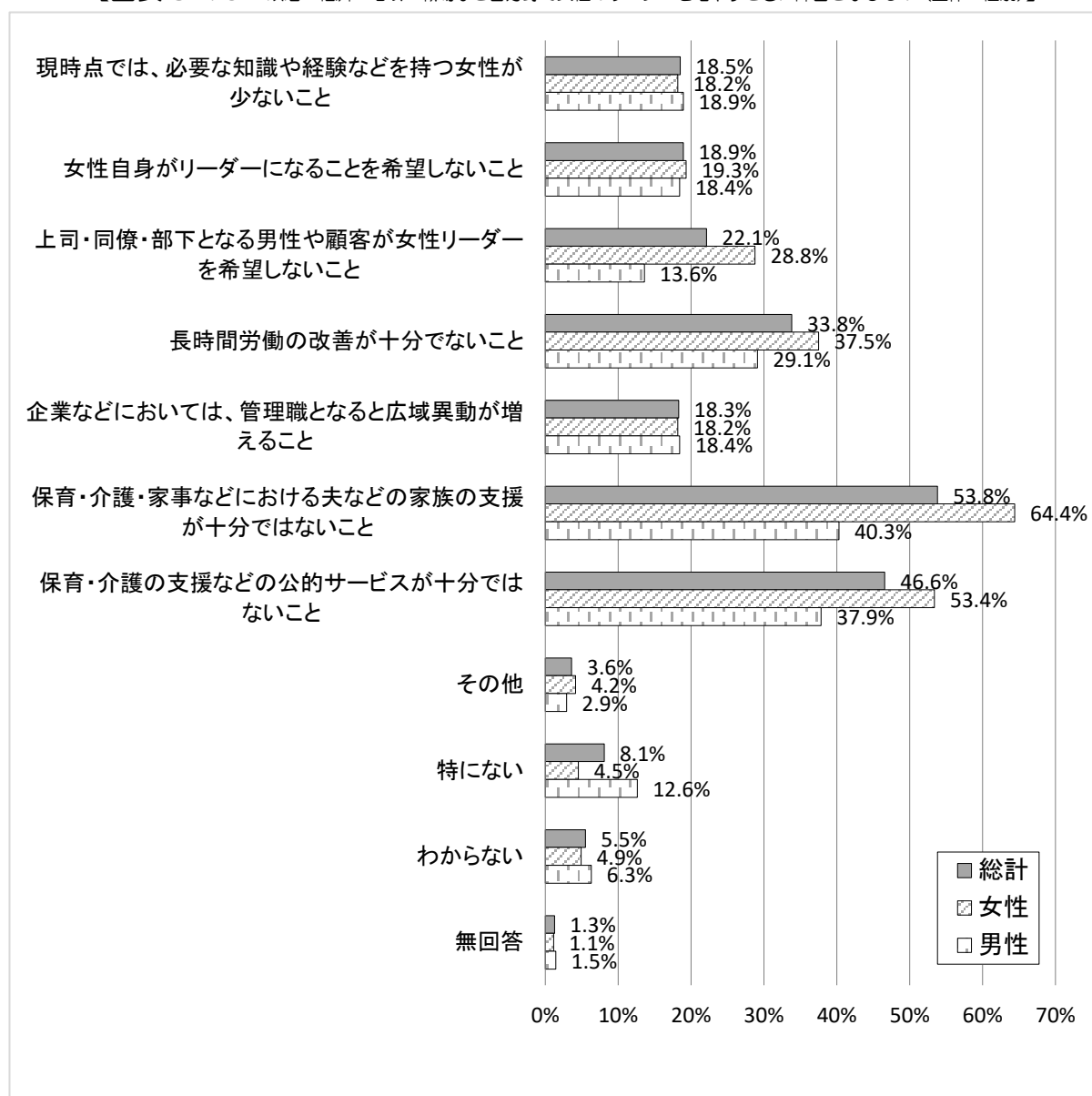
【問 14】あなたは、政治・経済・地域・職場など各分野で女性のリーダー・管理職を増やすときに障害となるものは、何だと思えますか。(複数回答)

全体でみると、「保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分でないこと」との回答が 53.8%と最も多く、次いで「保育・介護の支援などの公的サービスが十分ではないこと(46.6%)」、「長時間の労働の改善が十分でないこと(33.8%)」の順となっている。

性別でみると、男女間の差異は、「保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分でないこと」で最も大きく、女性が男性より 24.1 ポイント多い。続いて、「保育・介護の支援などの公的サービスが十分ではないこと」で 15.5 ポイント、「上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性リーダーを希望しないこと」で 15.2 ポイント女性が大きい。

性・年代別でみると、「保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分でないこと」との回答は、30 歳代女性(72.4%)が、全ての回答の中で最も多くなっている。

【図表 3-16 政治・経済・地域・職場など各分野で女性のリーダーを増やすときに障害となるもの(全体・性別)】



【図表 3-17 政治・経済・地域・職場など各分野で女性のリーダーを増やすときに障害となるもの（クロス集計表）】

		回答者数	い な 現 持 こ と つ 女 性 が 少 な い	な 知 識 や 経 験 が 少 な い	時 点 で は 、 必 要 な こ と が あ ら ず	希 望 し な い こ と を	女 性 自 身 が リ ー ダ ー に な る こ と を	希 望 し な い こ と を	と 上 司 ・ 同 僚 ・ 顧 客 下 に な る こ と を	が 長 時 間 で 働 き づ か い こ と を	と 企 業 ・ 業 界 ・ 官 公 庁 ・ 学 校 ・ 社 会 に お い て の 支 援 が あ ら ず	保 育 ・ 介 護 の 支 援 が あ ら ず	な ど の 支 援 が あ ら ず	保 育 ・ 介 護 の 支 援 が あ ら ず	そ の 他	
上段：回答数(人) 下段：構成比(%)																
総 計		470	87	89	104	159	86	253	219	17						
		-	18.5%	18.9%	22.1%	33.8%	18.3%	53.8%	46.6%	3.6%						
性・年代別	女 性	264	48	51	76	99	48	170	141	11						
		-	18.2%	19.3%	28.8%	37.5%	18.2%	64.4%	53.4%	4.2%						
	20歳代	34	6	8	10	13	8	23	23	1						
		-	17.6%	23.5%	29.4%	38.2%	23.5%	67.6%	67.6%	2.9%						
	30歳代	58	7	13	20	22	8	42	37	3						
		-	12.1%	22.4%	34.5%	37.9%	13.8%	72.4%	63.8%	5.2%						
	40歳代	63	10	15	21	25	13	35	24	3						
		-	15.9%	23.8%	33.3%	39.7%	20.6%	55.6%	38.1%	4.8%						
	50歳代	65	13	7	16	23	12	42	34	4						
		-	20.0%	10.8%	24.6%	35.4%	18.5%	64.6%	52.3%	6.2%						
	60歳代	43	11	8	9	15	7	28	23	0						
		-	25.6%	18.6%	20.9%	34.9%	16.3%	65.1%	53.5%	0.0%						
	男 性	206	39	38	28	60	38	83	78	6						
		-	18.9%	18.4%	13.6%	29.1%	18.4%	40.3%	37.9%	2.9%						
20歳代	26	6	8	4	8	5	6	7	1							
	-	23.1%	30.8%	15.4%	30.8%	19.2%	23.1%	26.9%	3.8%							
30歳代	32	5	7	0	10	7	8	12	3							
	-	15.6%	21.9%	0.0%	31.3%	21.9%	25.0%	37.5%	9.4%							
40歳代	50	9	9	9	17	9	24	16	0							
	-	18.0%	18.0%	18.0%	34.0%	18.0%	48.0%	32.0%	0.0%							
50歳代	55	6	6	8	14	9	24	22	0							
	-	10.9%	10.9%	14.5%	25.5%	16.4%	43.6%	40.0%	0.0%							
60歳代	42	12	8	7	10	8	21	20	2							
	-	28.6%	19.0%	16.7%	23.8%	19.0%	50.0%	47.6%	4.8%							

		特 に な い	わ か ら な い	無 回 答
上段：回答数(人) 下段：構成比(%)				
総 計		38	26	6
		8.1%	5.5%	1.3%
性・年代別	女 性	12	13	3
		4.5%	4.9%	1.1%
	20歳代	1	0	1
		2.9%	0.0%	2.9%
	30歳代	3	3	0
		5.2%	5.2%	0.0%
	40歳代	3	5	0
		4.8%	7.9%	0.0%
	50歳代	4	1	1
		6.2%	1.5%	1.5%
	60歳代	1	4	1
		2.3%	9.3%	2.3%
	男 性	26	13	3
		12.6%	6.3%	1.5%
20歳代	4	1	0	
	15.4%	3.8%	0.0%	
30歳代	2	5	0	
	6.3%	15.6%	0.0%	
40歳代	4	1	1	
	8.0%	2.0%	2.0%	
50歳代	9	5	1	
	16.4%	9.1%	1.8%	
60歳代	7	1	1	
	16.7%	2.4%	2.4%	

(8) 女性が出産後も働き続けるために、家庭・社会・職場において必要なこと

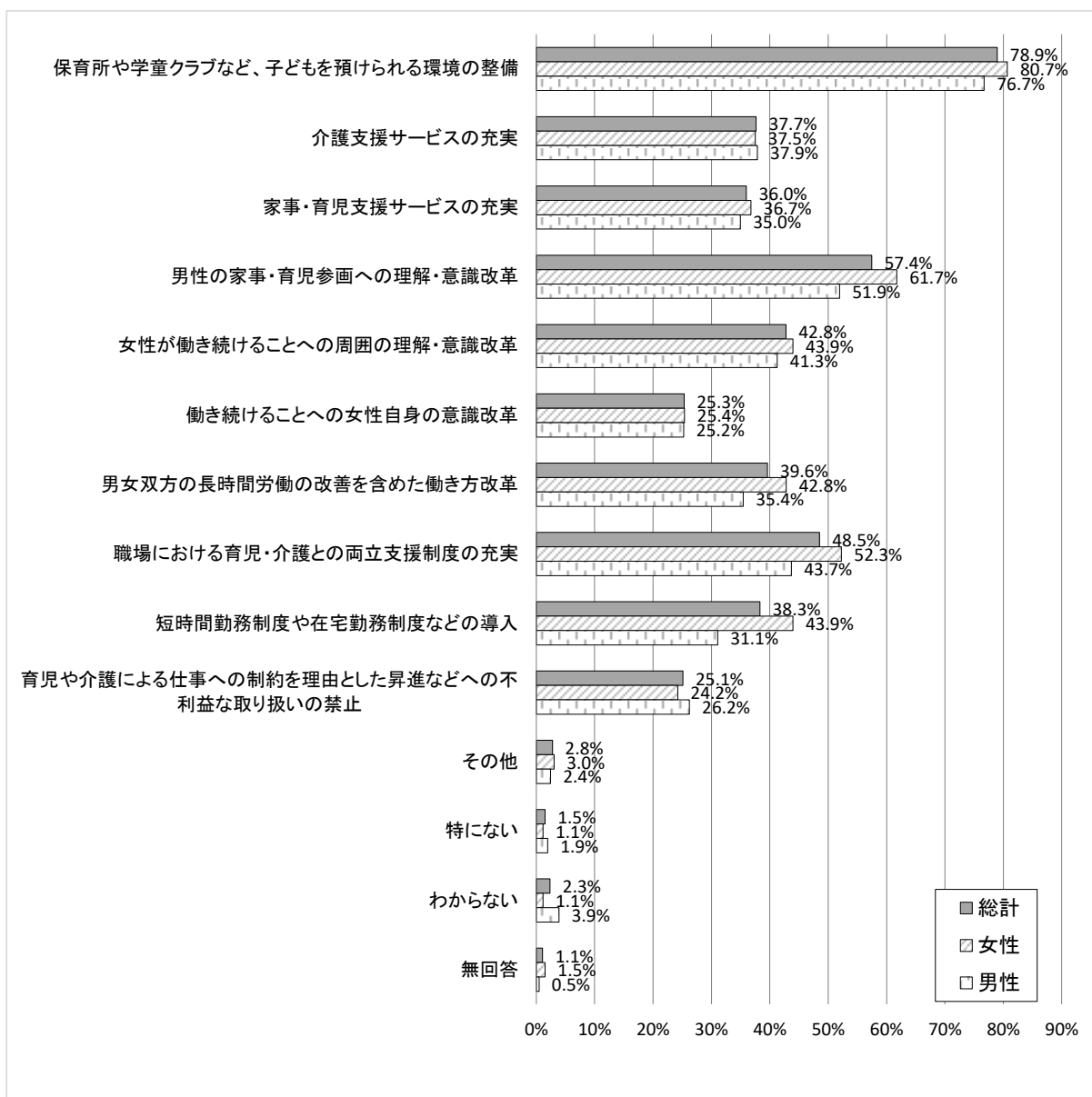
【問 15】あなたは、女性が出産後も離職せずに同じ職場で働き続けるために、家庭・社会・職場において必要なことは何だと思いますか。（複数回答）

全体で見ると、「保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備」との回答が78.9%と最も多く約8割を占めており、次いで「男性の家事・育児参画への理解・意識改革（57.4%）」、「職場における育児・介護との両立支援制度の充実（48.5%）」の順となっている。

性別で見ると、全体での回答と同様の傾向を示しており、特に大きな差異はみられない。男女の差異が大きいのは、「短時間勤務制度や在宅勤務制度などの導入」で12.8ポイント、「男性の家事・育児参加への理解・意識改革」で9.8ポイント、「職場における育児・介護との両立支援制度の充実」で8.6%、いずれも女性の回答が男性を上回っている。

性・年代別にみると、20歳代・30歳代の女性が、「保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備」の回答で、80~90%台と他の類型に比べて多くなっている。「男性の家事・育児参加への理解・意識改革」は、20歳代・30歳代女性、30歳代男性で多くなっている。

【図表 3-18 女性が出産後も働き続けるために、家庭・社会・職場において必要なこと（全体・性別）】



【図表 3-19 女性が出産後も働き続けるために、家庭・社会・職場において必要なこと（クロス集計表）】

		回答者数	保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備	介護支援サービスの充実	家事・育児支援サービスの充実	男性の家事・育児参画への理解・意識改革	女性が働き続けることへの周囲の理解・意識改革	働き続けることへの女性の意識改革	男女双方の長時間労働の改善を含めた働き方改革	職場における育児・介護との両立支援制度の充実
		上段: 回答数(人) 下段: 構成比(%)								
総計		470 -	371 78.9%	177 37.7%	169 36.0%	270 57.4%	201 42.8%	119 25.3%	186 39.6%	228 48.5%
性・年代別	女性	264 -	213 80.7%	99 37.5%	97 36.7%	163 61.7%	116 43.9%	67 25.4%	113 42.8%	138 52.3%
	20歳代	34 -	33 97.1%	10 29.4%	13 38.2%	26 76.5%	14 41.2%	6 17.6%	15 44.1%	19 55.9%
	30歳代	58 -	48 82.8%	22 37.9%	28 48.3%	38 65.5%	29 50.0%	17 29.3%	29 50.0%	33 56.9%
	40歳代	63 -	49 77.8%	18 28.6%	17 27.0%	37 58.7%	24 38.1%	13 20.6%	32 50.8%	26 41.3%
	50歳代	65 -	52 80.0%	33 50.8%	28 43.1%	41 63.1%	29 44.6%	19 29.2%	26 40.0%	33 50.8%
	60歳代	43 -	31 72.1%	16 37.2%	11 25.6%	21 48.8%	20 46.5%	12 27.9%	10 23.3%	27 62.8%
	男性	206 -	158 76.7%	78 37.9%	72 35.0%	107 51.9%	85 41.3%	52 25.2%	73 35.4%	90 43.7%
	20歳代	26 -	19 73.1%	6 23.1%	8 30.8%	13 50.0%	10 38.5%	6 23.1%	7 26.9%	10 38.5%
	30歳代	32 -	26 81.3%	10 31.3%	13 40.6%	23 71.9%	12 37.5%	4 12.5%	12 37.5%	16 50.0%
	40歳代	50 -	39 78.0%	15 30.0%	15 30.0%	26 52.0%	20 40.0%	14 28.0%	24 48.0%	22 44.0%
	50歳代	55 -	43 78.2%	26 47.3%	16 29.1%	24 43.6%	24 43.6%	11 20.0%	20 36.4%	26 47.3%
	60歳代	42 -	30 71.4%	21 50.0%	19 45.2%	20 47.6%	18 42.9%	16 38.1%	10 23.8%	16 38.1%
		上段: 回答数(人) 下段: 構成比(%)	勤務時間制など導入	昇進などの禁止	育児や介護による仕事への理由とした	その他	特にな	わからない	無回答	
総計		180 38.3%	118 25.1%	13 2.8%	7 1.5%	11 2.3%	5 1.1%			
性・年代別	女性	116 43.9%	64 24.2%	8 3.0%	3 1.1%	3 1.1%	4 1.5%			
	20歳代	17 50.0%	7 20.6%	1 2.9%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%			
	30歳代	35 60.3%	18 31.0%	2 3.4%	0 0.0%	1 1.7%	1 1.7%			
	40歳代	30 47.6%	17 27.0%	4 6.3%	1 1.6%	0 0.0%	1 1.6%			
	50歳代	21 32.3%	15 23.1%	1 1.5%	1 1.5%	0 0.0%	0 0.0%			
	60歳代	12 27.9%	7 16.3%	0 0.0%	1 2.3%	2 4.7%	2 4.7%			
	男性	64 31.1%	54 26.2%	5 2.4%	4 1.9%	8 3.9%	1 0.5%			
	20歳代	8 30.8%	5 19.2%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%			
	30歳代	14 43.8%	9 28.1%	3 9.4%	0 0.0%	1 3.1%	0 0.0%			
	40歳代	17 34.0%	14 28.0%	1 2.0%	2 4.0%	2 4.0%	0 0.0%			
	50歳代	14 25.5%	14 25.5%	0 0.0%	0 0.0%	4 7.3%	0 0.0%			
	60歳代	11 26.2%	11 26.2%	1 2.4%	2 4.8%	1 2.4%	1 2.4%			

4. 家庭生活について

(1) 家庭における夫婦の役割分担について

※現在、結婚をされている方のみ回答

【問 16】あなたの家庭では、現在、次のような事柄を主に誰が行っていますか。

(項目ごとに単一回答)

全体でみると、4項目中、「妻」との回答が最も多かったのは、「家事(65.8%)」、「育児(41.0%)」の2項目であった。一方で、「家事」、「育児」、「介護・看護」の3項目で、「夫」との回答は、それぞれ5%にも満たない状況である。また、「介護・看護」については、「該当しない」との回答が最も多く、「自治会、町内会、公民館など地域活動への参加」については、「夫と妻が分担」との回答が最も多くなっている。

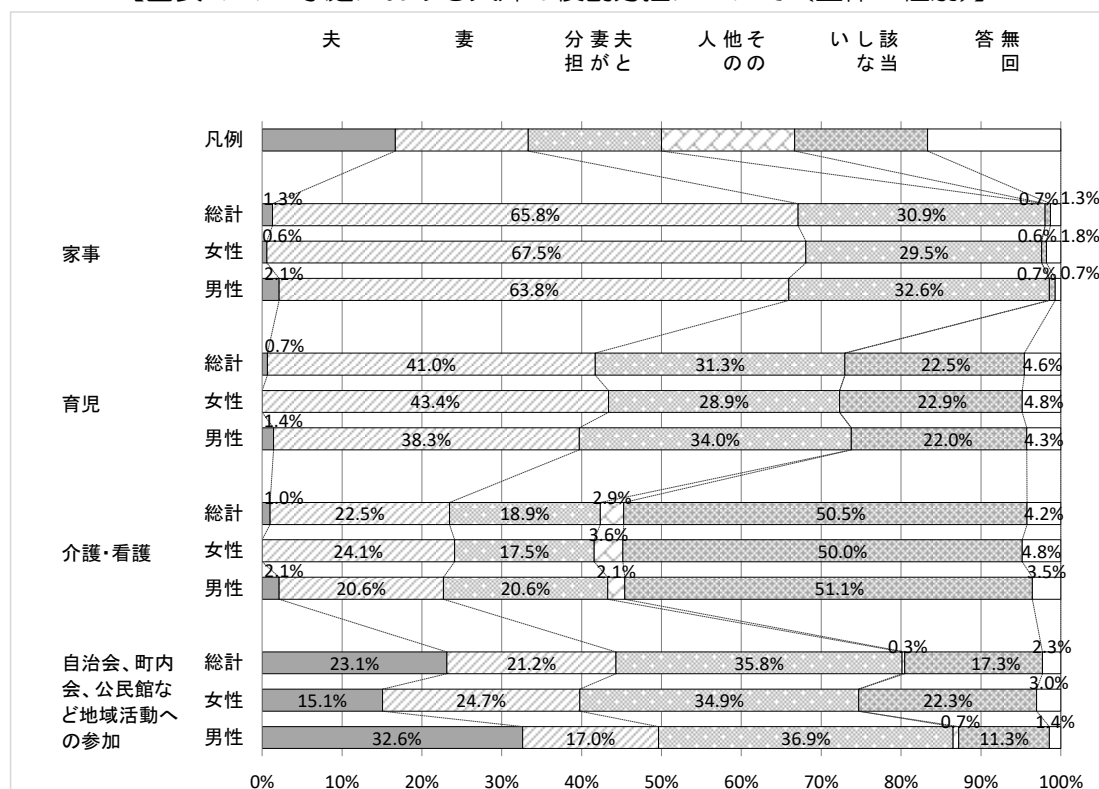
性別でみると、「家事」、「育児」、「介護・看護」では男女間で特に大きな差異はみられなかったが、「自治会、町内会、公民館など地域活動への参加」では、「夫」と回答が、女性は15.1%のところ、男性は32.6%と17.5ポイントの差異がみられた。

性・年代別でみると、「家事」の役割分担は、女性は各年代とも7割前後で「妻」と回答しているが、男性は、年代が上がるほど「妻」の回答が多くなり、年代が下がるほど「夫と妻が分担」との回答が多くなっている。

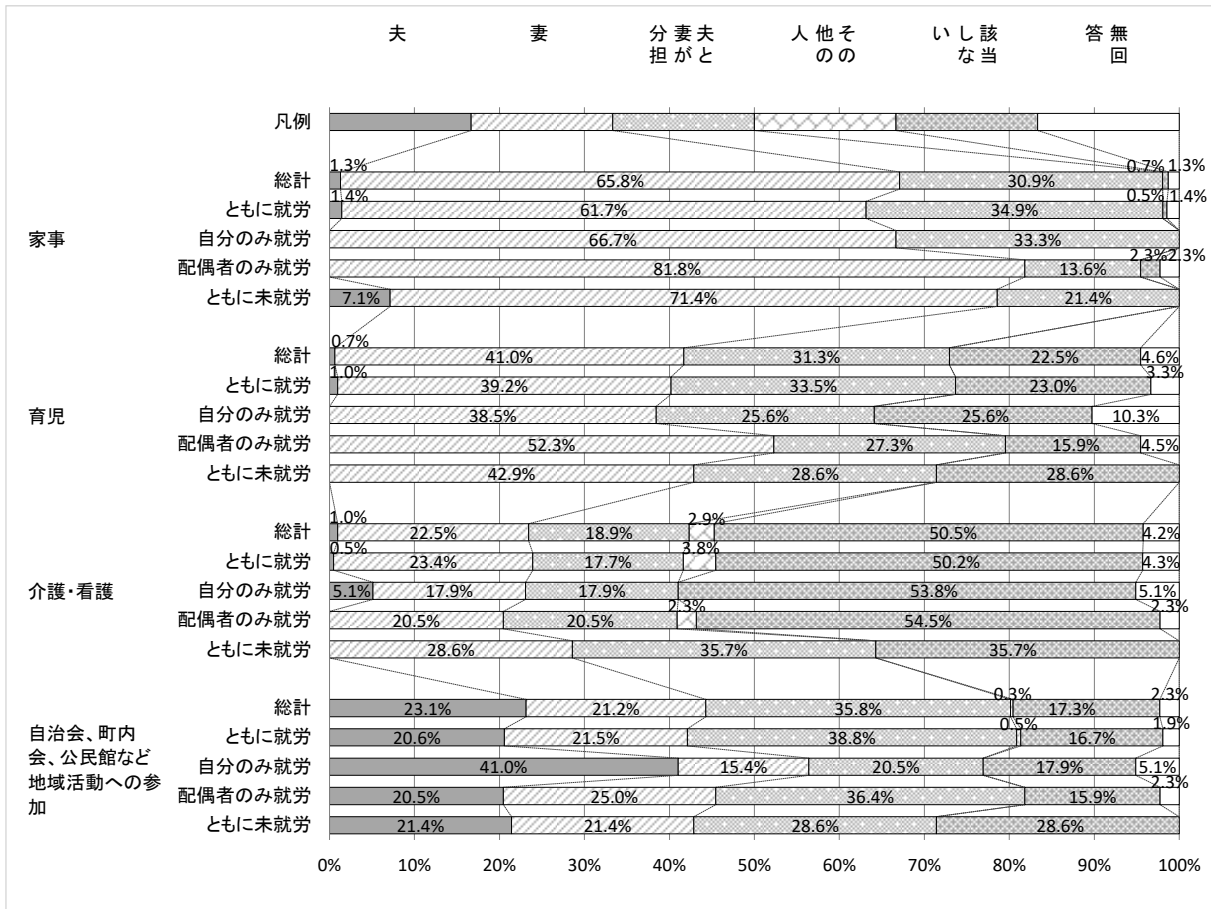
夫婦の就労別でみると、「家事」において、「配偶者のみ就労」や「ともに未就労」で「妻」との回答が多くなっている。また「育児」では、「配偶者のみ就労」で「妻」との回答が多くなっている。「自治会、町内会、公民館など地域活動への参加」では、「自分のみ就労」で「夫」との回答が多く、「ともに就労」で「夫と妻が分担」が多くなっている。

職業別にみると、いずれの職業でも、「家事」「育児」「介護・看護」においては「夫と妻が分担」よりも「妻」との回答が多いが、「自治会・町内会・公民館など地域活動への参加」では、「夫と妻が分担」が最も多い。

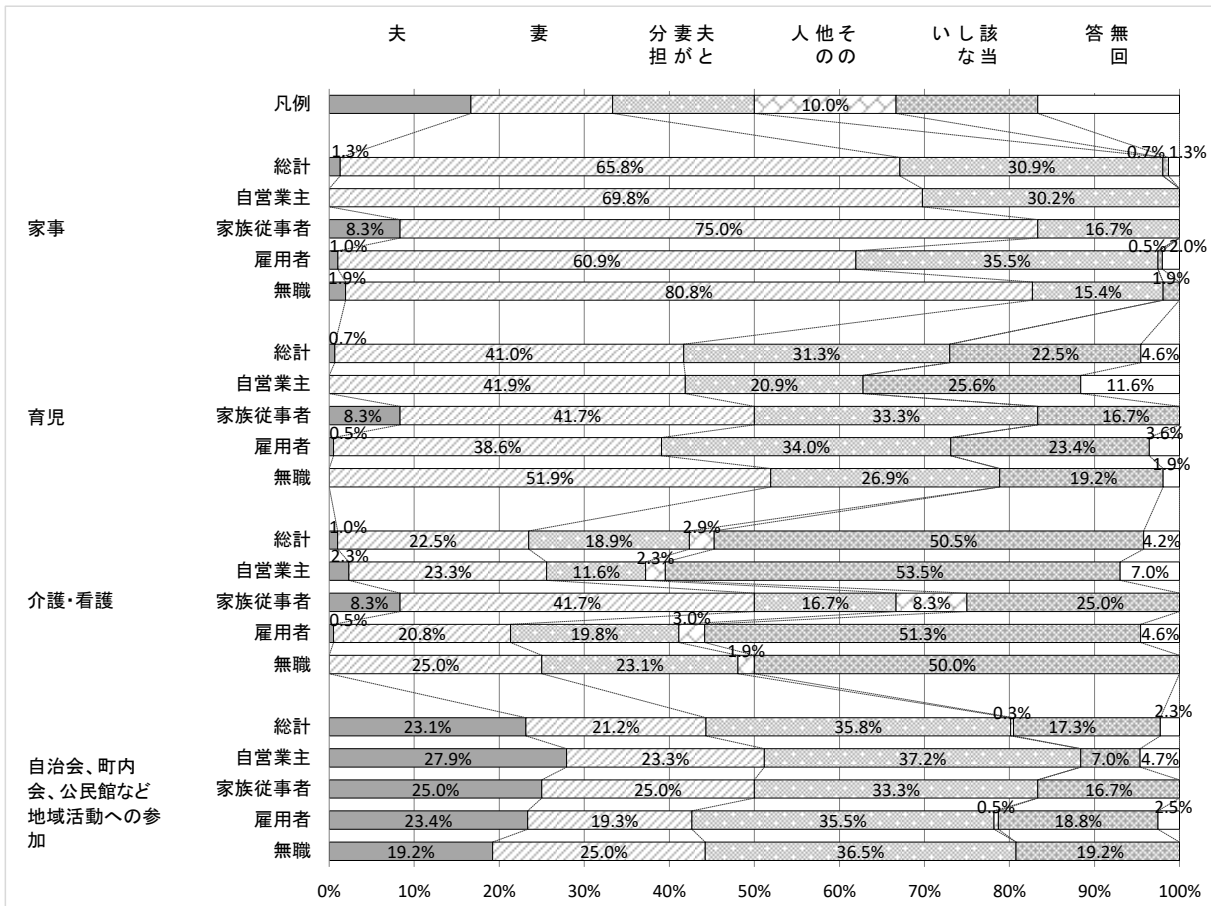
【図表 4-1 家庭における夫婦の役割分担について (全体・性別)】



【図表 4-2 家庭における夫婦の役割分担について（全体・夫婦の就労別）】



【図表 4-3 家庭における夫婦の役割分担について（全体・職業別）】



【図表 4-4 「家事」における役割分担（クロス集計表）】

		回 答 者 数	夫	妻	分 担 と 妻 が	人 そ の 他 の	い 該 当 し な	無 回 答	
上段: 回答数(人) 下段: 構成比(%)									
総 計		307 100.0%	4 1.3%	202 65.8%	95 30.9%	0 0.0%	2 0.7%	4 1.3%	
性・年代別	女 性	166 100.0%	1 0.6%	112 67.5%	49 29.5%	0 0.0%	1 0.6%	3 1.8%	
	20歳代	7 100.0%	0 0.0%	5 71.4%	1 14.3%	0 0.0%	0 0.0%	1 14.3%	
	30歳代	39 100.0%	0 0.0%	26 66.7%	13 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	
	40歳代	40 100.0%	0 0.0%	28 70.0%	12 30.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	
	50歳代	52 100.0%	0 0.0%	34 65.4%	17 32.7%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.9%	
	60歳代	27 100.0%	1 3.7%	18 66.7%	6 22.2%	0 0.0%	1 3.7%	1 3.7%	
	男 性	141 100.0%	3 2.1%	90 63.8%	46 32.6%	0 0.0%	1 0.7%	1 0.7%	
	20歳代	8 100.0%	0 0.0%	3 37.5%	5 62.5%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	
	30歳代	22 100.0%	0 0.0%	12 54.5%	10 45.5%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	
	40歳代	36 100.0%	1 2.8%	20 55.6%	15 41.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	
	50歳代	40 100.0%	1 2.5%	26 65.0%	11 27.5%	0 0.0%	1 2.5%	1 2.5%	
	60歳代	34 100.0%	1 2.9%	28 82.4%	5 14.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	
	夫婦の 就 労 状 況 別	ともに就労	209 100.0%	3 1.4%	129 61.7%	73 34.9%	0 0.0%	1 0.5%	3 1.4%
		自分のみ 就労	39 100.0%	0 0.0%	26 66.7%	13 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
配偶者のみ 就労		44 100.0%	0 0.0%	36 81.8%	6 13.6%	0 0.0%	1 2.3%	1 2.3%	
ともに未就労		14 100.0%	1 7.1%	10 71.4%	3 21.4%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	
職 業 別	自営業主	43 100.0%	0 0.0%	30 69.8%	13 30.2%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	
	家族従事者	12 100.0%	1 8.3%	9 75.0%	2 16.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	
	雇用者	197 100.0%	2 1.0%	120 60.9%	70 35.5%	0 0.0%	1 0.5%	4 2.0%	
	無 職	52 100.0%	1 1.9%	42 80.8%	8 15.4%	0 0.0%	1 1.9%	0 0.0%	

【図表 4-5 「育児」における役割分担（クロス集計表）】

		回答者数	夫	妻	分夫 担と 妻が	人そ の 他の	い該 当 し な	無 回 答	
上段: 回答数(人) 下段: 構成比(%)									
総計		307 100.0%	2 0.7%	126 41.0%	96 31.3%	0 0.0%	69 22.5%	14 4.6%	
性・年代別	女性	166 100.0%	0 0.0%	72 43.4%	48 28.9%	0 0.0%	38 22.9%	8 4.8%	
	20歳代	7 100.0%	0 0.0%	5 71.4%	1 14.3%	0 0.0%	0 0.0%	1 14.3%	
	30歳代	39 100.0%	0 0.0%	18 46.2%	14 35.9%	0 0.0%	7 17.9%	0 0.0%	
	40歳代	40 100.0%	0 0.0%	19 47.5%	14 35.0%	0 0.0%	7 17.5%	0 0.0%	
	50歳代	52 100.0%	0 0.0%	20 38.5%	14 26.9%	0 0.0%	16 30.8%	2 3.8%	
	60歳代	27 100.0%	0 0.0%	10 37.0%	5 18.5%	0 0.0%	7 25.9%	5 18.5%	
	男性	141 100.0%	2 1.4%	54 38.3%	48 34.0%	0 0.0%	31 22.0%	6 4.3%	
	20歳代	8 100.0%	0 0.0%	1 12.5%	3 37.5%	0 0.0%	4 50.0%	0 0.0%	
	30歳代	22 100.0%	0 0.0%	12 54.5%	7 31.8%	0 0.0%	3 13.6%	0 0.0%	
	40歳代	36 100.0%	0 0.0%	15 41.7%	13 36.1%	0 0.0%	7 19.4%	1 2.8%	
	50歳代	40 100.0%	1 2.5%	13 32.5%	18 45.0%	0 0.0%	6 15.0%	2 5.0%	
	60歳代	34 100.0%	1 2.9%	13 38.2%	7 20.6%	0 0.0%	10 29.4%	3 8.8%	
	夫婦の 就労 状況別	ともに就労	209 100.0%	2 1.0%	82 39.2%	70 33.5%	0 0.0%	48 23.0%	7 3.3%
		自分のみ 就労	39 100.0%	0 0.0%	15 38.5%	10 25.6%	0 0.0%	10 25.6%	4 10.3%
配偶者のみ 就労		44 100.0%	0 0.0%	23 52.3%	12 27.3%	0 0.0%	7 15.9%	2 4.5%	
ともに未就労		14 100.0%	0 0.0%	6 42.9%	4 28.6%	0 0.0%	4 28.6%	0 0.0%	
職業別	自営業主	43 100.0%	0 0.0%	18 41.9%	9 20.9%	0 0.0%	11 25.6%	5 11.6%	
	家族従事者	12 100.0%	1 8.3%	5 41.7%	4 33.3%	0 0.0%	2 16.7%	0 0.0%	
	雇用者	197 100.0%	1 0.5%	76 38.6%	67 34.0%	0 0.0%	46 23.4%	7 3.6%	
	無職	52 100.0%	0 0.0%	27 51.9%	14 26.9%	0 0.0%	10 19.2%	1 1.9%	

【図表 4-6 「介護・看護」における役割分担（クロス集計表）】

		回答者数	夫	妻	分夫 担と 妻が	人そ の 他の	い該 当し な	無 回 答	
上段: 回答数(人) 下段: 構成比(%)									
総計		307 100.0%	3 1.0%	69 22.5%	58 18.9%	9 2.9%	155 50.5%	13 4.2%	
性・年代別	女性	166 100.0%	0 0.0%	40 24.1%	29 17.5%	6 3.6%	83 50.0%	8 4.8%	
	20歳代	7 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 28.6%	0 0.0%	4 57.1%	1 14.3%	
	30歳代	39 100.0%	0 0.0%	6 15.4%	1 2.6%	1 2.6%	31 79.5%	0 0.0%	
	40歳代	40 100.0%	0 0.0%	12 30.0%	8 20.0%	2 5.0%	18 45.0%	0 0.0%	
	50歳代	52 100.0%	0 0.0%	15 28.8%	10 19.2%	3 5.8%	21 40.4%	3 5.8%	
	60歳代	27 100.0%	0 0.0%	7 25.9%	8 29.6%	0 0.0%	8 29.6%	4 14.8%	
	男性	141 100.0%	3 2.1%	29 20.6%	29 20.6%	3 2.1%	72 51.1%	5 3.5%	
	20歳代	8 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 12.5%	0 0.0%	7 87.5%	0 0.0%	
	30歳代	22 100.0%	0 0.0%	3 13.6%	1 4.5%	0 0.0%	18 81.8%	0 0.0%	
	40歳代	36 100.0%	1 2.8%	6 16.7%	5 13.9%	0 0.0%	24 66.7%	0 0.0%	
	50歳代	40 100.0%	0 0.0%	12 30.0%	12 30.0%	1 2.5%	12 30.0%	3 7.5%	
	60歳代	34 100.0%	2 5.9%	8 23.5%	10 29.4%	2 5.9%	10 29.4%	2 5.9%	
	夫婦の 就労 状況別	ともに就労	209 100.0%	1 0.5%	49 23.4%	37 17.7%	8 3.8%	105 50.2%	9 4.3%
		自分のみ 就労	39 100.0%	2 5.1%	7 17.9%	7 17.9%	0 0.0%	21 53.8%	2 5.1%
配偶者のみ 就労		44 100.0%	0 0.0%	9 20.5%	9 20.5%	1 2.3%	24 54.5%	1 2.3%	
ともに未就労		14 100.0%	0 0.0%	4 28.6%	5 35.7%	0 0.0%	5 35.7%	0 0.0%	
職業別	自営業主	43 100.0%	1 2.3%	10 23.3%	5 11.6%	1 2.3%	23 53.5%	3 7.0%	
	家族従事者	12 100.0%	1 8.3%	5 41.7%	2 16.7%	1 8.3%	3 25.0%	0 0.0%	
	雇用者	197 100.0%	1 0.5%	41 20.8%	39 19.8%	6 3.0%	101 51.3%	9 4.6%	
	無職	52 100.0%	0 0.0%	13 25.0%	12 23.1%	1 1.9%	26 50.0%	0 0.0%	

【図表 4-7 「自治会、町内会、公民館など地域活動への参加」における役割分担（クロス集計表）】

		回答者数	夫	妻	分夫 担と 妻が	人そ 他の	い該 当し な	無 回 答	
上段: 回答数(人) 下段: 構成比(%)									
総計		307 100.0%	71 23.1%	65 21.2%	110 35.8%	1 0.3%	53 17.3%	7 2.3%	
性・ 年代別	女性	166 100.0%	25 15.1%	41 24.7%	58 34.9%	0 0.0%	37 22.3%	5 3.0%	
	20歳代	7 100.0%	0 0.0%	2 28.6%	2 28.6%	0 0.0%	2 28.6%	1 14.3%	
	30歳代	39 100.0%	4 10.3%	8 20.5%	15 38.5%	0 0.0%	12 30.8%	0 0.0%	
	40歳代	40 100.0%	7 17.5%	13 32.5%	14 35.0%	0 0.0%	6 15.0%	0 0.0%	
	50歳代	52 100.0%	8 15.4%	11 21.2%	17 32.7%	0 0.0%	15 28.8%	1 1.9%	
	60歳代	27 100.0%	6 22.2%	7 25.9%	10 37.0%	0 0.0%	1 3.7%	3 11.1%	
	男性	141 100.0%	46 32.6%	24 17.0%	52 36.9%	1 0.7%	16 11.3%	2 1.4%	
	20歳代	8 100.0%	5 62.5%	0 0.0%	2 25.0%	0 0.0%	1 12.5%	0 0.0%	
	30歳代	22 100.0%	6 27.3%	1 4.5%	12 54.5%	0 0.0%	3 13.6%	0 0.0%	
	40歳代	36 100.0%	6 16.7%	9 25.0%	18 50.0%	1 2.8%	2 5.6%	0 0.0%	
	50歳代	40 100.0%	11 27.5%	8 20.0%	16 40.0%	0 0.0%	4 10.0%	1 2.5%	
	60歳代	34 100.0%	17 50.0%	6 17.6%	4 11.8%	0 0.0%	6 17.6%	1 2.9%	
	夫婦 の就 労状 況別	ともに就労	209 100.0%	43 20.6%	45 21.5%	81 38.8%	1 0.5%	35 16.7%	4 1.9%
		自分のみ 就労	39 100.0%	16 41.0%	6 15.4%	8 20.5%	0 0.0%	7 17.9%	2 5.1%
配偶者のみ 就労		44 100.0%	9 20.5%	11 25.0%	16 36.4%	0 0.0%	7 15.9%	1 2.3%	
ともに未就労		14 100.0%	3 21.4%	3 21.4%	4 28.6%	0 0.0%	4 28.6%	0 0.0%	
職業 別	自営業主	43 100.0%	12 27.9%	10 23.3%	16 37.2%	0 0.0%	3 7.0%	2 4.7%	
	家族従事者	12 100.0%	3 25.0%	3 25.0%	4 33.3%	0 0.0%	2 16.7%	0 0.0%	
	雇用者	197 100.0%	46 23.4%	38 19.3%	70 35.5%	1 0.5%	37 18.8%	5 2.5%	
	無職	52 100.0%	10 19.2%	13 25.0%	19 36.5%	0 0.0%	10 19.2%	0 0.0%	

5. 仕事と家庭・地域への取組について

(1) 男女の「仕事」、「家庭生活」、「地域活動」の優先度

【問 17】生活の中での「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」（地域活動・学習・趣味・付き合い等）の優先度について、あなたの希望はどれに当てはまりますか。
（単一回答）

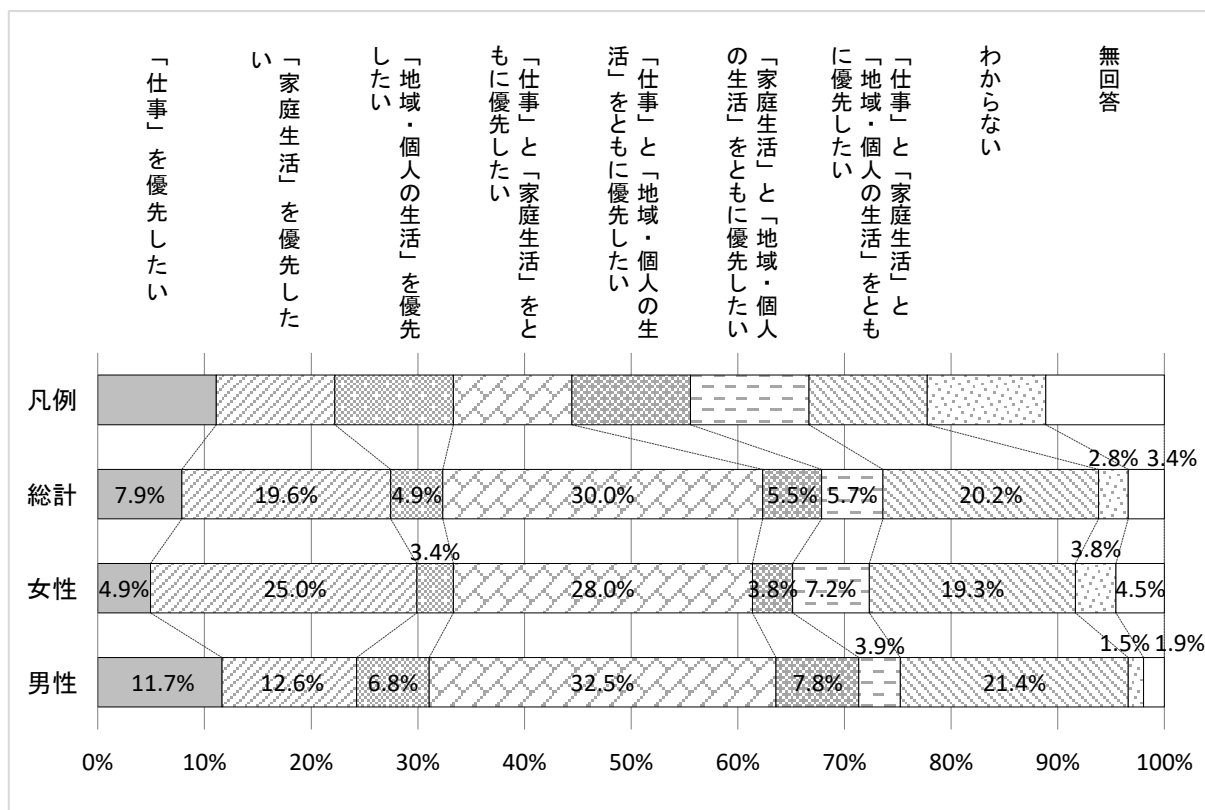
全体でみると、「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい」との回答が 30.0%で最も多く、次いで「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい（20.2%）、「家庭生活」を優先したい（19.6%）」の順となっている。

性別でみると、男女ともに1位は全体での回答と同様で、「仕事」と「家庭生活」をともに優先させたい」であるが、2位と3位は男女間で逆となり、特に女性の2位の回答、「家庭生活」を優先したい」については、男性より 12.4 ポイント多い。

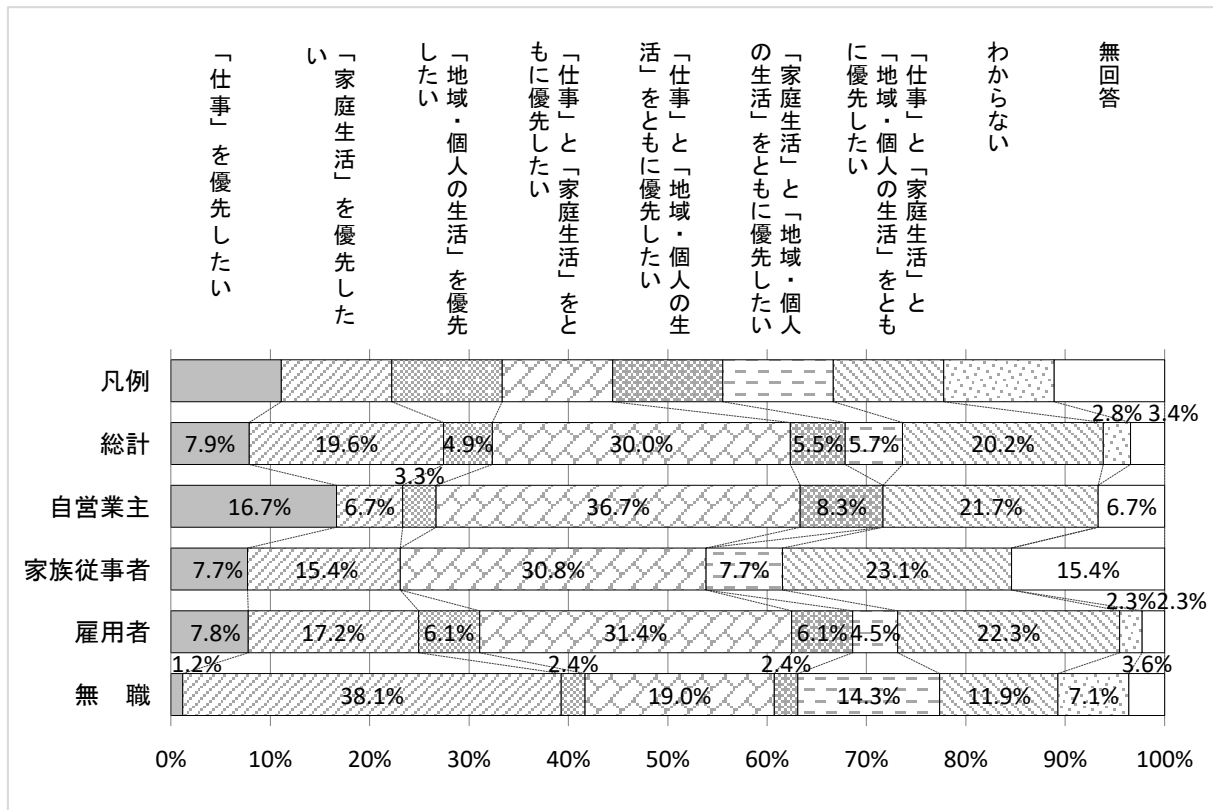
性・年代別でみると、「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい」との回答は、女性では、50 歳代と 60 歳代、男性では、20 歳代から 50 歳代がともに 3 割の回答となっている。「家庭生活を優先したい」との回答は、女性の 20 歳代から 40 歳代が多くなっている。

職業別でみると、自営業主・家事従事者・雇用者ともに全体での回答と同様の傾向を示しているが、自営業主で、「仕事」を優先したいが若干多くなっている。また、無職において「家庭生活」を優先したい」との回答が他の類型と比べて多くなっている。

【図表 5-1 男女の仕事、家庭生活、地域活動の優先度（全体・性別）】



【図表 5-2 男女の仕事、家庭生活、地域活動の優先度（全体・職業別）】



【図表 5-3 男女の仕事、家庭生活、地域活動の優先度（クロス集計表）】

		回答者数	「仕事」を優先したい	「家庭生活」を優先したい	先「地域・個人の生活」を優先したい	「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	わからない	無回答	
		上段: 回答数(人) 下段: 構成比(%)										
総計		470 100.0%	37 7.9%	92 19.6%	23 4.9%	141 30.0%	26 5.5%	27 5.7%	95 20.2%	13 2.8%	16 3.4%	
性・年代別	女性	264 100.0%	13 4.9%	66 25.0%	9 3.4%	74 28.0%	10 3.8%	19 7.2%	51 19.3%	10 3.8%	12 4.5%	
	20歳代	34 100.0%	2 5.9%	10 29.4%	3 8.8%	8 23.5%	3 8.8%	3 8.8%	3 8.8%	2 5.9%	0 0.0%	
	30歳代	58 100.0%	2 3.4%	21 36.2%	0 0.0%	13 22.4%	0 0.0%	8 13.8%	11 19.0%	3 5.2%	0 0.0%	
	40歳代	63 100.0%	1 1.6%	18 28.6%	3 4.8%	17 27.0%	2 3.2%	3 4.8%	14 22.2%	2 3.2%	3 4.8%	
	50歳代	65 100.0%	3 4.6%	14 21.5%	1 1.5%	23 35.4%	3 4.6%	2 3.1%	12 18.5%	0 0.0%	7 10.8%	
	60歳代	43 100.0%	5 11.6%	3 7.0%	2 4.7%	13 30.2%	2 4.7%	2 4.7%	11 25.6%	3 7.0%	2 4.7%	
	男性	206 100.0%	24 11.7%	26 12.6%	14 6.8%	67 32.5%	16 7.8%	8 3.9%	44 21.4%	3 1.5%	4 1.9%	
	20歳代	26 100.0%	2 7.7%	3 11.5%	3 11.5%	10 38.5%	1 3.8%	2 7.7%	4 15.4%	1 3.8%	0 0.0%	
	30歳代	32 100.0%	3 9.4%	8 25.0%	2 6.3%	10 31.3%	3 9.4%	1 3.1%	5 15.6%	0 0.0%	0 0.0%	
	40歳代	50 100.0%	3 6.0%	7 14.0%	7 14.0%	19 38.0%	3 6.0%	2 4.0%	9 18.0%	0 0.0%	0 0.0%	
	50歳代	55 100.0%	5 9.1%	5 9.1%	2 3.6%	19 34.5%	4 7.3%	1 1.8%	16 29.1%	1 1.8%	2 3.6%	
	60歳代	42 100.0%	11 26.2%	3 7.1%	0 0.0%	8 19.0%	5 11.9%	2 4.8%	10 23.8%	1 2.4%	2 4.8%	
	職業別	自営業主	60 100.0%	10 16.7%	4 6.7%	2 3.3%	22 36.7%	5 8.3%	0 0.0%	13 21.7%	0 0.0%	4 6.7%
		家族従事者	13 100.0%	1 7.7%	2 15.4%	0 0.0%	4 30.8%	0 0.0%	1 7.7%	3 23.1%	0 0.0%	2 15.4%
雇用者		309 100.0%	24 7.8%	53 17.2%	19 6.1%	97 31.4%	19 6.1%	14 4.5%	69 22.3%	7 2.3%	7 2.3%	
無職		84 100.0%	1 1.2%	32 38.1%	2 2.4%	16 19.0%	2 2.4%	12 14.3%	10 11.9%	6 7.1%	3 3.6%	

(2) 男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動へ積極的に参加するために必要なこと

【問 18】あなたは、今後、男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。
(複数回答・3つ以内)

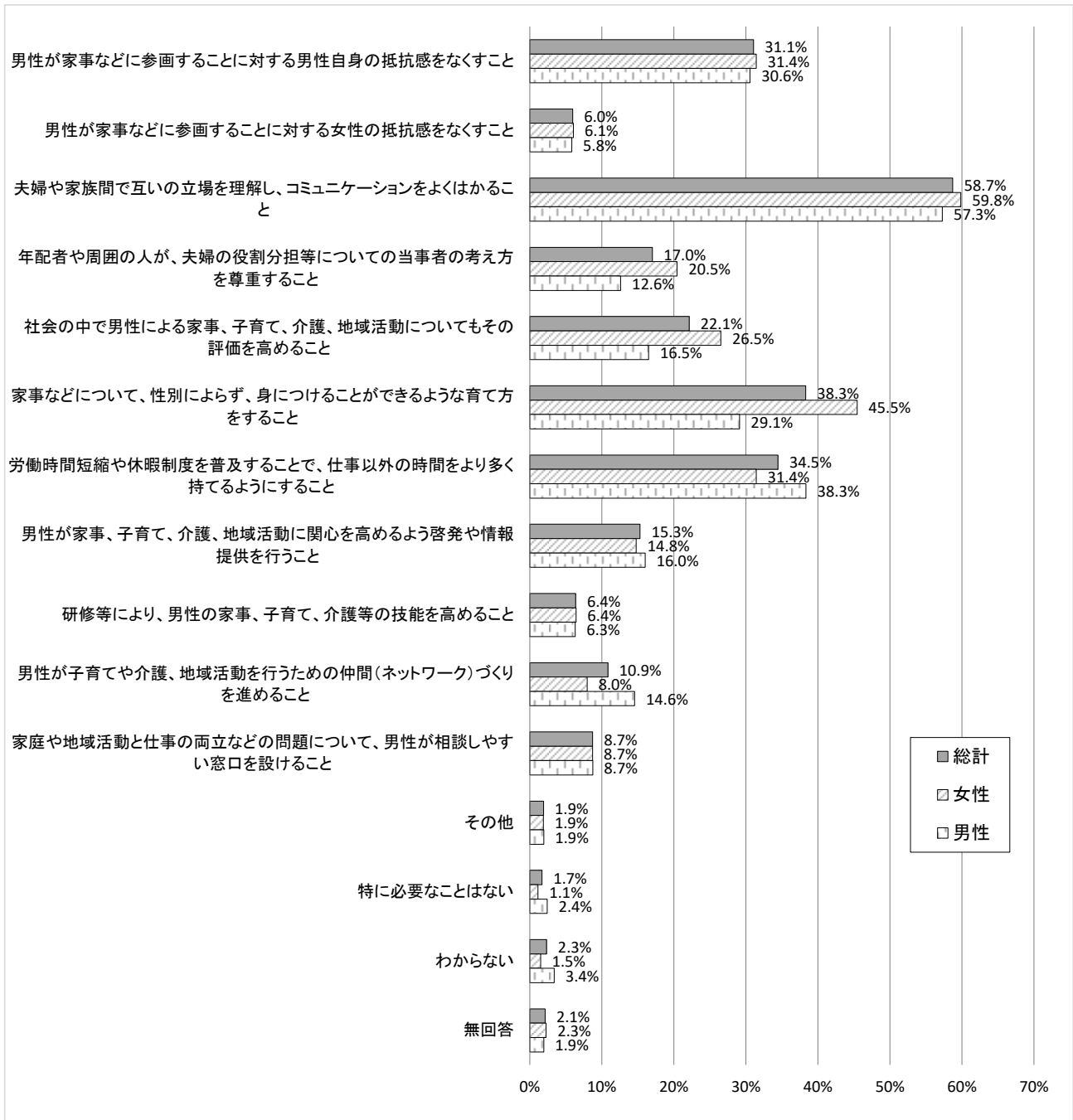
全体でみると、「夫婦や家族間で互いの立場を理解し、コミュニケーションをよくはかること」との回答が58.7%で最も多く、次いで「家事などについて、性別によらず、身につけることができるような育て方をすること(38.3%)」、「労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること(34.5%)」の順となっている。

性別でみると、全体での回答と同様の傾向を示しており、特に大きな差異はみられないが、「労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」との回答では男性が女性に比べ多くなっている一方、「家事などについて、性別によらず、身につけることができるような育て方をすること」との回答で16.4ポイント、「社会の中で男性による家事、子育て、介護、地域活動についてもその評価を高めること」との回答で10ポイント、それぞれ女性が男性に比べて多くなっている。

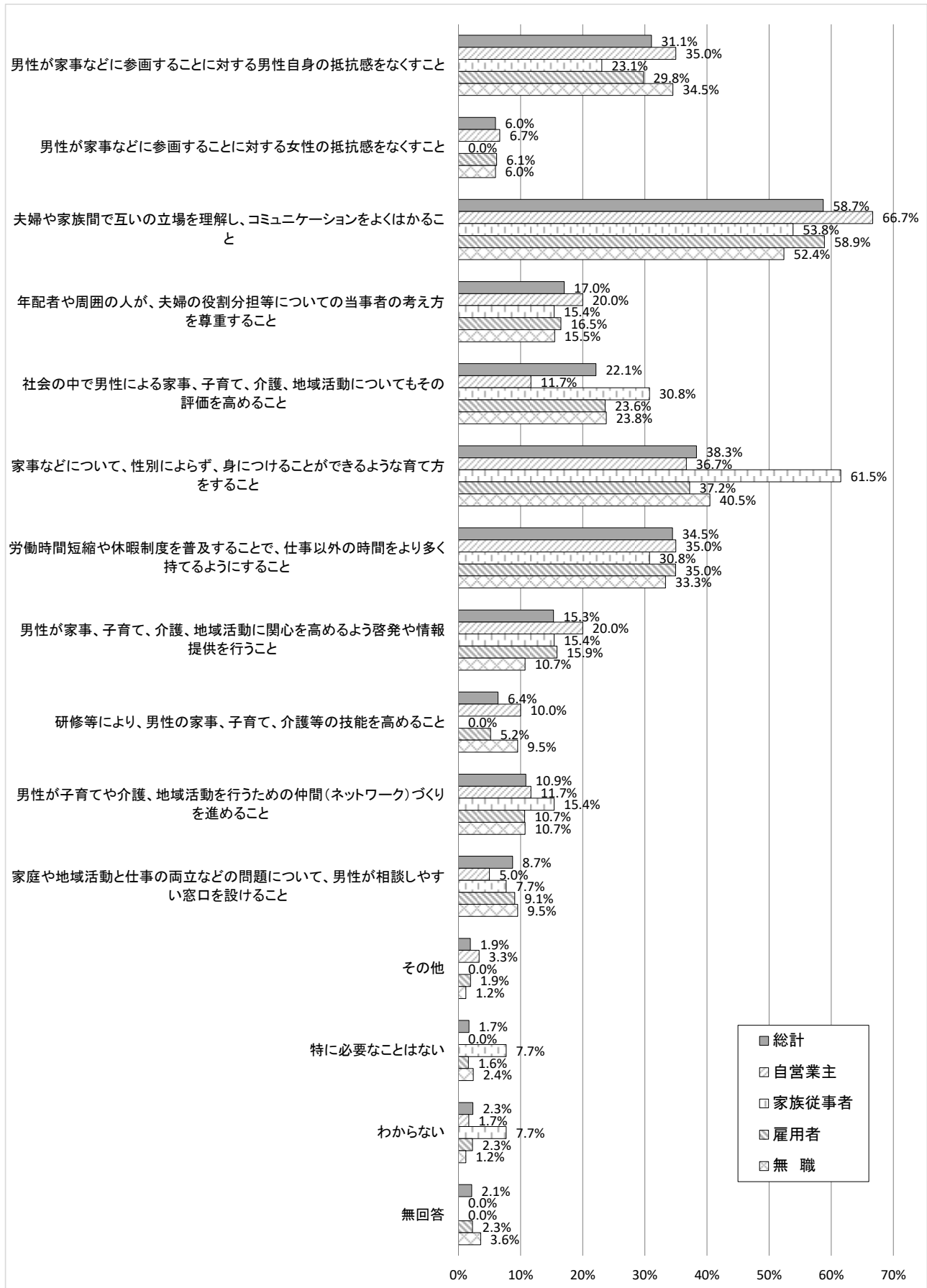
性・年代別でみると、「夫婦や家族間で互いの立場を理解し、コミュニケーションをよくはかること」との回答が、男女どの年代においても50~70%台となっている。また、「労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」との回答は、女性の20~30歳代、男性の20~50歳代が多く、「家事などについて、性別によらず、身につけることができるような育て方をすること」との回答は、女性の50歳代、60歳代が多くなっている。

職業別でみると、全体での回答と同様の傾向を示しているが、特に、家事従事者で「家事などについて、性別によらず、身につけることができるような育て方をすること」との回答が、他の類型と比べて多くなっている。

【図表 5-4 男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動へ積極的に参加するために必要なこと
（全体・性別）】



【図表 5-5 男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動へ積極的に参加するために必要なこと
(全体・職業別)】



【図表 5-6 男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動へ積極的に参加するために必要なこと（クロス集計表）】

	回答者数	男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動へ積極的に参加するために必要なこと									
		男性が家事などに参加することを拒否すること	男性が家事などに参加することを拒否すること	男性が家事などに参加することを拒否すること	男性が家事などに参加することを拒否すること	男性が家事などに参加することを拒否すること	男性が家事などに参加することを拒否すること	男性が家事などに参加することを拒否すること	男性が家事などに参加することを拒否すること	男性が家事などに参加することを拒否すること	男性が家事などに参加することを拒否すること
総計	470	146	28	276	80	104	180	162	72	30	
	-	31.1%	6.0%	58.7%	17.0%	22.1%	38.3%	34.5%	15.3%	6.4%	
女性	264	83	16	158	54	70	120	83	39	17	
	-	31.4%	6.1%	59.8%	20.5%	26.5%	45.5%	31.4%	14.8%	6.4%	
20歳代	34	13	3	19	5	12	15	14	0	3	
	-	38.2%	8.8%	55.9%	14.7%	35.3%	44.1%	41.2%	0.0%	8.8%	
30歳代	58	18	4	35	16	13	26	25	4	1	
	-	31.0%	6.9%	60.3%	27.6%	22.4%	44.8%	43.1%	6.9%	1.7%	
40歳代	63	18	2	32	15	16	26	17	11	4	
	-	28.6%	3.2%	50.8%	23.8%	25.4%	41.3%	27.0%	17.5%	6.3%	
50歳代	65	19	5	39	12	21	33	19	16	4	
	-	29.2%	7.7%	60.0%	18.5%	32.3%	50.8%	29.2%	24.6%	6.2%	
60歳代	43	15	1	33	6	7	20	8	8	5	
	-	34.9%	2.3%	76.7%	14.0%	16.3%	46.5%	18.6%	18.6%	11.6%	
男性	206	63	12	118	26	34	60	79	33	13	
	-	30.6%	5.8%	57.3%	12.6%	16.5%	29.1%	38.3%	16.0%	6.3%	
20歳代	26	8	1	14	1	6	5	10	6	4	
	-	30.8%	3.8%	53.8%	3.8%	23.1%	19.2%	38.5%	23.1%	15.4%	
30歳代	32	14	1	16	6	2	13	16	0	2	
	-	43.8%	3.1%	50.0%	18.8%	6.3%	40.6%	50.0%	0.0%	6.3%	
40歳代	50	12	2	34	5	9	11	20	10	1	
	-	24.0%	4.0%	68.0%	10.0%	18.0%	22.0%	40.0%	20.0%	2.0%	
50歳代	55	15	3	29	8	12	14	23	10	2	
	-	27.3%	5.5%	52.7%	14.5%	21.8%	25.5%	41.8%	18.2%	3.6%	
60歳代	42	13	5	24	6	4	17	10	7	4	
	-	31.0%	11.9%	57.1%	14.3%	9.5%	40.5%	23.8%	16.7%	9.5%	
自営業主	60	21	4	40	12	7	22	21	12	6	
	-	35.0%	6.7%	66.7%	20.0%	11.7%	36.7%	35.0%	20.0%	10.0%	
家族従事者	13	3	0	7	2	4	8	4	2	0	
	-	23.1%	0.0%	53.8%	15.4%	30.8%	61.5%	30.8%	15.4%	0.0%	
雇用者	309	92	19	182	51	73	115	108	49	16	
	-	29.8%	6.1%	58.9%	16.5%	23.6%	37.2%	35.0%	15.9%	5.2%	
無職	84	29	5	44	13	20	34	28	9	8	
	-	34.5%	6.0%	52.4%	15.5%	23.8%	40.5%	33.3%	10.7%	9.5%	

	回答者数	男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動へ積極的に参加するために必要なこと					
		を（ネット）を進めること	男性が子育てや介護、地域活動に参加すること	窓、開口、立、庭、など、家の構造や設備を改善すること	その他	特に必要なことはない	わからない
総計	470	51	41	9	8	11	10
	-	10.9%	8.7%	1.9%	1.7%	2.3%	2.1%
女性	264	21	23	5	3	4	6
	-	8.0%	8.7%	1.9%	1.1%	1.5%	2.3%
20歳代	34	2	4	0	0	0	0
	-	5.9%	11.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
30歳代	58	2	4	2	0	2	1
	-	3.4%	6.9%	3.4%	0.0%	3.4%	1.7%
40歳代	63	2	2	3	2	1	2
	-	3.2%	3.2%	4.8%	3.2%	1.6%	3.2%
50歳代	65	10	8	0	1	0	2
	-	15.4%	12.3%	0.0%	1.5%	0.0%	3.1%
60歳代	43	5	5	0	0	1	1
	-	11.6%	11.6%	0.0%	0.0%	2.3%	2.3%
男性	206	30	18	4	5	7	4
	-	14.6%	8.7%	1.9%	2.4%	3.4%	1.9%
20歳代	26	6	1	0	0	1	1
	-	23.1%	3.8%	0.0%	0.0%	3.8%	3.8%
30歳代	32	6	2	2	0	1	1
	-	18.8%	6.3%	6.3%	0.0%	3.1%	3.1%
40歳代	50	7	7	0	1	1	1
	-	14.0%	14.0%	0.0%	2.0%	2.0%	2.0%
50歳代	55	2	5	1	1	3	0
	-	3.6%	9.1%	1.8%	1.8%	5.5%	0.0%
60歳代	42	9	3	1	3	1	1
	-	21.4%	7.1%	2.4%	7.1%	2.4%	2.4%
自営業主	60	7	3	2	0	1	0
	-	11.7%	5.0%	3.3%	0.0%	1.7%	0.0%
家族従事者	13	2	1	0	1	1	0
	-	15.4%	7.7%	0.0%	7.7%	7.7%	0.0%
雇用者	309	33	28	6	5	7	7
	-	10.7%	9.1%	1.9%	1.6%	2.3%	2.3%
無職	84	9	8	1	2	1	3
	-	10.7%	9.5%	1.2%	2.4%	1.2%	3.6%

6. 男女の人権について

(1) 配偶者や親しい異性から暴力や嫌がらせを受けた経験

※これまでに結婚したことのある方のみ回答

【問 19】あなたは、これまでに、あなたの配偶者から次のようなことをされたことがありますか。（ここでの「配偶者」には、婚姻届けを出していない事実婚や別居中の夫婦、元配偶者も含みます）（項目ごとに単一回答）

【全体】

全体でみると、配偶者や親しい異性から暴力や嫌がらせを受けた経験が“一度でもあった”（「1、2度あった」＋「何度もあった」）との回答は25.5%であった。

性別でみると、女性で33.4%、男性で15.0%となっており、女性の3割が「あった」と回答している。

また、暴力の種類でみると、“身体に対する暴行”「なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなど身体に対する暴行を受けた」で17.1%、“精神的な嫌がらせ・脅迫”「人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせを受けた、あるいは、あなたもしくはあなたの家族に危害を加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた」で14.8%、“性的な行為の強要”「いやがっているのに性的な行為を強要された」で10.6%となっている。

【① なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなど身体に対する暴行を受けた】

身体に対する暴行の経験があったとの回答については、女性で21.1%、男性で11.8%となっている。

【② 人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせを受けた、あるいは、あなたもしくはあなたの家族に危害を加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた】

精神的な嫌がらせ・脅迫の経験があったとの回答については、女性で17.7%、男性で11.1%となっている。

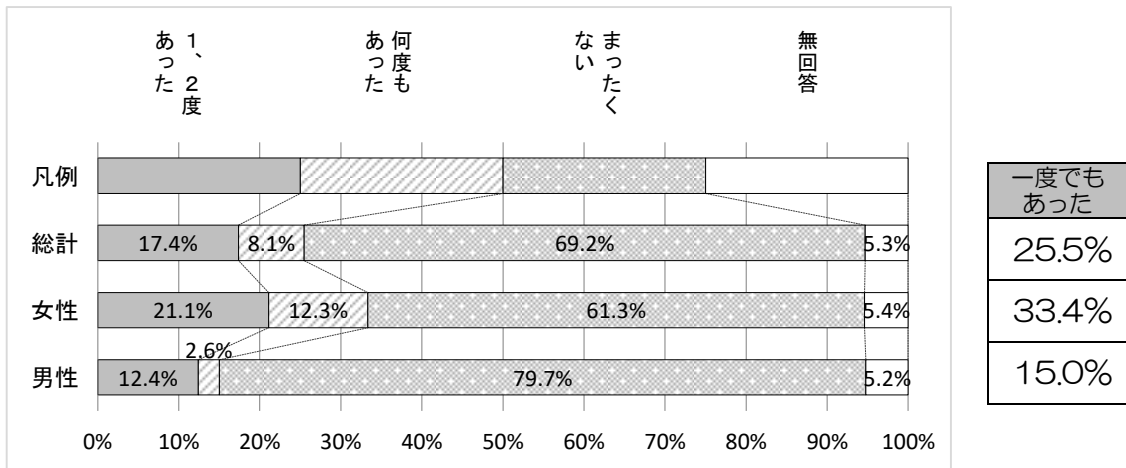
【③ いやがっているのに性的な行為を強要された】

性的な行為の強要の経験があったとの回答については、女性で16.7%、男性で2.6%となっている。

①、②、③の暴行の種類いずれにおいても、“一度でもあった”との回答が、男性より女性が多い。特に、「嫌がっているのに性的な行為を強要された」では、男性に比べ女性の回答が非常に高くなっている（14.1ポイントの差）

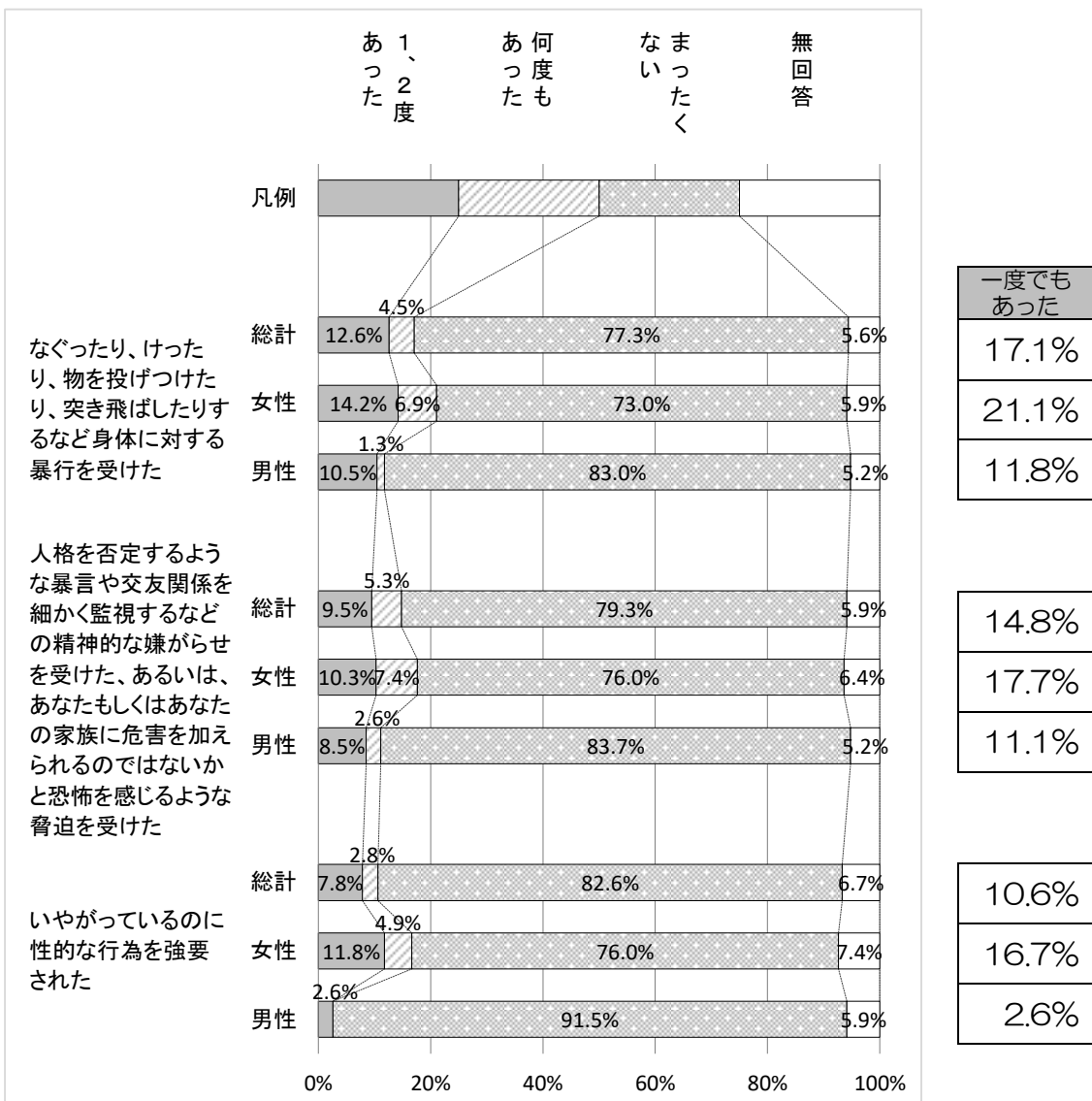
性・年代別にみると、①、②、③、いずれの暴行の種類でも、女性は各年代で大きな差はみられないが、“精神的な嫌がらせ・脅迫”が“一度でもあった”のが、30歳代女性の回答が若干多い。

【図表 6-1 配偶者や親しい異性から暴力や嫌がらせを受けた経験（全体・性別）】



一度でもあった
25.5%
33.4%
15.0%

【図表 6-2 配偶者や親しい異性から暴力や嫌がらせを受けた経験（全体・暴力種類別）】



一度でもあった
17.1%
21.1%
11.8%

14.8%
17.7%
11.1%

10.6%
16.7%
2.6%

【図表 6-3 配偶者や親しい異性から暴力や嫌がらせを受けた経験（クロス集計表）】

		上段: 回答数(人) 下段: 構成比(%)	回 答 者 数	あ っ た 2 度	あ 何 っ 度 た も	な ま い っ た く	無 回 答
総 計		357 100.0%	62 17.4%	29 8.1%	247 69.2%	19 5.3%	
性・年代別	女 性	204 100.0%	43 21.1%	25 12.3%	125 61.3%	11 5.4%	
	20歳代	8 100.0%	1 12.5%	2 25.0%	5 62.5%	0 0.0%	
	30歳代	43 100.0%	11 25.6%	9 20.9%	23 53.5%	0 0.0%	
	40歳代	48 100.0%	8 16.7%	6 12.5%	32 66.7%	2 4.2%	
	50歳代	62 100.0%	15 24.2%	3 4.8%	42 67.7%	2 3.2%	
	60歳代	42 100.0%	8 19.0%	5 11.9%	22 52.4%	7 16.7%	
	男 性	153 100.0%	19 12.4%	4 2.6%	122 79.7%	8 5.2%	
	20歳代	8 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	6 75.0%	2 25.0%	
	30歳代	22 100.0%	3 13.6%	1 4.5%	18 81.8%	0 0.0%	
	40歳代	39 100.0%	6 15.4%	2 5.1%	30 76.9%	1 2.6%	
	50歳代	44 100.0%	4 9.1%	1 2.3%	37 84.1%	2 4.5%	
	60歳代	39 100.0%	6 15.4%	0 0.0%	30 76.9%	3 7.7%	

【図表 6-4 「なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなど身体に対する暴力を受けた」経験（クロス集計表）】

		上段: 回答数(人) 下段: 構成比(%)	回 答 者 数	あ っ た 2 度	あ 何 っ 度 た も	な ま い っ た く	無 回 答
総 計		357 100.0%	45 12.6%	16 4.5%	276 77.3%	20 5.6%	
性・年代別	女 性	204 100.0%	29 14.2%	14 6.9%	149 73.0%	12 5.9%	
	20歳代	8 100.0%	2 25.0%	0 0.0%	6 75.0%	0 0.0%	
	30歳代	43 100.0%	7 16.3%	4 9.3%	31 72.1%	1 2.3%	
	40歳代	48 100.0%	4 8.3%	6 12.5%	36 75.0%	2 4.2%	
	50歳代	62 100.0%	10 16.1%	2 3.2%	48 77.4%	2 3.2%	
	60歳代	42 100.0%	6 14.3%	2 4.8%	27 64.3%	7 16.7%	
	男 性	153 100.0%	16 10.5%	2 1.3%	127 83.0%	8 5.2%	
	20歳代	8 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	6 75.0%	2 25.0%	
	30歳代	22 100.0%	2 9.1%	0 0.0%	20 90.9%	0 0.0%	
	40歳代	39 100.0%	6 15.4%	1 2.6%	31 79.5%	1 2.6%	
	50歳代	44 100.0%	3 6.8%	1 2.3%	38 86.4%	2 4.5%	
	60歳代	39 100.0%	5 12.8%	0 0.0%	31 79.5%	3 7.7%	

【図表 6-5 「人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせを受けた、あるいは、あなたもしくはあなたの家族に危害を加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた」経験（クロス集計表）】

		回答者数	あ っ た 2 度	あ 何 っ 度 た も	な ま い っ た く	無 回 答
上段:回答数(人) 下段:構成比(%)						
総計		357 100.0%	34 9.5%	19 5.3%	283 79.3%	21 5.9%
性・年代別	女性	204 100.0%	21 10.3%	15 7.4%	155 76.0%	13 6.4%
	20歳代	8 100.0%	0 0.0%	2 25.0%	6 75.0%	0 0.0%
	30歳代	43 100.0%	8 18.6%	6 14.0%	29 67.4%	0 0.0%
	40歳代	48 100.0%	5 10.4%	4 8.3%	36 75.0%	3 6.3%
	50歳代	62 100.0%	5 8.1%	2 3.2%	53 85.5%	2 3.2%
	60歳代	42 100.0%	3 7.1%	1 2.4%	30 71.4%	8 19.0%
	男性	153 100.0%	13 8.5%	4 2.6%	128 83.7%	8 5.2%
	20歳代	8 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	6 75.0%	2 25.0%
	30歳代	22 100.0%	3 13.6%	1 4.5%	18 81.8%	0 0.0%
	40歳代	39 100.0%	6 15.4%	2 5.1%	30 76.9%	1 2.6%
	50歳代	44 100.0%	2 4.5%	1 2.3%	39 88.6%	2 4.5%
	60歳代	39 100.0%	2 5.1%	0 0.0%	34 87.2%	3 7.7%

【図表 6-6 「いやがっているのに性的な行為を強要された」経験（クロス集計表）】

		回答者数	あ っ た 2 度	あ 何 っ 度 た も	な ま い っ た く	無 回 答
上段:回答数(人) 下段:構成比(%)						
総計		357 100.0%	28 7.8%	10 2.8%	295 82.6%	24 6.7%
性・年代別	女性	204 100.0%	24 11.8%	10 4.9%	155 76.0%	15 7.4%
	20歳代	8 100.0%	1 12.5%	1 12.5%	6 75.0%	0 0.0%
	30歳代	43 100.0%	8 18.6%	1 2.3%	33 76.7%	1 2.3%
	40歳代	48 100.0%	3 6.3%	5 10.4%	37 77.1%	3 6.3%
	50歳代	62 100.0%	8 12.9%	0 0.0%	52 83.9%	2 3.2%
	60歳代	42 100.0%	4 9.5%	3 7.1%	26 61.9%	9 21.4%
	男性	153 100.0%	4 2.6%	0 0.0%	140 91.5%	9 5.9%
	20歳代	8 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	6 75.0%	2 25.0%
	30歳代	22 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	22 100.0%	0 0.0%
	40歳代	39 100.0%	1 2.6%	0 0.0%	37 94.9%	1 2.6%
	50歳代	44 100.0%	2 4.5%	0 0.0%	40 90.9%	2 4.5%
	60歳代	39 100.0%	1 2.6%	0 0.0%	34 87.2%	4 10.3%

(2) 男女間における暴力を防止するために必要なこと

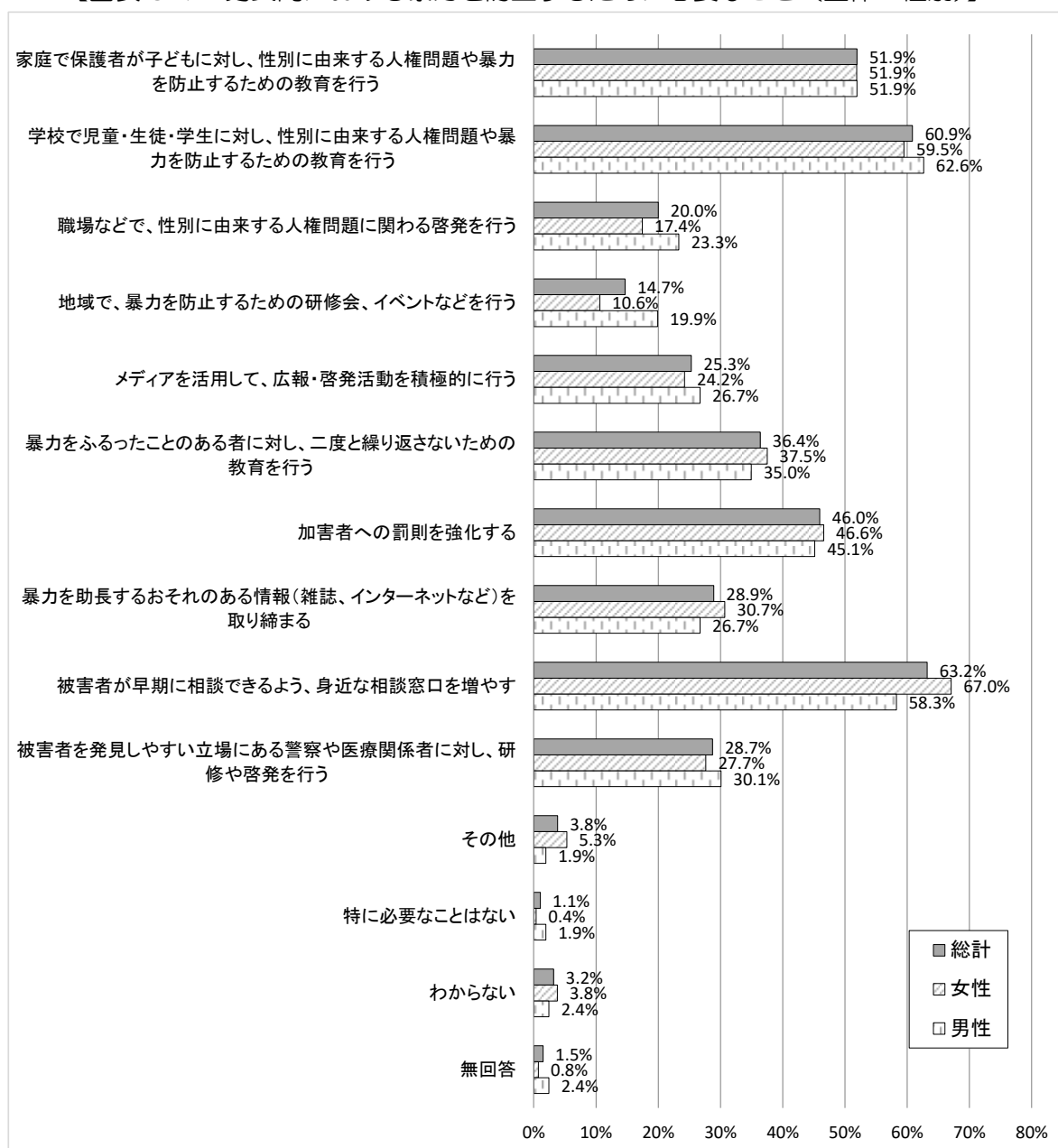
【問 20】あなたは、男女間における暴力を防止するためには、今後、どのようなことが必要だと思いますか。（複数回答）

全体でみると、「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」との回答が63.2%と最も多く、次いで「学校で児童・生徒・学生に対し、性別に由来する人権問題や暴力を防止するための教育を行う（60.9%）」、「家庭で保護者が子どもに対し、性別に由来する人権問題や暴力を防止するための教育を行う（51.9%）」の順となっている。

性別でみると、全体での回答と同様の傾向を示しており、特に大きな差異はみられないが、「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」の女性の回答が、男性を8.7ポイント上回っている。

性・年代別にみると、「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」との回答は、20歳代女性（79.4%）、30歳代女性（77.6%）が、他の類型と比べて多くなっている。

【図表 6-7 男女間における暴力を防止するために必要なこと（全体・性別）】



【図表 6-8 男女間における暴力を防止するために必要なこと（クロス集計表）】

		回答者数	対し、性暴力を防止する人	家庭で保護者が子どもに	学校で児童・生徒・学生	職場などで、性別に関わる	職業などで、性別に関わる	発行人権問題に由来	地域で、暴力を防止する	ための研修会、イベント	行報メディアを活用して、	う返さないため、二つのあ	る加害者への罰則を強化す	ある情報（雑誌、インターネットなど）を取り
上段：回答数（人） 下段：構成比（%）														
総計		470	244 51.9%	286 60.9%	94 20.0%	69 14.7%	119 25.3%	171 36.4%	216 46.0%	136 28.9%				
性・年代別	女性	264	137 51.9%	157 59.5%	46 17.4%	28 10.6%	64 24.2%	99 37.5%	123 46.6%	81 30.7%				
	20歳代	34	12 35.3%	17 50.0%	6 17.6%	5 14.7%	6 17.6%	11 32.4%	17 50.0%	13 38.2%				
	30歳代	58	33 56.9%	40 69.0%	13 22.4%	4 6.9%	12 20.7%	20 34.5%	32 55.2%	18 31.0%				
	40歳代	63	33 52.4%	37 58.7%	10 15.9%	5 7.9%	19 30.2%	29 46.0%	34 54.0%	15 23.8%				
	50歳代	65	35 53.8%	37 56.9%	12 18.5%	10 15.4%	21 32.3%	25 38.5%	26 40.0%	19 29.2%				
	60歳代	43	23 53.5%	26 60.5%	5 11.6%	4 9.3%	6 14.0%	14 32.6%	13 30.2%	16 37.2%				
	男性	206	107 51.9%	129 62.6%	48 23.3%	41 19.9%	55 26.7%	72 35.0%	93 45.1%	55 26.7%				
	20歳代	26	13 50.0%	14 53.8%	6 23.1%	2 7.7%	7 26.9%	12 46.2%	11 42.3%	6 23.1%				
	30歳代	32	21 65.6%	21 65.6%	5 15.6%	6 18.8%	3 9.4%	11 34.4%	14 43.8%	5 15.6%				
	40歳代	50	27 54.0%	34 68.0%	15 30.0%	13 26.0%	16 32.0%	17 34.0%	25 50.0%	8 16.0%				
	50歳代	55	29 52.7%	35 63.6%	14 25.5%	10 18.2%	20 36.4%	20 36.4%	30 54.5%	21 38.2%				
	60歳代	42	17 40.5%	25 59.5%	8 19.0%	10 23.8%	9 21.4%	12 28.6%	13 31.0%	15 35.7%				

		を増やす	被害者が早期に相談でき	行う	場にある警察や医療関係	被害者を発見しやすい立	その他	特に必要なことはない	わからない	無回答
上段：回答数（人） 下段：構成比（%）										
総計		297 63.2%	135 28.7%	18 3.8%	5 1.1%	15 3.2%	7 1.5%			
性・年代別	女性	177 67.0%	73 27.7%	14 5.3%	1 0.4%	10 3.8%	2 0.8%			
	20歳代	27 79.4%	15 44.1%	1 2.9%	0 0.0%	1 2.9%	0 0.0%			
	30歳代	45 77.6%	20 34.5%	5 8.6%	0 0.0%	2 3.4%	0 0.0%			
	40歳代	35 55.6%	19 30.2%	4 6.3%	0 0.0%	2 3.2%	1 1.6%			
	50歳代	44 67.7%	14 21.5%	3 4.6%	0 0.0%	3 4.6%	0 0.0%			
	60歳代	25 58.1%	5 11.6%	1 2.3%	1 2.3%	2 4.7%	1 2.3%			
	男性	120 58.3%	62 30.1%	4 1.9%	4 1.9%	5 2.4%	5 2.4%			
	20歳代	13 50.0%	9 34.6%	1 3.8%	0 0.0%	0 0.0%	1 3.8%			
	30歳代	17 53.1%	8 25.0%	1 3.1%	0 0.0%	2 6.3%	0 0.0%			
	40歳代	30 60.0%	16 32.0%	0 0.0%	1 2.0%	0 0.0%	0 0.0%			
	50歳代	39 70.9%	19 34.5%	1 1.8%	1 1.8%	2 3.6%	2 3.6%			
	60歳代	21 50.0%	10 23.8%	1 2.4%	2 4.8%	1 2.4%	1 2.4%			

7. 男女共同参画社会について

(1) 「男女共同参画社会」を形成していくために市が力を入れるべきこと、「男女共同参画社会」の実現に向けた意見・要望（自由意見）

【問21】「男女共同参画社会」を形成していくために、今後市はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。また「男女共同参画社会」の実現に向けて、ご意見・ご要望などがありましたら、ご自由にお書きください。（自由意見）

■男女共同参画に対する意識について

- 男なら理系、女なら文系というような固定概念なく得意な分野を見つけてそれを伸ばし、将来、自由にのびのびと発揮できるといいな、と思うので、自分らしくいられる町（市）になってくれたらいいなと思う。育児・介護が家事や仕事の負担にならないようになることは理想である。（女性・20歳代）
- 社会や家庭で行っている何気ないことが、男性もしくは女性だけが行っているのではないかと考える機会があると良いのでは。私は社会に出て、初めてお茶くみが女性の仕事であることに驚いた。子どもだけでなく大人にも男女が平等であるかどうか考える機会が必要だと思う。（女性・20歳代）
- よくわからないが、男性と女性が協力していける社会がいいと思う。（女性・20歳代）
- 他人の意見を否定せず、男性も女性も自由に発言し認め合い、受け入れ、協力し合い、話し合い、より良くなるために、どうしていくべきかというコンセプトなら、素晴らしい社会になると思う。（女性・30歳代）
- 男女が平等に社会生活を送るには、どうしても出産育児の問題にぶつかると思う。女性がリーダーとして社会を引っ張っていてもいいと思うが、出産となってしまうとどうしても仕事を離れなければならない。そういう面でやはり男性がリーダーとして立場に立つべきなのかと思う。だからといって男性が優位に立つのは考えものだ。トップに立つ人間が男女共同参画社会に対しての知識を身につけ、職場のバランスをとったり、知識を周知することが大事だと思う。（女性・30歳代）
- 男女共同参画社会のメリットがわからない。（家庭からみたときの）男は男、女は女、違う生き物。家事や子育てなど生産性が分かりにくいことを軽くあつかっているように思える。（女性・30歳代）
- 奄美市に関して言うならば、やはり女性が前に出ることにに対して「気分的に良くないと思っているのだな」と感じるものがまだまだ多い。（特に中高年の男性に対して）仕事をさくさく進めることを優先するならば男女の差に対する感情に振り回されるよりは聞き流して自分でした方が早いと思ってしまうのが現実。（女性・40歳代）
- 奄美市はまだまだだと思う。最近は男性のスーパーでの買い物も増えてきているが、外で待っていたり、急がすなど男性有利な状況がまだみられる。家事・育児における男性の積極的な参加を認める会社が増えることを願う。（女性・50歳代）
- 奄美の「男が偉い」という慣習をなくしていく努力をすること。意識を変えていくために女性の市長や役職の人をもっと積極的に取り入れていくべきだと思う。（女性・50歳代）
- メディアでは、男女平等が当たりまえのように言われているが、奄美の各集落内はまだまだ男尊女卑が根深い、特に行事のあるときに強く思う。（女性・50歳代）
- 男とか女とかで表現されていること自体がどうかと思う（女性・50歳代）
- 現社会においては、男性が優位と思われるのが実情だと思う。出産後女性側が育児・家庭

と全体の比較は高いと個人的に思っています。対等性をとる社会に向けて理解するのが課題と考えます。(女性・50歳代)

- 男性が、女性が、ではなく今できることをお互いにやっていったらいいのではないか。例えば家事にしても女性がではなく、男性ができるのであれば子どもの世話にしても掃除洗濯にしてもその時できる人がやったらうまく事が運ぶのではないか。(女性・60歳代)
- 全ての場面において何でも男女平等とばかり耳にしますが、男性と女性の「らしさ」を助長し、区別することは重要だと思います。それをもって社会においての評価であったり、対等であることが大切と思う。(男性・30歳代)
- 男女共同参画社会を形成していくためには、それぞれの意識改革が必要と考える。子どものうちからの教育と今の大人が子どもたちに姿勢を示すことで、近い将来実現するのではないか。(男性・40歳代)
- 男・女がすべて平等というのも損得勘定的発想のように思う。人間も哺乳類という動物の為、それぞれの役割というものもあると思う。理屈では解決出来ないことが多々あると思う。このままでは人間という生態系が崩れてしまう。(男性・50歳代)
- 男女一人一人がそれぞれの意思が尊重されるように今後も不断の努力を続けていくことが、大事だと思います。(男性・50歳代)
- 男性の意識改革。(男性・60歳代)
- 昔に比べたら、家事を分担する夫婦が増え素晴らしいことだと感じている。(男性・60歳代)

■男女共同参画社会の形成について

- 「男女共同参画社会」という言葉を使う必要がなくなるよう、人が性差なく、一人の人間として扱われる社会になるといい。しかしながら、特に家庭では、男女の役割が違う。それを理解し、片方に偏らないよう、当たり前になり思われる常識を、これからの子どもたちには教えていきたい。(女性・30歳代)
- 育児・家事・介護・仕事と女性への負担が大きい世の中で、時間をかけてでも少しずつ女性に優しい社会になってほしい。(女性・30歳代)
- 男女では心身の能力に違いがある。それを活かすような生き方が重要かと思う。現状では、より良い生活のために女性も働かざるを得ない。専業主婦でいられるような経済力のある夫はそう多くないと思う。真の男女共同参画とは、内体的性別によるものではなく、各個人の希望と身心の能力による働き方の一致だと思う。専業主婦、主夫を希望する人はそうできるようにパートナーの収入が多くなるような社会になるといいだろうし、社会に出て外で働くことが好きな人は男女問わず専念して働けるようになるといいと思う。また、小・中学生のころから、「大人になったら出産・子育て・介護について、お互いに協力し、理解し合うことが大切」と教育する。(女性・40歳代)
- 男性・女性、それぞれの得意な点を伸ばしていければいいと思う。足の引っ張り合いをするようなレベルの低い会合等は望ましくない。(女性・40歳代)
- 夫婦世帯で生活するのが主流の現代社会では、出産直後から母親ひとりで育児をすることになり、母親の育児の負担は“当たり前”で、その負担を意見する場もなく、「おっぱいが出ないから男には育児は無理！！」と思いつみ、言い放ち、育児から遠ざかっていく風潮を変えていかなければ、男女共同参画社会の実現は難しいと思う。また、企業も「その人しかできない仕事」が減り、お互いが休みを取りやすい、働きやすい風通しの良い環境ができていく事にもなるのではないかとと思う。(女性・40歳代)

- 2020～30年に30%の女性進出などでうたわれているが、女性が進出するためには家庭が犠牲にならないことが大切。器用に家庭と仕事が両立することは、大変難しいと思う。実際自分が経験し育児休暇をとりながら現在も仕事ができているので、私は職場に大変恩を感じているとともに、夫へも大変感謝している。夫が洗濯物、洗い物などしてくれているので帰って夕食がすぐにとりかかれたり、お互いもうまくいっている。(女性・50歳代)
- 妊娠・出産・育児のある女性のサポートが充実しない限り共同参画は大変ですね。力と財力、余暇のある年配層の人の協力がますます必要だと思います。(女性・50歳代)
- 世の中、社会は男性が優遇され男女平等は2年ほど前より叫ばれているが女性の管理者も少しずつ増加にある(近年は、女性の正社員登用が増えやっとな男女平等の線がみえた感がある)。(内閣の大臣にも2～3人登用ある)長距離トラックの運転に多い女性登用もこの近年の男女平等社会の現れがある。自衛隊にも女性管理者が多い。本当の男女平等共同社会願います。10人の管理者のうち5人は女性登用があるように。(女性・60歳代)
- 問20の相談窓口など、どこに相談したらいいかわからない人も多いと思う。(女性・年齢不明)
- 最低賃金の引き上げ、子育て世代に対する優遇措置を充実させ家族で過ごす時間や休暇を過ごすことのできる消費や購買意欲の向上を図るべきだと考える。家庭を充実させることで暴力をなくすことができるのではないかと。家庭内のストレスの軽減こそ働く意欲に繋がると考える。(男性・20歳代)
- 地域や社会での生活を充実させる具体的な提案をしていくべきだと思います。「仕事」「家庭」で充実することを考えるべきだと思います。まずは社会が連動して地域格差をなくしていければいいと思います。(男性・40歳代)
- 市議会議員に女性枠を設けるべき。また、女性にも男性に対するセクハラを教育する。暴力問題を起こすことが多い人は数年毎に講習会受講を義務化。(男性・50歳代)
- DV根絶を願っています。(男性・50歳代)
- 現代において、自分の家庭において、男女が差別を受けているとか不平等だとかはまったく思わない。ただ本来もっている男性女性の性格や感情的なものには違いがあることは当然であるし、それはお互いに尊重するべきだなと思います。最近あまりにも男女共同とか言うほど、差別はないと思っています。(男性・50歳代)
- 女性優遇策はある意味差別であるので、男女が平等に社会参画できるような政策が必要ではないか(男性・50歳代)
- 男女共同参画社会を形成するために、優しく迎え入れ手取り足取りサポート支援して参加しやすい場を持つことが必要だと思います。金銭負担の無いことも視野に！(男性・50歳代)
- 男性からみた考え方や女性から見た考え方があり、男女共同参画社会は必要だと思います。(男性・50歳代)
- 地域格差による風習、慣習をなくすことによって平等参画につながります。奄美(鹿児島)では、未だに男尊女卑にあると考えます。メディアも活用して広域的な活動に考慮してほしい。(男性・50歳代)
- 今の活動を継続していければいいと思います。(男性・60歳代)
- 我々一般労働者は、男女共同参画社会という気持ちはあっても、経済的・時間的余裕がなく、日々に追われている状況。(男性・60歳代)

■就業について

- 男性でも“当たり前”に育児休暇が取れる社会にしてほしい。主人は休む事ができず、疑問を感じた。女性ばかりがする育児は子どもにとっても父親という存在を感じにくいし、男性も育児に不慣れすぎになると考える。(女性・20歳代)
- 育児休暇やその他の休暇を使える雰囲気と制度を整備するよう職場に働きかける。存在するだけで使えなければ意味がない。(女性・30歳代)
- 主人は土木業の仕事をしているが残業が多くいつも22時ごろ帰宅している。残業代もなく家族5人の生活費は全然足りない。帰りが遅いので子育てにも全く参加できず、5ヶ月の子供がいるが子ども3人の育児と家事を一人でしている。残業をさせないか、残業代をつけるよう土木業でもしっかり取り締まってほしい。(女性・30歳代)
- 出産後働きやすい環境を万全にしてもらいたい。低価格の保育所の提供や短時間勤務の充実を図ってほしい。(女性・30歳代)
- 男性(夫)が子育てに積極的に参加できるように、職場の理解が必要だと思う。特に島の場合は、育児休暇や産休を男の人がとるのは無理がある。女性は、出産子育てで働くことができない期間があり、その際に職場に気を使うし妊婦の時も周りの何気ない一言で働きづらくなる。職場復帰も待機児童の問題も、子どもがいるという理由で雇ってもらいづらくなる。田舎だから、都会のようなスムーズな対応は難しいと思うが、奄美市の女性が働きやすく、子育て出産に前向きになれるようになってほしい。(女性・30歳代)
- 小さな子どもがいると、やむを得ず急な休みや早退をせざるをえない。しかし、意外と同性である女性、殊に年配の方からは、良い反応は得られず、ストレスのもととなることが多々ある。また、女性の昇進に関して、子育てについてくる問題等で、あきらめる場合もあるのではと思う。(女性・30歳代)
- まだまだ育児は女性に負担がかかる社会であるので、子どもが病気になっても預けられる環境、会社の子育ての理解、男性でも育児で休めるような環境づくりが必要であると思う。(女性・30歳代)
- リーダーが休暇を率先して取る。休むこともクオリティの高い仕事をするために大事なことであるという社会意識の変革。子どもを育てるということが最も尊い仕事であるという社会の理解。(女性・30歳代)
- 在宅・短時間勤務・フレックスタイム等の制度が充実すると、子育てや介護中の方々も働きやすいと思う。大島紬の活性化や賃金向上があると、機織りをしたいという希望を持つ子育て中の女性も意外と多い。(女性・40歳代)
- 奄美市は、共働きが多い状況にあると思う(働かないと教育資金が貯められないなどの理由によって)。職業柄、男女の不平等の差はあまり感じないが、長時間労働のため、家庭のことに時間がかけられず、日々追われている状況。労働時間の短縮、年休がとりやすい環境があると、精神的にもゆとりができるのではと思う。仕事を続ける上では子どもを安心してみてもらえる場所があると助かる(保育所の待機児童の解消など)。(女性・40歳代)
- 会社の上層部の方々の意識を変えるための研修会の開催。子育て世代に対する周囲の理解や寛容が大事だと思う。(女性・40歳代)
- 女性を管理職に就かせること。(女性・40歳代)
- 正職員など年齢制限があり、女性でシングルマザーとなると、臨時の仕事しかなく、賃金

も安いため、生活が大変である。男性の所得も低く、賃金を上げることも奄美では必要なのではないか。(女性・40歳代)

- 男性も必ず最低1ヶ月は育休をとる制度を設けてみては、と思う。女性だって職に就いていれば同じように長期離職(育休)しないとイケないのだから。(女性・40歳代)
- 女性が働く上で家庭をもっているとどうしても超勤による時間的な部分で家庭平和と職場環境にも影響してくるので環境づくりが大切だと思います。(女性・50歳代)
- 若い時は男女同じように働くことが出来ているが、年配になると、女性の方が多くアルバイトなどされていると感じる。(女性・60歳代)
- 奄美は全体的に所得が低い世帯が多く、共働きの家庭も多いですが、夫が主に仕事を担っている割合が多く、妻は子どもを預けたり、学校に行っている間の時間でパートに入ったりしています。子どもが小さいうちはすぐ体調を崩して保育所等から連絡がきて仕事を途中で抜けたり休んだりしてしまう状況の際に、職場に負担にならないような職場環境でないと「男女共同参画社会」の形成は難しいと思います。(男性・30歳代)
- 市民と各会社の人事担当者と社長と意見会を開く。(男性・30歳代)
- 印象感情で判断しながら職務にあたられることが続くと、周囲は疲れてしまう。社会的法的に冷静に判断できることが多いとより働きやすくなると思います。(男性・40歳代)
- 女性も男性に比べたら肉体的に無理なところは仕方がないが、甘えずに仕事を積極的にしてほしい。(男性・50歳代)

■男女共同参画に関する教育について

- 大人(特に高齢者)の意識を変えるのは難しいのではないかと。感覚的に生理的に受け付けられないということもあるのは仕方がないこと。大人への普及・啓発より子どもへの教育に力を入れてほしい。(女性・30歳代)
- 子どもたちにその感覚・考え方を伝えていくことが大切ではないかと思う。世代間の感覚の違いだろうか、「娘は、家の家事をやって当たり前」ということにうんざりする。しっかり自分のたちの年代にも引き継がれてしまっている。(女性・30歳代)
- 転勤で奄美に来たが、シングルマザーが多くてびっくりしている。子育てしながらフルタイムで働いていて、生活を支えている姿をみると男性の意識の低さが残念である。小さい頃から、家事、育児に興味をもてる環境があれば大人になった時にも自分のことだと受け入れやすくなるのでは、と思う。(女性・30歳代)
- 小さい頃から料理やその他の家事をやる習慣を身につけ、男だから女だからという考えをなくすためにも、幼少の頃からの教育が大切だと思う。大人になってからいくら研修やセミナーをしてもあまり意味がないと思う。(女性・40歳代)
- 子どもの頃からの意識づけが必要である。(女性・50歳代)
- 学校教育における男女共同対等にすべき。奄美市は他の市に比べ遅れていると思う。例えば、男女混合名簿(50音順 or 誕生日順)、性別による仕事役割分担をなくす、男女協力して仕事をするように、卒業式入学式の入場退場の仕事、男が先女が後とかなくす、朝会等での整列の仕方、男女混合にする、学習発表会での性別によって分けることなど。(女性・50歳代)
- 小・中・高校で「男女共同参画社会」についての教育をやってほしい。奄美の未来を背負う人たちが、性別に関わりなく、個性で能力を発揮でき、幸せな人生を歩むことができるようになってほしい。(女性・50歳代)
- 名簿を『男子から』ではなく、混合名簿にするなど、大人も子どもも身近で小さなことか

らでも取り組めたらと考える。(女性・50歳代)

- 幼少期より専門的な教育が必要であると思います。(女性・40歳代)
- 男女ともコミュニケーションの技法を学び続ける人間的成長を目指して学び続けること。学んだあとの証は変わること。(女性・60歳代)
- お互いを尊重できる人格形成等義務教育での道徳を重視、人を敬うことの重要性。(男性・40歳代)
- 学校教育においては男女で区別するものとそうでないものを学ぶ。男女が入り混じった状態が当たり前前の教育をしていく。並び方、名簿、対等な構成員として教育が必要(男性・40歳代)
- 学校現場や職場において講演・啓発活動を行っていくようバックアップすること(男性・40歳代)
- 小中学校の教育の中で、子ども達に意識付けを行って、男女共同参画社会があたりまえであるという世代を育てていって頂きたい。我々の世代は十分に理解はしていますが、社会基盤としてまだ未熟だと思えます。教育が重要です。(男性・40歳代)
- 小さい頃の正しい教育によって知識が養われると思うので、学生の啓発が重要だと思う。(男性・40歳代)
- 学校教育によって浸透を図る。(男性・50歳代)
- 学校で生徒に対して講師を派遣して講演を行う(男性・50歳代)
- 一朝一夕には文化しきたり等社会の全てが理想の男女共同参画社会になりにくいので少しずつ教育(公務員、家庭教育、社会での教育)でよりよい社会をつくりあげていくことになるのだと思えます。(男性・60歳代)
- 子どもの教育をする。女性が仕事に就いたら家庭の家事も良くすること(男性・60歳代)
- 社会的に自分の個性と能力を知ることから始まり伸ばしていくための教育・研修が大事だと思えます。(男性・60歳代)

■男女共同参画に向けた啓発活動について

- 年配の方々には、男尊女卑的な考えの方がまだまだ多いと感じる。将来の男女平等な社会の実現のためには、お互いが理解し合い思いやりを持って協力し合うような、教育や体験を、学校のみならず家庭でも教えていく必要があると思う。(女性・40歳代)
- 「男女共同参画社会」の内容を分かりやすく説明し、実存する例を評価し、広報する。(女性・50歳代)
- 市民一人ひとりが正しい知識と理解を持ち幅広いことに関心を持ちながら自分自身を高めていくことが大事であり必要だと感じる。(女性・50歳代)
- 男女共同参画社会は、言葉はよく耳にしますが、理解されていない方が多いと思う。講演等を開催して皆にわかるようにしてほしい。(女性・50歳代)
- 広報活動を行う。(女性・50歳代)
- 男女が互いに意見交換できるイベントがあれば面白いのでは?!(女性・50歳代)
- 男女共同参画社会といった場合、それは今の(男性によって動く)社会制度に立っただけで女性の社会進出の機会を増やしましょうとっているように思えます。その意味でいうならば、現在の社会制度の立場から新しい制度を組み立てていけばいい。しかし、男女が自由意思によって共に社会を動かしていく仕組みを組み立てるのであれば、男と女がお互いに違いを認め合った上で社会をつくらなければならない、教育におけるアプローチが最も近道だと思えます。(男性・30歳代)

- 職場等において、子育て等理解しやすい環境をつくる。家庭において、女性の1日の生活（炊事・洗濯・掃除等）を男性に理解してもらい、研修等を行う。また、男性の1日の仕事内容等も女性に理解を求める研修を行いそれぞれの立場を理解してもらう。（男性・60歳代）

■子育てについて

- 子育て世代だが、子どもが急に体調を崩すとまず母である私が休む、どうしても休めない事情があれば夫が休む、どちらも休めない時には祖母に頭を下げて預かってもらうようにしている。体調不良が数日にわたると職場にも申し訳なく気が重い。ぜひ病児保育の導入を検討してほしい（中央病院の病後児保育は定員が少なくなかなか利用ができない）。（女性・30歳代）
- 最近は「育メン」という言葉も耳にするようになってきたが、社会全体ではまだまだ女性が家事・育児を担う傾向が強い。社会全体に男性も家事・育児をして当然という意識が浸透することを願う。また、育児をしていく上で負担になる保育料の問題の改善策として、気軽に子どもを預けられる場所などがほしい。（女性・30歳代）
- 私は子どもを産み育てるならば、やはりその事を中心とした社会を考えないといけないと思う。産めば他人に育ててもらうのではなく親の愛情が伝わる何かを子どもに幼い時から、生まれた時から、与えないといけないと思う。子どもがある程度大きくなってからでは遅い。子どもが親を必要としている時期は、親は子どもに余裕をもって接してやるべき。（女性・50歳代）
- 保育施設の充実など、育児について環境整備を行うことはもちろんのこと、男性が積極的に家事・育児に参加するため、男性が育児休業取得について企業に支援・啓発を行うことが必要だと思います。また、民間企業に対して市が範を示していくためにも、男性市役所職員の育児休業取得率向上及び女性市役所職員の幹部職員登用について、積極的に推進する必要があるのではないのでしょうか（男性・30歳代）
- 子育て支援分野の充実（男性・50歳代）

■男女共同参画に向けた行政に取り組みについて

- 会社で女性は結婚・出産時に辞める風習のようなものがまだ残っているところが多々あると思う。市全体でそのような流れを少しでも軽減する取り組みがあればいいなと思う。（女性・20歳代）
- 保育所の充実。待機児童をなくす。主婦の働きやすい職場の提供。（女性・20歳代）
- 男女共同参画社会の実現に向けて、現在奄美市がどのようなことを行っているのかわからないので何とも言えない。もし自分に子どもができれば時間をあまり気にせず預けられる保育園があればいいと思う。今の仕事は時間通りに終わらないので、他のスタッフの仕事が残っているのに先に帰って子どもを迎えに行くとなるととても気を使ってしまうから。（女性・20歳代）
- 「男女共同参画社会を形成していくために～」という文言を使用することで、「まだ形成されていない」、「その意識が無くてもOK」という印象にもなりかねない。男女が同じであるということが当たり前という前提にすれば、今時“男が～”、“女が～”という事自体“ダサッ”て感じになるのではないかと思う。役所も女性職員が多いにも関わらず、管理職は男性の多さが目につく。役所がまず率先して、性別関係なく、能力を平等に評価して行ってほしい。（女性・30歳代）

- (DVの) 被害者が逃げられるような場所を増やす。(女性・30歳代)
- 男女共同参画社会という割に、市のセミナー等は託児所もなく、子供連れはダメ、時間は長いなど、小さい子どもを持つ親は参加ができない。男女共同参画社会じゃないじゃないか。(女性・40歳代)
- 補助事業に頼らず(税金を使わず)草の根的な活動に力を入れたらどうでしょうか(このような調査方法は何度もしていると思うので)(女性・40歳代)
- 子育てしながら働ける環境づくり(保育園、病児保育の増設)、子育て支援の充実(女性・40歳代)
- 保育所に入れない子供がたくさんいる。母親は、仕事に出たくてもあきらめなければならぬ状況。男性は働けて、女性は働けない事こそ不平等ではないかと思う。(女性・50歳代)
- 市役所で女性が部長になられた方がいらっしゃいますか(女性・60歳代)
- まだまだ改善されるべきところはたくさんあると思うが、数年前に比べると大きく変わってきていると思う。時代の流れもLGBTも含め少しずつ改善されていくと思う。男女間の格差、差別、区分の問題は、もっと時間をかけるべきだと思うので、大部分は社会にゆだね、自治体には、経済的な発展だけではなく、市民が、住みよいまちづくりに力を入れてもらえれば、市民の多少の不平不満も解消していけるのではないかと思う。(男性・30歳代)
- DV等の避難施設の確立。権利意識の排除(一部の職員)(男性・40歳代)
- 奄美市職員の割合を男女平等にすること(男性・40歳代)
- まずは女性市長が誕生できるように行政教育をしたらどうか(男性・40歳代)
- 近隣の方々へ挨拶をしても挨拶ができない市の職員の方が見受けられます。人として挨拶は、大変大事であると思います。近い将来、世界自然遺産登録され、多くの方々に来島されるかと思っています。地域のコミュニケーションが大変大事になっていくと思いますので、市民の模範としてお声かけ、アドバイス等よろしくお願い致します。(男性・50歳代)
- 市民部だけの問題ではないので、全体的に取り組むために総務(奄美市全体)部に置いた方が良いと思います(男性・50歳代)
- 市役所の男女の比率を5対5にする位でやってみてはどうでしょうか。そしたら平等!(男性・50歳代)
- まずは市職員の意識改革から始めましょう(男性・50歳代)
- 市役所に女性を半分入れること(男性・60歳代)
- 女性議員の数を増やす工夫をする。女性の働く職場を増やす(男性・60歳代)

■その他

- 男女共同参画なので特に、最初に尋ねる性別には「その他」を追加してもよいのではないかと思う。または「戸籍上の」という文言を付け加えるだけでも感じ方は変わってくると思う。性別の順番も男→女に固定しなくてもいいし、女性側が傷付いたり必要のない負担を背負わされすぎているか、周囲の人達と話していて心配になることも多い。すべての人が暮らしやすい社会としていけるよう行政の力も期待している。(女性・20歳代)
- 経済的理由で進学をあきらめることが無いよう、すべての子どもが進学できるような支援を行う。奄美市に学校ができれば、専門的な知識を学ぶ機会を持てる人が、奄美で男女差なく増え、働くことにつながり、定住者の増加にもつながるのでは。(女性・30歳代)

- 些細なことだが、いろいろなところで「父兄」という言葉を使わないでほしい。代わりに保護者と。広がるといいです。飲み会の時、女の人が忙しく働いて男はゆっくり座って飲んでるっていうのはダメだと思う。(女性・40歳代)
- 女性が今後活躍する(していく)ことは、非常に良い事だと思うが、この計画について、男性の率直な意見も女性に理解してもらわないと、互いに歩み寄れないのではないかと思う。(女性・40歳代)
- 人権問題を含め、立場の弱い方々も、地域社会で陽気に笑って生きていけるよう、自治会から地域へ、そして地域から各家庭へあらゆる状況事情を伝え、共有し、助け合っていくことができればと思う。(女性・40歳代)
- 地域活動への参加の強制が強い気がする。もっと個人の生活も優先・選択できるようになってほしい。(女性・40歳代)
- 夫婦の収入が安定していれば仲良くもなるし安心して子育てもできると思う。収入があっても遊技場等に入ったり金銭的感覚が乏しくなると心にゆとりがなくなり暴力的になったり仲が悪くなると思う。収入の中での生活は大変なことが多いと思うが遊技場をなくしたり教育費等を減らしたり(無料化)したり、無料で遊べる公園を増やしたり、無料とまではいかないにしても低料金で遊べる施設を増やせばゆとりも生まれるのではないかと思う。(女性・50歳代)
- 政治への参加が少ないように思う。もっと女性の立場のわかるような政治、社会になったら子育て、出産も前向きに考えると思う。(女性・60歳代)
- 昔は、女性は弱者の身であり、家庭を守る身だったが、ここ近年、女性が社会で、職場で、政治経済の分野で大きく羽ばたくようになり、男女ともに責任を担う社会になってきた。21世紀は「女性の時代」という名言がある。これからはもっともっとあらゆる分野で女性が活躍されることを願うばかりである。(女性・60歳代)
- 自分にできることを多く見つけ積極的に行うようにしたいと思います。(女性・60歳代)
- レディースプランやレディースデイがあるのになんでメンズプランやメンズデイがないのかが不満です(男性・30歳代)
- 夫が記入出来ない事情があり妻が回答しました。この意見が反映されることを願っています。(男性・40歳代)
- 地域活動と個人の生活はまったく別物です。正しい質問を心がけてください(男性・40歳代)
- 意識調査こそ一歩前進です。ぜひいい方向へ進んでほしいものです。(男性・50歳代)
- 解答の内容がわかりにくく途中から「わからない」となりました。もう少し分かりやすい内容と質問、回答を記入お願いします。また、男女平等という言葉がすでに平等ではないと思います。その言葉があること自体おかしい。(男性・50歳代)
- 世間がいい話題、住宅、暮らしのできる市でいこう(男性・50歳代)

資料 調査票





奄美市男女共同参画に関する市民意識調査のお願い

市民の皆様には日頃より市政にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

さて、奄美市では、本年度より、奄美市男女共同参画基本計画後期計画に基づき、男女共同参画社会の形成に向けて市の施策を進めております。

男女共同参画社会は、市民の皆さん一人ひとりが、性別にかかわらず、個人として尊重され、安心して、それぞれの場で意欲に応じて個性と能力が発揮できる社会であり、その実現が、一人ひとりの夢や希望が叶う豊かな暮らしをもたらすと期待されます。

その豊かな暮らしの実現のために、男女共同参画に係る市の施策・サービスの充実を図ることを目指し、この度、「奄美市男女共同参画に関する市民意識調査」を実施することとなりました。

この調査は、住民票から無作為で抽出した20歳以上の市民1,500名の方々にご意見をうかがうものです。


あなた様もその一人として調査をお願いすることになりましたので、お忙しいところ大変恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力いただきますようよろしくお願い申し上げます。

なお、調査の回答は、無記名で、すべて統計数字として取りまとめ処理をいたしますので、個人の秘密が漏れたり、ご迷惑をお掛けすることは一切ございません。仕事や日頃の暮らしの中で感じる思いや考えをご回答ください。

平成29年10月

奄美市長 朝山 毅

【ご記入にあたってのお願い】

- アンケートは、封筒の宛名の方（ご本人）がご記入ください。本人によるご記入が困難な場合は、ご家族などが本人から聞き取って、代筆をお願いします。
- 回答は、この調査票に、黒色又は青色のボールペンや鉛筆にて直接ご記入ください。
- アンケートは、あてはまる選択肢の番号を○で囲んでいただく場合がほとんどです。もし、間違えて記入した場合は、その番号に×をつけて訂正し、改めてあてはまる番号に○をつけてください。
- 設問によって、1つだけ選んでいただく場合と、複数選んでいただく場合があります。また、該当する方のみにお答えいただく設問は、 マークを入れています。各設問の説明に従ってお答えください。
- 項目で、その他を選ぶ場合は、() になるべく具体的にその内容を記入してください。

ご記入いただきました調査票は、無記名のまま、同封の返信用封筒（切手を貼る必要はありません）に入れて、11月2日（木）までにご返送ください。

【お問い合わせ先】

実施機関 奄美市市民部市民協働推進課

電話 0997-52-1111内線1737 F A X 0997-52-1001

調査委託先 (有)リサーチ&コンサルティング鹿児島

電話 099-226-5676

F A X 099-221-0270



平成 29 年度奄美市男女共同参画に関する市民意識調査

はじめに、お答えいただいた回答を統計的に分析するため、あなた自身のことについてお尋ねします。

問 1 あなたの性別をお尋ねします。(○は1つ)

- 1 男性 2 女性

問 2 あなたの年齢をお尋ねします。(○は1つ)

- 1 20歳代 2 30歳代 3 40歳代
4 50歳代 5 60歳代

問 3 あなたは現在、結婚されていますか。(○は1つ)

※この調査でいう「結婚」には、婚姻の届出はしていないが、事実上婚姻関係と同様の事情にあること(事実婚)を含みます。

- 1 結婚している 2 離別・死別 3 未婚

問 4 あなたの世帯の状況は、次のどれにあてはまりますか。(○は1つ)

- 1 単身世帯
2 夫婦世帯
3 二世帯世帯(親と子など)
4 三世帯世帯(親と子と孫など)
5 その他(具体的に：)



現在結婚されている方にお尋ねします。それ以外の方は問 6 へお進みください。

問 5 ご夫婦の職業の有無についてお尋ねします。(○は1つ)

※職業とは、自営業主、家族従業者、雇用者(常勤、パート、アルバイト、内職等を含む)等のことをいいます。

- 1 どちらも職業がある
2 自分のみ職業がある
3 配偶者のみ職業がある
4 どちらも職業がない

問 6 あなたのお住まいはどちらですか。(○は1つ)

※住民票に届け出ている住所をお答えください。

- 1 名瀬地区 2 住用地区 3 笠利地区

I 男女平等の意識について

問7 あなたは、次のような分野で男女の地位が平等になっていると思いますか。
 ①～⑥のそれぞれについて、右欄の1～6の中からあなたの考えに最も近い番号を
 1つずつお選びください。

選択項目	優遇されている 男性の方が非常に 優遇されている	どちらかといえば 男性の方が優遇さ れている	平等である	どちらかといえば 女性の方が優遇さ れている	優遇されている 女性の方が非常に 優遇されている	わからない
※①～⑥の項目ごとに 右の数字を選んでください。 (〇は1つずつ)						
①家庭の中で	1	2	3	4	5	6
②学校教育の中で	1	2	3	4	5	6
③職場の中で	1	2	3	4	5	6
④地域社会の中で	1	2	3	4	5	6
⑤法律や制度で	1	2	3	4	5	6
⑥社会通念、慣習・しきたりなどで	1	2	3	4	5	6

II 就業について

問8 一般的に女性が職業を持つことについて、あなたはどのようにお考えですか。
 次の1～6の中からあなたの考えに最も近い番号を1つだけお選びください。

- | |
|--|
| 1 女性は職業をもたないほうがよい
2 結婚するまでは、職業をもつ方がよい
3 子どもができるまでは、職業を持つ方がよい
4 子どもができても、ずっと職業を続ける方がよい
5 子どもができたら職業をやめ、子どもが大きくなったら再び職業を持つ方がよい。
6 その他（具体的に：) |
|--|

問9 あなたのご職業を次の1～11の中から1つだけお選びください。

- | | | | |
|------|---|-------|--------------------------------------|
| 自営業主 | { 1 農林漁業
2 商工サービス業
3 その他の自営業 | 家族従事者 | { 4 農林漁業
5 商工サービス業
6 その他の家族従業者 |
| 雇用者 | { 7 常勤の勤め（社員、職員等）
8 非常勤の勤め（パート、アルバイト、臨時職員、嘱託等） | | |
| 無職 | { 9 主婦・主夫
10 学生
11 その他の無職 | | |

 問9で無職「9」～「11」と回答された方にお尋ねします。

問10 あなたはどのような形で働きたいですか。次の1～9の中から1つだけお選びください。

- 1 常勤（フルタイム）
 - 2 常勤（短時間勤務，フレックスタイム制）
 - 3 パートタイム，アルバイト，嘱託
 - 4 契約社員，派遣社員
 - 5 在宅勤務
 - 6 事業経営
 - 7 家事に従事
 - 8 働くつもりはない（働くことができない場合を含む）
 - 9 その他（具体的に： _____）
- ※ 回答後，問14にお進みください。

 問9で雇用者「7」または「8」と回答された方にお尋ねします。

問11 あなたの職場では，性別によって処遇が異なりますか。
次の1～12の中からいくつでもお選びください。

- 1 募集・採用の機会に格差がある
- 2 賃金に格差がある
- 3 女性に補助的な業務や雑用（お茶汲み等）に従事させる傾向がある
- 4 昇進，昇格に格差がある
- 5 管理職への登用に差がある
- 6 結婚や出産時に退職する慣例や雰囲気がある
- 7 中高年女性には退職を促すような雰囲気がある
- 8 社内研修や教育訓練・出張や視察などの機会に差がある
- 9 育児休業や介護休業の取り易さに差がある
- 10 同じ職場で夫と妻が共に働いている場合，どちらかが働き続けにくい雰囲気がある
- 11 その他（具体的に： _____）
- 12 特に性別により処遇が異なっていることはない

 問9で「雇用者」 「7」または「8」と回答された方にお尋ねします。

問 12 あなたは、職場でリーダー・管理職になりたいですか。あなたの気持ちに最も近い番号を次の1~9の中から1つだけお選びください。

- 1 自分の能力を発揮したいので、リーダー・管理職になりたい
- 2 賃金が上がるので、リーダー・管理職になりたい
- 3 責任が重くなるので、リーダー・管理職になりたくない
- 4 仕事と家庭の両立が困難になるので、リーダー・管理職になりたくない
- 5 自分の能力に自信がないので、リーダー・管理職になりたくない
- 6 雇用条件等で、リーダー・管理職になる可能性はない
- 7 男女の性差で、リーダー・管理職になる可能性はない
- 8 現在リーダー・管理職である
- 9 特に希望はない
- 10 その他（具体的に： _____)

 問9で「雇用者」 「7」または「8」と回答された方にお尋ねします。

問 13 あなたの職場は、子育てや介護等の家庭の事情を抱えながら、働きやすい職場ですか。あてはまるものをいくつでもお選びください。
※現在、子育てや介護をしていない方は、上司や同僚の状況でお答えください。

- 1 男女ともに、育児や介護で休みを取りやすい制度や雰囲気がある
- 2 育児や介護に関して職場内の理解はあるが、長期の休みは取りにくい雰囲気がある
または、離職した人がいる
- 3 男性は、育児・介護で休みを取りにくい雰囲気がある
- 4 正社員・パートなど、雇用形態によって育児や介護で休みの取りやすさに差がある
- 5 男女問わず、育児や介護で休みを取りにくい

問 14 あなたは、政治・経済・地域・職場など各分野で女性のリーダー・管理職を増やすときに障害となるものは、何だと思いますか。次の 1～10 の中からいくつでもお選びください。

- 1 現時点では、必要な知識や経験などを持つ女性が少ないこと
- 2 女性自身がリーダーになることを希望しないこと
- 3 上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性リーダーを希望しないこと
- 4 長時間労働の改善が十分でないこと
- 5 企業などにおいては、管理職になると広域異動が増えること
- 6 保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと
- 7 保育・介護の支援などの公的サービスが十分ではないこと
- 8 その他（具体的に： _____)
- 9 特にない
- 10 わからない

問 15 あなたは、女性が出産後も離職せずに同じ職場で働き続けるために、家庭・社会・職場において必要なことは何だと思いますか。次の 1～13 の中からいくつでもお選びください。

- 1 保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備
- 2 介護支援サービスの充実
- 3 家事・育児支援サービスの充実
- 4 男性の家事・育児参画への理解・意識改革
- 5 女性が働き続けることへの周囲の理解・意識改革
- 6 働き続けることへの女性自身の意識改革
- 7 男女双方の長時間労働の改善を含めた働き方改革
- 8 職場における育児・介護との両立支援制度の充実
- 9 短時間勤務制度や在宅勤務制度などの導入
- 10 育児や介護による仕事への制約を理由とした昇進などへの不利益な取扱いの禁止
- 11 その他（具体的に： _____)
- 12 特にない
- 13 わからない

Ⅲ 家庭生活について

 現在結婚している方にお尋ねします。それ以外の方は問 17 へお進みください。

問 16 あなたの家庭では、現在、次のような事柄を主に誰が行っていますか。

①～④のそれぞれについて、右欄の 1～5 の中からあてはまる番号を 1 つずつお選びください。(育児と介護・看護については、現在該当しなくても、過去の経験があればそれをもとにお選びください。該当しない場合は、「5」をお選びください。)

選択項目 ※①～④の 項目ごとに右の 数字を選んでください。 (○は 1 つずつ)	夫	妻	夫と妻が 分担	その他の 人	該当 しない
① 家事	1	2	3	4	5
② 育児	1	2	3	4	5
③ 介護・看護	1	2	3	4	5
④ 自治会、町内会、公民館 など地域活動への参加	1	2	3	4	5

Ⅳ 仕事と家庭・地域への取り組みについて

問 17 生活の中での、「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」(地域活動・学習・趣味・付き合い等)の優先度について、あなたの希望はどれに当てはまりますか。

次の 1～8 の中から 1 つだけお選びください。

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none">1 「仕事」を優先したい2 「家庭生活」を優先したい3 「地域・個人の生活」を優先したい4 「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい5 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい6 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい7 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい8 わからない |
|---|

問 18 あなたは、今後、男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。次の1～14の中から3つ以内でお選びください。

- 1 男性が家事などに参画することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと
- 2 男性が家事などに参画することに対する女性の抵抗感をなくすこと
- 3 夫婦や家族間で互いの立場を理解し、コミュニケーションをよくはかること
- 4 年配者や周囲の人が、夫婦の役割分担等についての当事者の考え方を尊重すること
- 5 社会の中で男性による家事、子育て、介護、地域活動についてもその評価を高めること
- 6 家事などについて、性別によらず、身につけることができるような育て方をすること
- 7 労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること
- 8 男性が家事、子育て、介護、地域活動に関心を高めるよう啓発や情報提供を行うこと
- 9 研修等により、男性の家事、子育て、介護等の技能を高めること
- 10 男性が子育てや介護、地域活動を行うための仲間(ネットワーク)づくりを進めること
- 11 家庭や地域活動と仕事の両立などの問題について、男性が相談しやすい窓口を設けること
- 12 その他（具体的に： _____）
- 13 特に必要なことはない
- 14 わからない

VI 男女の人権について



これまでに結婚したことのある方に、お尋ねします。

問 19 あなたはこれまでに、あなたの配偶者から次のようなことをされたことがありますか。ここでの「配偶者」には、婚姻届を出していない事実婚や別居中の夫婦、元配偶者も含まれます。次の①～③のそれぞれについて、右欄の1～3の中からあてはまる番号を1つずつお選びください。

選択項目	1, 2度 あった	何度も あった	まった くない
※①～③の項目ごとに右の数字を選んでください。(○は1つずつ)			
① なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなど身体に対する暴行を受けた	1	2	3
② 人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせを受けた、あるいは、あなたもしくはあなたの家族に危害を加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた	1	2	3
③ いやがっているのに性的な行為を強要された	1	2	3

問 20 全員にお尋ねします。

あなたは、男女間における暴力を防止するためには、今後、どのようなことが必要だと思いますか。次の1～13の中からいくつでもお選びください。

- 1 家庭で保護者が子供に対し、性別に由来する人権問題や暴力を防止するための教育を行う
- 2 学校で児童・生徒・学生に対し、性別に由来する人権問題や暴力を防止するための教育を行う
- 3 職場などで、性別に由来する人権問題に関わる啓発を行う
- 4 地域で、暴力を防止するための研修会、イベントなどを行う
- 5 メディアを活用して、広報・啓発活動を積極的に行う
- 6 暴力をふるったことのある者に対し、二度と繰り返さないための教育を行う
- 7 加害者への罰則を強化する
- 8 暴力を助長するおそれのある情報（雑誌、インターネットなど）を取り締まる
- 9 被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす
- 10 被害者を発見しやすい立場にある警察や医療関係者に対し、研修や啓発を行う
- 11 その他（具体的に： _____）
- 12 特に必要なことはない
- 13 わからない

VII 男女共同参画社会について

問 21 「男女共同参画社会」を形成していくために、今後市はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。また「男女共同参画社会」の実現に向けて、ご意見・ご要望などがありましたら、ご自由にお書きください。

※「男女共同参画社会」とは、「男女が社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を担うべき社会」です。

ご協力ありがとうございました。

ご記入漏れがないかももう一度ご確認の上、同封の返信用封筒（切手不要）に入れ、11月2日（木）までにご返送くださいますようお願いいたします。



奄美市
男女共同参画に関する市民意識調査
報告書

平成30年2月

編集・発行／調査主体 奄美市 市民部 市民協働推進課

〒894-8555 鹿児島県奄美市名瀬幸町 25-8
Tel. 0997-52-1111 (代表) Fax. 0997-52-1001
